資料

（平成十八年十一月）

第五十一回「合宿教室」（霧島）感想文集

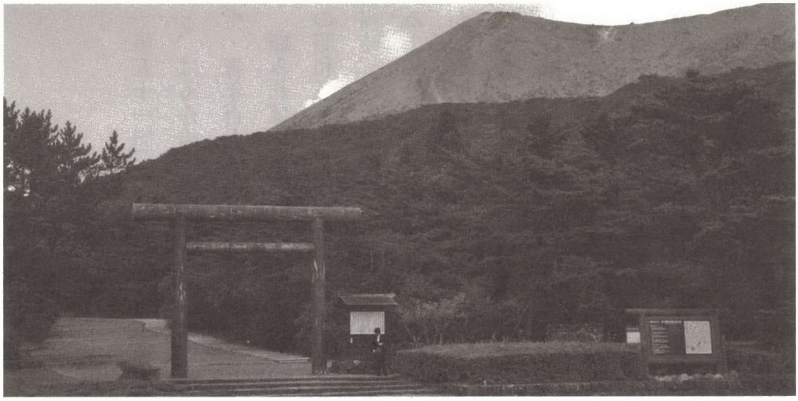
――日本人としての自覚をもとめて――

社団法人　国民文化研究会

合宿教室51回の歩み　累計参加人員　一三、五一三名

回数	年　度	開催地	参加人員	主　要　講　師
1	昭和31年	霧　島	92	広田洋二・日下藤吾・川井修治
2	〃 32年	福　岡	127	竹山道雄・高山岩男・浅野晃
3	〃 33年	佐　賀	72	勝部真長・木下彪・森三十郎
4	〃 34年	阿　蘇	160	花田大五郎・中山優・野口恒雄
5	〃 35年	雲　仙	200	木内信胤・花田大五郎・佐藤慎一郎
6	〃 36年	雲　仙	203	小林秀雄・木内信胤・津下正章
7	〃 37年	阿　蘇	215	福田恆存・木内信胤・黒岩一郎
8	〃 38年	雲　仙	202	竹山道雄・木内信胤・木下広居
9	〃 39年	桜　島	202	小林秀雄・広田洋二・木内信胤
10	〃 40年	大　分	215	岡潔・花見達二・木内信胤・夜久正雄
11	〃 41年	雲　仙	240	福田恆存・木内信胤・戸川尚
12	〃 42年	阿　蘇	336	林房雄・太田耕造・木内信胤
13	〃 43年	霧　島	353	竹山道雄・高谷覚蔵・木内信胤
14	〃 44年	阿　蘇	403	岡潔・木内信胤・木下道雄・奥田克巳
15	〃 45年	雲　仙	491	小林秀雄・木内信胤・桑原暁一
16	〃 46年	霧　島	302	村松剛・木内信胤・戸田義雄
17	〃 47年	阿　蘇	402	木内信胤・山本勝市・胡蘭成
18	〃 48年	雲　仙	433	村松剛・木内信胤・山口宗之
19	〃 49年	霧　島	528	小林秀雄・木内信胤・戸田義雄
20	〃 50年	阿　蘇	435	福田恆存・木内信胤・夜久正雄
21	〃 51年	佐世保	372	長谷川才次・村松剛・木内信胤
22	〃 52年	雲　仙	332	木内信胤・衛藤瀋吉・高木尚一
23	〃 53年	阿　蘇	440	小林秀雄・木内信胤・松本唯一
24	〃 54年	霧　島	268	木内信胤・高山岩男・山田輝彦
25	〃 55年	雲　仙	431	福田恆存・法眼晋作・宝辺正久
26	〃 56年	阿　蘇	353	齋藤忠・村松剛・青砥宏一
27	〃 57年	霧　島	321	齋藤忠・黛敏郎・幡掛正浩
28	〃 58年	雲　仙	327	齋藤忠・小堀桂一郎・長内俊平
29	〃 59年	阿　蘇	302	吉岡一郎・小堀桂一郎・加納祐五
30	〃 60年	阿　蘇	249	市原豊太・高村坂彦・小田村四郎
31	〃 61年	島　原	294	江藤淳・村松剛・小柳陽太郎
32	〃 62年	阿　蘇	269	小堀桂一郎・鈴木一・關正臣
33	〃 63年	島　原	227	児島襄・小堀桂一郎・加納祐五
34	平成元年	島　原	204	村松剛・山田輝彦・国武忠彦
35	〃 2年	阿　蘇	204	黛敏郎・小柳陽太郎・占部賢志
36	〃 3年	厚　木	244	田久保忠衛・国武忠彦・山内健生
37	〃 4年	阿　蘇	257	村松剛・平川祐弘・奥冨修一
38	〃 5年	厚　木	271	村松剛・佐伯彰一・白濱裕
39	〃 6年	阿　蘇	253	徳岡孝夫・小堀桂一郎・絹田洋一
40	〃 7年	厚　木	240	小川三夫・長谷川三千子・東中野修道
41	〃 8年	阿　蘇	171	竹本忠雄・伊藤哲夫・坂口秀俊
42	〃 9年	厚　木	213	西尾幹二・竹本忠雄・酒村總一郎
43	〃 10年	阿　蘇	193	小堀桂一郎・徳岡孝夫・志賀建一郎
44	〃 11年	富　士	178	井尻千男・長谷川三千子・山口秀範
45	〃 12年	阿　蘇	154	小堀桂一郎・東中野修道・布瀬雅義
46	〃 13年	富　士	150	伊藤哲夫・長谷川三千子・小野吉宣
47	〃 14年	江田島	244	中西輝政・山内健生・青山直幸
48	〃 15年	富　士	171	小堀桂一郎・伊藤哲夫・占部賢志
49	〃 16年	阿　蘇	169	中西輝政・小田村四郎
50	〃 17年	伊　勢	219	長谷川三千子・松浦光修
51	〃 18年	霧　島	191	井尻千男・吉田好克・占部賢志

第五十一回〝合宿教室（霧島）〟全参加者の感想文と短歌詠草



とき　平成十八年八月二十四日（木）から二十七日（日）まで三泊四日間

ところ　鹿児島県霧島市「ホテル霧島キャッスル」

参加総数　一九一名

目　次

〝はしがき〟に代へて……理事長　上村和男…2
大学別参加者数・その他の人数の内訳……5
〝合宿教室〟の日程表（三泊四日）……6
第51回〝合宿教室〟のあらまし……7
走り書きの〝感想文〟と第二回目の〝短歌詠草〟……参加者全員…25
短歌詠草……合宿中の創作作品……参加者全員…95
あとがき……114
カメラ・レポート27枚（27ページから79ページの左頁に掲載）

〝はしがき〟に代へて

㈳国民文化研究会理事長（東海ゴム工業㈱・顧問）
上村和男

第五十一回「合宿教室」は―神話のふるさと「高千穂」で日本のこころを学ぼう―との呼びかけのもと、錦江湾に浮かぶ桜島と、はるか南に開聞岳を眺望する霧島高原の山麓にある「ホテル霧島キャッスル」で、九州はもとより全国各地から集まった学生・青年百九十一名の参加者により八月二十四日～二十七日に開催されました。

顧みれば、第一回の「合宿教室」が天孫降臨の地、高千穂の峰の麓、霧島神宮・研修会館で開催されたのは、今から半世紀前の昭和三十一年八月でした。学生・社会人ら総数九十二名の「合宿教室」で、当時としては画期的なことでした。といふのは、当時、各大学の自治会をはじめ文科系のクラブは全学連の勢力下にあり、その殆どがマルクシズムを基調として革命を指向してゐました。国家の将来を憂へて日本の歴史・文化・伝統の古典をひもとき学問研究し、祖国の誇りを守らうと学生・青年に訴へかける団体は稀有なことでした。

当時の思潮は、マスコミをはじめジャーナリズムの論説は多くは階級史観に立脚してゐて、国家を呪詛し、伝統を軽侮し、国家の威儀を無視する状況でした。労働組合関連では総評が絶対的な力を把持し、政界を動かし左翼革命をなさんとの勢ひであり、教育界にあっては五十万の組合員を擁した日教組が、憲法と教育基本法を金科玉条視して、極東軍事裁判史観に拠って、我国を侵略国家と一方的に決めつける教育が行はれてゐました。その結果、未だに青少年の心の中に国家意識を取り戻せてをりません。かうした日教組教育を許し続けた進歩的な学者・文化人、マスコミや政治家の罪は大きく、その禍根により現在の教育現場の混乱は目を覆ふばかりです。それ故に「合宿教室」の研修の目的の一つは日教組教育を糺すことにあって、当時も現在も日教組教育の歴史観が学生・青年に限らず国民の大半に浸透し、それを払拭できないままであることはまことにゆゆしき問題です。

当時、日教組教育と戦っていくことは左翼陣営から攻撃され身の危険すらありました。さうした中で、祖国日本の溶解を目指す内外の勢力から日本を護らうとする「志」によって「合宿教室」が始まったのです。

第一回「合宿教室」の報告書『混迷の中に指標を求めて』の〝はしがき〟に、前理事長の小田村寅二郎先生は「この会の方々の強烈且つ深刻な憂国心と、稀にみる友情に結ばれてゐる協力の姿にうたれて、『国民文化研究会』とその会の方々を御紹介する御役に立てばと思ひ一筆記すことにしました」と冒頭に述べられ、三十名ほどの会員は年齢が三十五歳前後で九州及び中国地方に在住し、大学教授・高校教諭・役人・実業人・農業・医師と様々な職業を持って活躍されてゐることを紹介されてゐます。そして戦前の大東亜戦争開始前後の時期に、大學・高専に学び当時の国内の思想の不明確化を憂へ、正しい学生生活を求めて相互に学問研究をしてこられたことや、終戦以降は折にふれ交友を続け、時代の動きを注視し続けてこられた方々であることも紹介してゐます。そして戦後十一年の期間は国民全てにとって艱難辛苦の時代であったが、とりわけ会員にとっては、社会人として初歩の地位にあり、収入も僅かで家庭的にも大変であったが、学生時代から国家のことを先に憂へる方々で、終戦後、要領よく世渡りする人々は生き方の上で会員の足許にも及ばなかったと、記されてゐます。「合宿教室」開催準備のための会合費も総て負担して、来られた。日教組、その他の労働運動の幹部達が組合費の裕福な資金で、多数の専従者を擁して革命運動をしてゐた中で、国民文化研究会にはただ一人の専従者もなく、毎日の仕事の余暇を割いて階級闘争主義や赤色革命を阻止するために情熱を注いでゐた姿を紹介しつつ、「余りにも皮肉な対照でなくてなんでありませうか」とのお言葉に先生の憤りが伝はってきます。

あれから半世紀、営々と努力を積み重ねてきた「合宿教室」の参加者も延べ一万三千五百余名となり、参加者は国家の再建を願ひ各界で研鑽を積み重ね、生きる鏡を青年の前に力強く示しながら働いてゐます。

今回、講師としてお招きした拓殖大學日本文化研究所所長井尻千男先生は、広範な見地から「戦後論・共同体解体の六十年」を論じられ「運命といふものはただ単に人間にふりかかってくるだけのものではない。運命を愛し、運命に打ち克つことを知らなければならない。運命への愛、それによって初めて心の平静が得られる」と語られ、「自ら意思することなく生まれた郷土や国を愛する心は運命とか宿命につながる」と運命共同体である祖国の大切さを述べられました。自分の生まれた国への思ひを持ち続けることが自分の誇りと自信を取り戻す契機となることを参加者は自らの心に刻んだに違ひありません。時、恰も戦後生ま

れの首相として登場した安倍首相は「美しい国」といふ国家理念を掲げてゐます。運命共同体としての祖国の再建に向けて国民の心が広く繋がっていくことを願はずにはをられません。

三泊四日の短い合宿ではありましたが、起居を共にし真剣に一つのことを考へることで友情が生まれ、共に国を思ふ同胞感が芽生えてきた方もをられるでせう。一方、大事なことを教へられずに来たことに気づいてとまどひを感じた方もゐらっしゃるでせう。現在の学園では味ふことのできないことが実現された「合宿教室」の実態を、この〝走り書き〟の感想文集は示してゐます。現下の学校教育が運命共同体である祖国を蔑にしてゐるがために、自分が祖国とどう繋がって生きてゐるかがわからなくなり、迷ってゐる姿がそこに垣間見えます。

ここに編集した「感想文集」は参加者全員が帰り際に、走り書きで記したため、意を尽せないところもあり、紙面の都合上、全文をそのまま載せ得なかったことは何とぞご容赦いただきたいと存じます。この〝感想文〟をお読み下さった方々がその行間から現代教育の問題点が奈辺にあるかお汲み取りいただけるならば、それは私どもの望外の喜びです。

この文集の作成のために、十余名の会員（編集後記に記載）が休日や終業後の時間を割いて取組んでくれました。またこの合宿の運営に当った運営委員長の藤新成信さん並びに運営委員の方々、指揮班長の横畑雄基さんはじめ指揮班の方々のご苦労に心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、この合宿事業を行ふにあたり、本年もまた、各界からお寄せ下さった得難いご支援の数々に対し、心から厚く御礼申し上げます。

来年（平成十九年）の「第五十二回合宿教室」は八月十六日（木）～十九日（日）までの三泊四日間「信貴山玉蔵院」（奈良県生駒郡）で開催します。合宿運営委員長には内海勝彦理事があたります。

何卒ご参加下さるやうお願ひいたします。

第51回全国学生青年合宿教室（平成18年８／24～８／27）於「ホテル霧島キャッスル」

参加者

（学生班　三十大学）（洋数字は参加学生数）

北海道大学1　早稲田大学1　東京大学2　日本大学1　麗澤大学1
明星大学1　東京理科大学1　一橋大学1　成蹊大学1　同志社大学1
九州工業大学5　福岡教育大学2　福岡大学3　九州大学3　長崎大学3
佐賀大学3　中村学園大学1　下関市立大学1　九州造形短期大学1
九州女子大学1　崇城大学2　首都大学東京1　高知大学1　玉川大学1
法政大学1　千葉大学1　志學館大学1　東京外語大学1
鹿児島県立短期大学1　大阪大谷大学1

計　四十五名（うち女子十名）

（社会人参加者）　六十五名（うち女子十名）

（招聘講師）　二名

（国民文化研究会）　七十二名

（事務局）　五名

（写真）　二名

総計　一九一名

㈳国民文化研究会・大学教官有志協議会　主催

第51回（平成18年）全国学生青年“合宿教室”日程表

	8月24日（木）	8月25日（金）	8月26日（土）	8月27日（日）
6:00		起床・洗面	起床・洗面	起床・洗面
(06:30)				
7:00	（注意） ↓ 参加者は、一班七名前後の班に所属します。 会場入口付近で、所属する班を確認のこと。	朝の集ひ	朝の集ひ	朝の集ひ
(07:00)				
8:00		朝食	朝食	朝食
(08:00)		講義 「戦後論・共同体解体の六十年」 拓殖大学　日本文化研究所 所長 井尻千男　先生	講義 「生き方の鑑としての歴史」 福岡県立太宰府高等学校　教諭 占部賢志　先生	合宿を顧みて 国民文化研究会　副理事長 今林賢郁　氏 運営委員長挨拶 運営委員長 藤新成信　氏
9:00				
(09:00)				
(09:30)		質疑応答		全体感想自由発表
10:00				
(10:00)		班別研修	班別研修	地区別懇談
(10:30)				班別懇談 感想文執筆
11:00	随時受付			
(11:30)		短歌創作導入講義 戸田建設(株)　開発営業部長 青山直幸　先生		
12:00	開会式：14時30分開始			
(12:00)			昼食	昼食
(12:30)		移動 （車内で食事）		閉会式 （挨拶） （社）国民文化研究会　理事長 上村和男　氏
(13:00)	開会式 （挨拶）国民文化研究会　会長 小田村四郎　氏 オリエンテーション （合宿趣旨説明及び諸注意伝達） 合宿教室運営委員長　藤新成信　氏 合宿教室指揮班長　横畑雄基　氏	野外研修・短歌創作 ●写真撮影 ●霧島神宮参拝	創作短歌全体批評 熊本市役所　減量美化推進課　課長 折田豊生　先生	
(13:00)				
14:00		●高千穂河原到着		閉会式：13時終了
(14:00)				
(14:30)		●散策 みやまコンセールへ移動		解散
15:00				
(15:45)	小休憩（15分）			
16:00	合宿導入講義 「霧島でたどる豊かな歴史と日本のこころ」 (株)寺子屋モデル　代表世話役社長 山口秀範　先生	唱歌でたどる日本のこころ 司会：国立都城病院院長 小柳左門　氏 講義　「日本待望論」 宮崎大学教育文化学部　助教授 吉田好克　先生	班別短歌相互批評	
(16:00)				
17:00		小休憩		
(17:00)		コンサート「唱歌のこころ」 歌唱指導 バリトン歌手　山本健二　先生	夕食 入浴 休憩	
(17:15)	班別討論			
18:00		（ホテルへ移動）		
(18:00)				
(18:30)		夕食 入浴 休憩	講話　「学問と友情」 国民文化研究会　副会長 實邊正久　先生	
19:00	夕食 入浴 休憩			
(19:10)			慰霊祭の説明 元　新潟工科大学教授　大岡　弘　先生	
(19:40)			移動（約20分）	
20:00				
(20:00)	古典輪読導入講義 古事記「わたつみのいろこの宮」 元　富山県立富山工業高等学校　教諭 岸本　弘　先生	講義「日本の国柄」 拓殖大学　日本文化研究所　客員教授 山内健生　先生	慰霊祭	
(20:40)			移動（約20分）	
21:00				
(21:00)	班別輪読	班別研修	班別懇談	
22:00				
(22:30)	就寝	就寝	就寝	
23:00				
(23:00)	消灯	消灯	消灯	
23:30				

第五十一回〝合宿教室〟のあらまし

第一日目　（八月二十四日・木曜日）

第五十一回全国学生青年合宿教室は、鹿児島県霧島市のホテル霧島キャッスルにて開催された。霧島は今から五十年前の第一回合宿の開催地であり、実に五十年ぶりにこの地に戻ってきたのであった。ホテルからは眼下に拡がる山々の彼方に遠く鹿児島湾や桜島を望むことが出来、近在する高千穂山は皇室の御祖先である天孫邇邇芸命（ににぎのみこと）が天降った神山であり、赤銅の頂には神話のままに天の逆鉾が突き立ってゐる。施設、自然環境もさることながら、歴史的な面から見ても全く申し分ないこの地に、全国各地から集ひ来た総勢二百名近くの参加者は、それぞれの想ひを胸に各班へと分かれ、ここに三泊四日の合宿教室は幕を開けたのであった。

開会式

明星大学四年高橋佑太君の開会宣言の後、主催者を代表して小田村四郎会長は「第一回合宿を行ったこの霧島の地で合宿教室を開催出来たことを嬉しく思ふ。北朝鮮のミサイル発射、中国の軍備増強等々、日本を取り巻く国際環境は厳しい。様々な問題について、自分の頭で考へ、自己を確立することが大事である。交流を深め、本当の心の友を作ってほしい」と挨拶した。地

元・霧島市の前田終止市長は「私も学生時代にこの合宿教室に参加したが、日本の文化伝統を学び、自らを鍛へ多くのいい友と出会って欲しい」と歓迎の意をこめつつ激励された。九州工業大学四年林祥人君は「自分の気持ちを率直に語り、仲間の言葉を素直に聞く事で、初めて心から付き合へる友となれる。素晴らしい合宿にして行きませう」と呼びかけた。

合宿導入講義　「霧島でたどる豊かな歴史と日本のこころ」

㈱寺子屋モデル代表世話役社長　山口秀範先生

先生は、まづ五十年前の第一回合宿教室で小田村寅二郎前理事長が混迷の時代に指標を得るためには「知識と情意と肉体をも統一させるスピリットを持て」と訴へられた事を紹介された。ついで米国の黒人作家アレックス・ヘイリー著『ルーツ』に触れ、移民・奴隷の子孫が大半のアメリカ人も自らの祖先の歴史を尋ねルーツ（根）を求めてゐると話された。そして霧島を舞台とした日本人の原点を辿られ、天孫邇邇芸命（ニニギノミコト）降臨の神話、皇統を守るために身命を賭けた和気清麻呂の史実を語られた。さらに昭和六年、霧島に程近い鹿児島湾上を夜間軍艦でご帰京になる昭和天皇を松明の灯りで奉送する沿岸の村人と、それに応へんとされる昭和天皇との「君臣無言のわかれ」のエピソード等々を紹介された。そして、神代の世界から第百二十五代の今上天皇まで神話と歴史が繋がってゐる世界にも稀有な国であると指摘され、「日本人は先祖がそれぞれの立場で精一杯、その時代を支へた人々であったと信じることができる歴史を持ってゐる」と結ばれた。

講義終了後、参加者は各班室に戻り、導入講義について班別研修を行った。まづ皆で講義内容を正確にたどりながら、講師の最も伝へたかったこと重要なことは何かを話し合ひ、さらに班員一人一人がどのように受け止めたかについて話し合ひがすすめられた。なほ、この班別研修は、以後の各講義の後にも続けて行はれた。お互ひ初対面のせゐか、初めのうちは緊張して意見も少なく発言も限られてゐたが、お互ひに打ち解けるに従ひ次第に討論も活発となり、時に反論し時に共感し合ひながら、班員相

互の心の交流が深められていった。

古典輪読導入講義　「古事記『わたつみのいろこの宮』」

元富山県立富山工業高等学校教諭　岸本　弘　先生

冒頭、先生は「天孫降臨」の段を朗々と暗誦され、師事された廣瀬誠先生の古事記講義の思ひ出を「まさに言葉がほとばしるやうな朗誦で、ただ耳を傾けて古事記の世界にひきこまれて行った」と語られた。そして、「その歌謡のすばらしさも是非味はってほしい」と述べられ、「日向三代」の物語を読み進められた。本居宣長の訓解に触れつつ、古代の人々の思ひを偲びながら、火遠理命と豊玉毘売命との出会ひや御二人が歌を交される場面を身振り手振りを交へて辿って行かれた。

最後に、皇后陛下の「立太子礼」の御歌に豊玉毘売命の歌の一部が引かれてゐることを紹介され、「古代から平成の御代まで脈々として国のいのちが伝はってゐるありがたさを感じる」と講義を結ばれた。

第二日目　（八月二十五日・金曜日）

早朝六時半、霧島高原の清やかな気に満ちた広場にて朝の集ひは行はれた。国旗掲揚、国歌斉唱の後、ラヂオ体操を行ひ、国民文化研究会会員小野吉宣氏により御製拝誦が行はれた。氏は拝誦のあと英訳歌を紹介され、皆で元気にそれを唱和した。毎年この時間は御製拝誦が通例であったが、今年は唱歌でたどる日本の心といふ副題に倣ひ、三、四日目は参加者一同で朝靄のかかる山々に向かって唱歌を歌ひ、一日の研修を新たな気持ちで迎へた。各朝の紹介者と御製（和文と英訳）、唱歌名は左記の通りである。

八月二十五日　小野吉宜

明治天皇御製　天

あさみどり澄みわたりたる大空の廣きをおのがこころともがな

As broad and clear and cloudless as

The lucid, azure sky

Would I could make my mind and heart,

With even heaven to vie

八月二十六日　寳邉矢太郎

唱歌　故郷

八月二十七日　長内俊平　寳邉正久

唱歌　埴生の宿

講　義　「戦後論・共同体解体の六十年」

拓殖大学日本文化研究所所長　井　尻　千　男　先生

先生は、まづ特攻隊の攻撃を体験したアメリカは「日本人は恐るべき民族で、背後に恐るべき共同体がある」と感じたはずだと述べられ「共同体」について説明された。その共同体をどう解体させるかがＧＨＱによる占領統治の最重点施策であり、「大東亜戦争」を「太平洋戦争」と言ひ換へさせるなど言論・出版物を厳しく検閲した。戦没学徒の手記である『きけわだつみのこえ』は検閲を受けてゐるため本当の声は消えてゐる、さらに「神道指令」は神社といふ村落共同体の中心領域を解体するために

発せられたと理解すべきものと述べられた。

次に「この世は市場原理といふ一元論だけでは摑み切れず共同体原理といふ価値に係はる原理も不可欠だ」と言はれ、現憲法第十八条は「奴隷的拘束及び苦役からの自由」を謳ってゐるが、日本の共同体の結束力を奴隷的でマインドコントロールされてゐたからであったと言ひたいがための文言と読取らなければならないと述べられた。また教育基本法は「個性尊重」を謳って歴史を軽視することを唆してゐる。「伝統を引き継がう」といふ覚悟が入ってしかるべきだと訴へられた。

昭和三十年代に入ると日本経済は急速に回復したが、それは一君万民思想といふ日本的組織原理に基づく日本的経営が行はれた結果であって「共同体原理の回復」と言へるものであったと述べられた。最後に愛郷心・愛国心が運命愛であることについて語られた。「自分が意志することなく生まれた郷土や国を愛する心は運命とか宿命を愛する心につながる。没価値の市場原理、経済的恣意の過剰によって共同体原理を失ったら日本は滅んでしまふ」とお説きになって御講義を締めくくられた。

短歌創作導入講義

戸田建設㈱開発営業部長　青山直幸先生

先生は冒頭日本人の心は何故、かくまで荒れてしまったのかと昨今の「情意」が枯れてしまったかに見える現状に言及し、日本人が大切にしてきた「気遣ひの感覚」、日本の四季が織りなす豊潤な自然や風土の中で育まれてきた「大和言葉」の大切さを説かれた。本居宣長の「敷島の大和心を人問はば朝日ににほふ山ざくら花」といふ短歌を紹介され、自然の姿そのものを本当に美しいと感じる感性、日本人の美意識を取り戻して行くことの大切さを訴へられた。古来日本人が大切にしてきた敷島の道（短歌の道）を実生活の中に取り入れて行くことが必要なのだと短歌創作の意義を述べられた。そして具体的に

短歌を例示しながら創作上の留意点を具体的に説明された。

野外研修・短歌創作・公開講座

昼食の弁当持参でバスに乗り込み、邇邇芸命をお祀りする霧島神宮へと向った。参道階段で揃って記念写真を撮り、神宮を参拝。再びバスで高千穂河原へ。高千穂の霊峰を真正面に仰ぎ見て「神話のふるさと」を実感する野外研修となった。それぞれが短歌の創作に勤しんだ後、公開講演の会場「みやまコンセール」にバス移動。三百名余の地元の方々も加はって、心洗はれる一時をともにした。

公開講演・コンサート　「唱歌でたどる日本のこころ」

講　演　「日本待望論」

宮崎大学助教授　吉田好克先生

先生は、明治以降の一部の知識人には外国からの日本賛辞を軽視し、一方で日本批判は受容するといふ歪んだダブルスタンダードの体質があるが、その体質は戦後の所謂進歩的文化人にそのまま引き継がれてゐると指摘され、「文化といふものは国が違っても同じ人間同士共通するところが沢山ある。相手の言葉を聞き、自分たちでふるひにかけ悪いところは反省し良いところは受け入れれば良い」と、なほ根強い自己卑下的な西欧崇拝の知的傾向を批判された。

次にフランス人作家O・ジェルマントマ氏の「日本文化の根幹にある神道的な神性・霊性は世界的に普遍的なものであるが、現代の日本人はアメリカ流の唯物主義・物質主義に目がくらみ、連綿と続いてゐる伝統を見ようとしな

い。それは世界的な損失である」といふ言葉を紹介された。

続いて「ルーツ対ルーツの対話がこれからは大事であり、文化的なルーツをしっかり持ってゐる人間同士が交流する時代である」「自分自身の文化について知らない人間に相手の文化の良し悪しなど分るわけはない。自己の発見が異文化の発見につながり、異文化を発見することは翻って自分の発見につながる」と強くお述べになった。自国の文化・歴史・伝統を大切にすることが世界に通じる道であると講演を締めくくられた。

コンサート　「唱歌のこころ」

バリトン歌手　山本健二先生

先生は、まづ明治時代の初めに西洋の歌曲に日本人が自らの思ひを歌詞として付けた「庭の千草」「埴生の宿」を唱はれた。続いて日本人による作詞作曲となる「故郷」「朧月夜」などを唱はれ、これらの唱歌には日本の自然の豊かさ、人々の心の美しい彩り、そして日本人として生きてゆく喜びが湛へられてゐると解説された。「仰げば尊し」では、先生から高校時代の恩師との出会ひのお話があって一入心打たれる歌唱となった。ついで母と子の心のふれあひや友達を思ふ気持ちがこめられた童謡「雨ふり」「肩たたき」が唱はれ、その後会場の一同も一緒に唱和した。「この道」「荒城の月」と続き、最後に大伴家持の詞に信時潔が作曲した「海ゆかば」を唱はれた。この曲は、先の戦争で亡くなられた方々への鎮魂の曲であると解説され、ピアノ伴奏によるその歌声に一同は胸を熱くして聞き入った。

講義　「日本の国柄」

拓殖大学客員教授　山内健生先生

先生は、今の日本では自らの「国柄」についてきちんと考へる雰囲気が稀薄となってゐるが、情報化時代の今こそ自国の本質を自覚的に捉へ直す必要があると述べて、講義を始められた。続いて、日本国憲法の問題に移られ、現憲法の「三つの基本原理」ばかりが強調されてゐるが、明治憲法の改正といふ現憲法の建前である法的な連続性において読めば、天皇を統合の中心とする第一原則が浮上してくる。日本国の揺るぎない伝統は保持されてゐると述べられた。国の統合のため元首として多忙な国事行為を担はれる陛下は、また神話時代から続く御祖先の神々をお祀りになってをられ、歴史の連続性の中に皇位が続いてゐると明言された。その連続性を証明するものとして、国民と苦楽を共にされる歴代天皇の御精神を御製から偲ばれ、その「みたみ安かれ」の御祈りが歴史を貫いてゐる事実を示された。最後に、皇室典範問題について付言され、男系を廃することは歴代天皇の涙ぐましい御努力を無視することになると男系継承の重みを説かれ、「伝統とは事実の積み重ねであって、伝統を軽んずるとは事実を軽んずることである」といふお言葉で締めくくられた。

第三日目　（八月二十六日・土曜日）

講義　「生き方の鑑としての歴史」

福岡県立太宰府高等学校教諭　占部賢志先生

先生は、大正期は自国の文化伝統を足蹴にした激変の時代だったが、さうした混迷の時代に戦った大学教授と海軍軍人の生涯

を採り上げたいと口火を切られた。九大教授河村幹雄博士は工学部長ではあったが古典教育の重要性と日本人の精神体得の大切さを訴へ、当時の女子教育が誤ってゐることを指摘して、「婦人の中に未来の人は眠れり」と母となる女子には男子とは別の教育が用意されるべきと主張してゐたと述べられた。家庭教育の精神が学校でも生かされるべきと考へ少人数教育を理想とした博士は自宅の隣に私塾斯道塾を設けて親身になって学生を指導し、マルキシズムに染まった笹月清美青年をも感化させたと博士の短歌を通して学生と交はる教育者としての姿を具体的に紹介された。また市丸利之助海軍少将は硫黄島玉砕の折に「ルーズベルトニ与フル書」を認めて、戦はざるを得ない日本の立場を書き残してゐたと述べられた。かつて少年航空兵を育てる予科練の創設にあたった少将は、その教育の中で短歌を取り入れるなど情操教育にも意を注いだ軍人であったと語られた。

二人の年譜や短歌、文章を示しながらのお話は、先生の熱きお言葉もあって一層強く参加者の胸に響いた。

創作短歌全体批評

熊本市減量美化推進課課長　折田豊生先生

先生は、最初に「言葉がいい加減になれば思索そのものがお粗末なものになってしまふ」、そして「正しい言葉が正しい思想を育てて高雅な言葉が高雅な思想を形成していく」と言葉を正しく使ふ大切さを述べられて批評に移られた。参加者全員の和歌が収められた『歌稿』の中から、作者の気持ちを推し量りながら丁寧に添削して行かれた。「普段の付き合ひの中でも心の通ひ合ひを大切にすることが国を守ってゆくことに繋がるのではないか」。また「自身の感動の中味を突き詰めることでさらに深く詠み上げることが出来る」と話された。最後に先生はこの後の班別短歌相互批評を「創作と同じくらゐ

に大切な時間であり、お互ひに自分の気持ちを披瀝しあって心からの付き合ひが出来る時間にしてもらひたい」と述べ講義を終へられた。

班別短歌相互批評

全体批評の後、各班に分かれて短歌相互批評が行はれた。歌をつくったのは初めてといふ参加者が多かったが、皆、一人一人の歌に心を寄せて、作者の思ひに添ふ正確な表現を求めて心を砕いていった。人の思ひを正確に受け止めること、自分の気持ちを伝へることが如何に難しいかを実感させられたが、お互ひの心が通ひ合ふひとときであった。

講　話　「学問と友情―昭和の御代を顧みて―」

㈱寶邉商店相談役　寶　邉　正　久　先生

先生は、先づ大学在学中に学徒出陣された青春時代を振返り、日本の国そのものを概念ではなく心で感じ知ることが大事だと話された。そのためには人生上の切掛けが必要であると、ご自分の経験を振り返られた。心底から日本を知るといふことで三井甲之先生の「ますらをの悲しき命積み重ね積み重ね守る大和島根を」のお歌を紹介された。そして正岡子規の短歌革新を継いだ三井先生が『人生と表現』誌等を中心に「人生を詠ふ」同志を求め、その人生を統べる明治天皇の御製を拝誦することを提唱されたこと、そこに聖徳太子の御思想を研究された黒上正一郎先生がつながり、その弟子である当時一高生の田所廣泰さんが国民文化研究会の前身を作られたと語られた。そしてこれら多くの先人の御霊が日本を見守ってをられると述べられた。

慰霊祭

慰霊祭に先立ち元新潟工科大学教授の大岡弘先生から、平時戦時を問はず祖国日本のために尊い命を捧げられた祖先の御霊をお祭りすることの意味と祭儀の形とが懇切に説明された。その後、参加者一同はホテル裏山の斎場へと移動した。斎場は松明が焚かれ古式に則って祭壇が設へられてゐた。㈱みずほコーポレート銀行部長の小柳志乃夫氏による御製拝誦、箱根町教育委員会〈元小学校校長〉の岩越豊雄氏による祭文奏上が行はれ、「海ゆかば」を参列者一同が奉唱した。

左は奏上された「祭文」と拝誦された「御製」である。

祭文

われら、古事記上つ巻のふるさと　筑紫の日向の霧島に催せし第五十一回全国学生青年合宿教室に集ひ学べる者百九十一名こぞりて　ここ天津日子番の邇邇の命の天降りましし高千穂の霊じふる峰のもとなる　さやけき草原を斎庭と定めまつりて　とこしへにみ国守ります　遠つみ祖達をはじめ　み国のために命を捧げ給ひて　わが祖国日本を守りましし もろもろの同胞のみ霊を招ぎまつりて　み霊祭り仕へまつらんとす

今宵み空はるけく神々のみ魂うつしくわれらが上にのぞみまします

顧れば先の戦に　み国敗れてより六十余り一年を過ぎたるも　わが国の政治　外交　教育　マスコミ各界の者の多くは未に東京裁判史観にとらはれ国の独立の気概と品格を貶しめて恥ぢぬ昏き迷ひより目覚めざれども　若き国民の中より小さきながらもをちこちに新しき動き興りはじむるは頼もしき限りなり

ここに集ひしわれら　さらに汝しみ祖達の伝へ来しみ言葉と　いさをしき歴史に学び　心開きて語りかはし　力たらざれど

も心合せてみ国のいのち守らんと務むる　われらが上をみそなはし導き給へと　参加者一同に代り　岩越豊雄　謹み敬ひ恐み恐みも白す

御製拝誦

明治天皇御製

をりにふれたる　（明治三十九年）

ますらをも涙をのみて國のためたふれし人のものがたりしつ

友　（明治三十六年）

もろともにたすけかはしてむつびあふ友ぞ世にたつ力なるべき

蟲聲　（明治四十四年）

さまざまの蟲のこゑにもしられけり生きとしいけるもののおもひは

秋夕　（明治三十九年）

國のためうせにし人を思ふかなくれゆく秋の空をながめて

神祇　（明治四十三年）

わがくには神のすゑなり神まつる昔のてぶりわするなよゆめ

昭和天皇御製

終戦時の御製　（昭和二十年）

爆撃にたふれゆく民の上をおもひいくさとめけり身はいかならむとも
身はいかになるともいくさとどめけりただたふれゆく民をおもひて
國がらをただ守らんといばら道すすみゆくともいくさとめけり

松上雪　（昭和二十一年）

ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ松ぞををしき人もかくあれ

雲仙嶽にて　（昭和二十四年）

高原にみやまきりしまうつくしくむらがり咲きて小鳥とぶなり

八月十五日　（昭和六十一年）

この年のこの日にもまた靖國のみやしろのことにうれひはふかし

今上天皇御製

硫黄島　（平成六年）

精魂を込め戦ひし人未だ地下に眠りて島は悲しき

即位より十年たちて　（平成十一年）

日の暮れし広場につどふ人びとと祝ひの調べともに聞き入る

時　（平成十二年歌会始）

大いなる世界の動き始まりぬ父君のあと継ぎし時しも

サイパン島訪問　（平成十七年）

あまたなる命の失せし崖の下海深くして青く澄みたり

歩み　（平成十七年歌会始）

戦なき世を歩みきて思ひ出づかの難き日を生きし人々

第四日目　（八月二十七日・日曜日）

合宿を顧みて

まづ今林賢郁副理事長（日鐵プラント設計㈱顧問）が登壇して第一日目からの日程を思ひ起しながら「そこに流れるものは何であったか。祖国日本が今日までどう繋がってきたかを若い学生社会人に分ってもらひたいと願って合宿を重ね五十一回となった。ぜひともお一人お一人が自らに問ふて、国のいのちを感じ取ってもらひたい」と述べた。ついで登壇した藤新成信合宿運営委員長は「本合宿が無事に終はることに感謝したい。『神話のふるさと高千穂で日本の心を学ぼう』と皆様に呼びかけて準備に当ってきた、私達日本人の『心のふるさと』とはどういふものなのかを確かめたいと願ってきた」と熱き思ひを語った。そして聖徳太子のお言葉「自他の二境を分たず」を引用され、「良いことを勉強したと思ふだけではなく、父母や職場の友人に語りかけてほしい。他者との繋がりの中で自分自身を見つめて行くといふ学問のきっかけがこの合宿であった」と一緒に学んで行かうと呼びかけた。

参加者による全体感想自由発表

挙手して壇上に上った参加者はこもごも胸中の思ひを発表した。

「古典や唱歌を声に出すことで、日本語の美しさが感じられたことは貴重な体験となった」「あまり勉強してゐなかった無知な自分を恥ぢつつも、合宿で学んだことを伝へて行きたい」「自分の原点は感動することにあるといふことを講義や班員との交流の中で感じた」「次の世代に伝へ残して行くことがどれだけ大変かといふことを先生方の姿をみて感じた」「『婦人の中に未来の人は眠れり』といふ言葉に感動した」「日本の神話の連続性とその尊さに気づかされた」「短歌相互批評で自分の気持ちにぴったりの短歌になって本当にうれしかった」「学んだことを通して自分の実生活から変へて行かうと思ふ」「理屈で伝へるのではなく、自分の言葉で伝へて行きたい」等々。

閉会式

主催者を代表して上村和男理事長は若い参加者に対して「社会に出た最初の三、四年間は唯々一所懸命に生きて欲しい」と激励し、「一人一人が志を持って、日本の国を愛し心からその情熱を人に伝へて行かなければならない。自分だけの世界に籠らずに身近な人に伝へるやう努めよう」と参加者に訴へた。九州工業大学三年秋田崇文君は「合宿を通じて講義や友人達との出会ひで得た深い感動をこれからの行動に生かして行きたい」と今後の抱負を語った。そして唱歌「故郷」を合唱し、東京大学一年の松藤卓君が閉会宣言を行って第五十一回全国学生青年合宿教室の全日程を終了した。

助言者の紹介

㈳国民文化研究会　会長	小田村四郎
㈳国民文化研究会　副会長	長内　俊平
㈳国民文化研究会　副会長	寳邉　正久
㈳国民文化研究会　副会長	小柳陽太郎
㈳国民文化研究会　理事長	上村　和男
日鐵プラント設計㈱	今林　賢郁
元講談社	磯貝　保博
拓殖大学日本文化研究所客員教授	山内　健生
㈱寺子屋モデル代表世話役社長	山口　秀範
㈳国民文化研究会　事務局長	稲津利比古
小田原市箱根町教育委員会	岩越　豊雄
元新潟工科大学　教授	大岡　弘
福岡県立直方高等学校教諭	小野　吉宣
熊本市役所減量美化推進課課長	折田　豊生
㈱石村萬盛堂　代表取締役社長	石村　僖悟
伊佐ホームズ㈱代表取締役社長	伊佐　裕
熊本県立済々黌高等学校教頭	白濱　裕
福岡県立太宰府高等学校教諭	占部　賢志
㈱みずほコーポレート銀行資本市場部長	小柳志乃夫
日章工業㈱	藤新　成信
鹿児島県信用保証協会業務部部長	野間口俊行
㈱アイ・エイチ・アイエアロスペース	内海　勝彦
新明電材㈱	飯島　隆史
元高校教諭	末次　祐司
稲田事務所	稲田　健二
元㈱日立製作所	日髙　廣人
農業	島村　善子
元キューピー㈱	七夕　照正
㈱マネジメントシステム評価センター契約審査員	高村　光紀
日揮㈱産業プロジェクト本部建設部	山本　伸治
元富山県立富山工業高等学校教諭	山本　博資
国立独立行政法人国立病院機構都城病院長	江口　研治
産経新聞社	岸本　弘
神奈川県立小田原高等学校（定時制）教諭	小柳　左門
戸田建設㈱東京支店開発営業部部長	大内　保治
鹿児島県農業協同組合中央会	原川　猛雄
湯亭こんや代表取締役	青山　直幸
防衛庁	定栄　安治
宮崎県立大宮高等学校教頭	青砥　誠一
山口県立下松高等学校教諭	鎹　信弘
羽後信用金庫横手支店支店長代理	竹下　鉄郎
大村郵便局郵便課	寳邉矢太郎
北九州市立医療センター	須田　清文
若築建設㈱	橋本　公明
	森田　仁士
	池松　伸典

南国殖産㈱経理課経理課長　京田　清人
板橋中央総合病院本部事務局総合企画課長　最知　浩一
加江田神社宮司・県立宮崎東校講師　川越　篤
㈱フラワーコーポレーション住宅事業部部長　吉村　浩之
㈱アルバック　北浜　道
鹿児島市役所企画部合併対策室主査　有村　浩明
神奈川県立氷取沢高等学校教諭　大日方　学
㈱日本教文社　坂本　芳明
熊本県立菊池高等学校教諭　久保田　真
ハローワーク福岡南　古川　広治
㈱寺子屋モデル　三林　浩行
中尾スタジオ　中尾　国博
熊本市教育委員会　濱口　知久
アサヒ飲料㈱マーケティング部商品企画G　澤部　和道
日本青年協議会　外村　聖典
日本青年協議会　別府　正智
㈱寺子屋モデル　横畑　雄基
㈱ラック　髙橋俊太郎
NTT西日本金沢支店　武田　有朋
飯塚市立鎮西中学校　大津　健志
㈱ハウインターナショナル　上河　真子
不二サッシ㈱　高木　雅史
中外鉱業㈱甲府支店　濱崎　史嘉
伊佐ホームズ㈱　小柳　雄平
㈱寺子屋モデル　黒岩　礼子
映画館勤務　佐野　宜志

合宿運営本部

指揮班　藤新　成信・吉村　浩之・大日方　学
横畑　雄基・古川　広治・小柳　雄平
高木　雅史・濱崎　史嘉・佐野　宜志

事務局　稲津利比古・高村　光紀・山本　信治
漆原　弘子
KUCユニバーサルカレッジ　石丸　稔晃
鹿児島県立農業大学校　野間口哲広
熊本県立東稜高等学校　市原　資子

放送・記録班　坂本　芳明・髙橋俊太郎

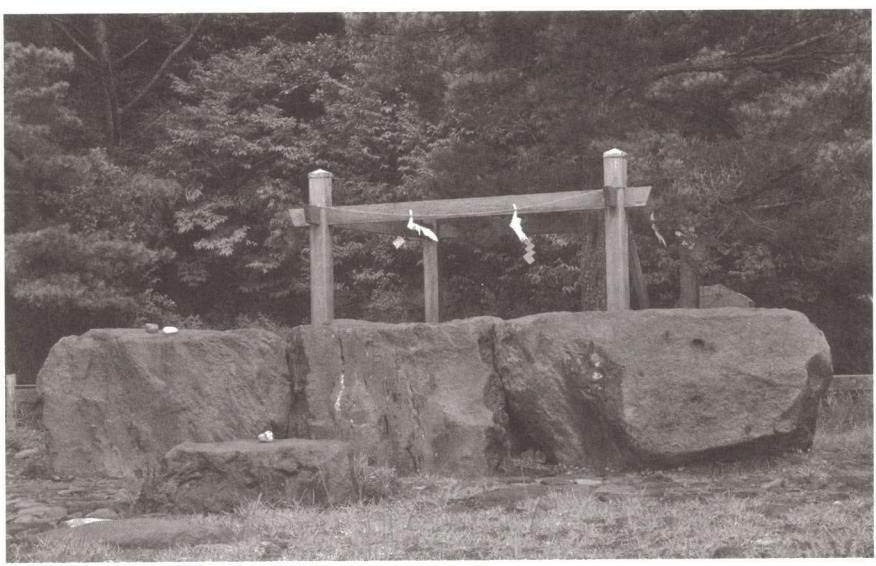
写真班　中尾　国博・黒江　圭太

見学者　九州大学大学院工学研究院助教授　塚原　健一
長田後援会事務所　長田　康秀
㈲シードカルチャ代表取締役社長　奥　誠司
㈳福岡中小企業経営者協会　佐久間俊輔
西製茶工場　田中　太一
西製茶工場　豊永　誠
西製茶工場　西　一登
㈱深田運送代表取締役社長　深田　康氏

走り書きの〝感想文集〟

これは閉会間ぎはの一時間余で参加者全員に、三泊四日間の感想を走り書きで書いてもらったものです。「仮名遣ひ」は原文のままで掲載してあります。

なほ、各人の感想文の末尾に小さい活字で載せられてゐる和歌は、この感想文とともに提出された第二回目のものです。



第一班―男子学生―

歴史との繋がりを感じた慰霊祭

（高知大学　農　四年　江頭嵩礼）

この合宿教室で初めて体験した慰霊祭は今まで行ったことのあるどの伝統行事とも違い、ものすごく神聖さを感じ、天皇陛下や先人の人々と同じ行事をしているということで、歴史と自分とのつながりを感じることが出来た。

目の前にそびえ立ちたる御神木の歴史の重み肌に感じる

日本の歴史の連続性に感動した

（佐賀大学　経済　四年　川畑孝志）

合宿の中で最も感動したのは、日本の歴史の連続性である。アメリカ・イギリス・ナイジェリアなどの国は、建国とその前の被植民地などとしての歴史が断絶しているが、日本はなめらかにそして真っ直ぐにつながっていることに気づき、そのような貴い国に生を受けたことの有難さを感じた。神話との連続の地である天孫降臨の高千穂峰を仰ぐことにより、その歴史を実感することができた。

また、長内俊平先生が班別討論の中でおっしゃったことが印象的だった。「意思とか決意より感動ですよ。小さい子供でもお母さんが危険になったら立ちふさがって必死で守ろうとするでしょう。それは感動が深いからですよ。」

六十年前、なぜあのように命を懸けて戦われたのか。それは日本への、家族への友への深い感動があったのだと思った。

神代よりますぐにつながる日本の国開きこし歴史思はる

天照神勅たまはり天降る高千穂峰を仰ぐたふとさ

四日間共に学びし友どちと別れることの寂しかりけり

日本人の心の一端を感じた

（首都大学東京　システムデザイン　二年　池松貴史）

この四日間が予想外の素晴らしい日々であったことを確信しています。日本の歴史、文化等は二の次にして、他人の意見を取り込み、自分の凝り固まった観念を解消することを目的で参加しましたが、この合宿では日本の歴史、文化に自分から興味を向けてしまう想像のできない世界がありました。日本人の洗練された心、日本人の観念の根元は滅多な事で学べるものではなく、現代の日本においてこの若さで日本人の心の末端を全身で感じられた事は運がよかったと思っています。

霧島で体感をせし和の心は皆の心に善き土壌与ふ

長谷川裕一社長の言葉

（成蹊大学　法　二年　亀澤矢汐）

反省点の方が先に思い当たりますのでそこから書かせて頂きます。感想発表の際に涙を流された班長のように、班員の思いに十分気持ちを傾注できたか、その点について考えざるをえないというように思っています。

しかし同時に、心に残る多くの言葉や思い出を与えて頂きました。長谷川社長に班別討論の際おいで頂き、女子教育の問題に関連し、人倫を育てる基（もとい）となるのは母親であり、そこが崩れれば家庭が崩れ、ひいては国家の崩壊にまでつながっていってしまうことを教えて頂きました。他にも「悟りは、感謝し恨まず、言わばマイナスイオンのようなもの」と言われた言葉が心に残りました。その後声をかけて頂いた折、私の言葉を受けて「よく本質をとらえたことを言い、素晴らしい」と身に余る言葉をかけて頂いたことは、今回の合宿一番の喜びです。

友どちと過ごしし日々を思ひ起しまた来年もと思ひを決めぬ

「感動」なくして詩や歌は書けない

（一橋大学　経済　一年　小柳　元）

普段とは全く違う非常に濃密な四日間の生活でした。輪読や唱歌の合唱は自分にはとても新鮮に感じられました。中で

カメラ・レポート1

合宿初日の受付にて。これからの三泊四日に思ひを馳せる。

も何より心に残ったのは三日目の「短歌相互批評」でした。小学校や中学校でも詩や俳句を書く授業はありました。プリントを配ると先生は「授業の終わりまでに詩を書いて提出して下さい」と言って教室を回り始める。僕はこの手の授業が苦手でした。ただ単に自分の気持ちを文字に表すのが不得手なだけだと思っていましたが、それが理由ではありませんでした。「感動」なくしては詩や歌は書けないということに「相互批評」を通じて気付くことができました。

我が国を守りきたりしみ祖先らの志を継ぎて我も生きなむ

理屈ではない感動があふれていた

（北海道大学　文　三年　小林雅典）

本当に多くの感動があった合宿でした。学んだことも多かったのですが、それよりもただ〝感動〟したことの方が私にとても意味深かったように思えます。説明などは一切必要なく、ただ深い感動のみがある。本当に重要なことは、そういったことなのだと思いました。講義にしろ短歌にしろ、また班別研修にしろ、そこには理屈ではない感動があふれていたように思います。班別研修で語り合ったことを私は生涯忘れないでしょう。本当に有意義な四日間でした。

霧島で集ひし友と遅くまで語らふ夜ぞはやくすぎける

人と人とのつながり

（九州工業大学　情報工　三年　秋田崇文）

今回の合宿で体験的に学んだことは、人と人とのつながりであった。合宿では班長として積極的に話しかけるように心懸けた。自分が相手の心に踏み込むだけ、皆は応えてくれた。人と人とが真剣に付き合うためには勇気が要るという大切なことが学べた。

そしてもう一つ、自分も和歌を詠むようにしたいと思った。三十一文字（みそひともじ）のリズムは心地よく人に感動を与える。合宿の終わりに班員のひとりが自分宛に歌を詠んでくれた。その気遣いが嬉しかった。そういった心遣いが日本の豊かな精神情緒を育むのだと思う。日本に受け継がれゆく大切な文化にこれから親しんで行きたい。

合宿で得難き友に会ひぬれば大事なことに気付かされしも

「運命愛」という言葉

（㈱寺子屋モデル　三林浩行　四十歳）

本当に鍛えられた合宿だった。

天皇陛下に喜んで頂こうと民が努力する。これは日本の国柄と歴史伝統の中でもとても大切なことだと思った。

また、井尻千男先生から教えて頂いた「運命愛」という言葉、そこには人生を本気にさせるものがある。山を降りても

この事を信じて生きよう。

秋田崇文君の全体感想発表

身震はせ涙を流しよい短歌ができたのですと友は語りぬ

皆が目を輝かせて

（戸田建設㈱　青山直幸　五十八歳）

今回の合宿は、従来の四泊五日から三泊四日となり内容が希薄にならないか、未消化にならないか心配であったが、逆に流れもスムーズで、内容的にもコンパクトで密度の高い合宿になったと思ふ。講師の方々の御話も、現代日本の抱へる根幹的な課題に迫る内容で、しかも学生諸君にも自然に浸透していくやうな御話であった。占部賢志先生の〝生き方の鑑としての歴史〟の御講義は、正にこの合宿の追及するテーマのエッセンスを凝縮した内容で、実に素晴らしかった。

今回、短歌創作導入講義をやらせて戴いた。時間の関係もあり、不十分な内容で果たして若い学生諸君に短歌を創る喜びを味はってもらへたかどうか不安であった。

私が班付をした一班では、班別短歌相互批評の後、班員皆が目を輝かせて「本当に楽しかったです」と口々に言ってくれたのが、本当に嬉しかった。また、唱歌のコンサートは実によかった。今後も国文研の活動の一つとして、展開していつたらどうかと思ふ。

カメラ・レポート2

主催者を代表して㈳国民文化研究会・小田村四郎会長は「第一回合宿を行ったこの霧島の地で合宿教室を開催できたことを嬉しく思ふ。（現代を取り巻く）様々な問題について、自分の頭で考へ、自己を確立することが大事である。交流を深め、本当の心の友を作ってほしい」と挨拶された。

班別短歌相互批評にて

班員の指摘を受けて笑顔失せしばし黙したる友のありけり
己が思ひ表はす言葉見つからず煩悶続ける君が姿はも
苦悶する友の気持ちをおしはかり言葉探しぬ班全員で
やうやうに己が気持ちにかなひたる言葉見つかり君は笑みたり
お互ひに笑み交はしつつ良かったねと喜び会へる班のみ友ら
本当に楽しかったですと語りたるみ友らの顔晴れやかに見ゆ

第二班―男子学生―

本気で語り合える友を得た

（東京理科大学　理工　一年　小柳宏太）

今回の霧島での合宿において最も大きな収穫は友人や先輩、後輩との出会いでした。自分には、本当に仲の良い仲間がいますが、本気で意見をぶつけ合う仲間はいませんでした。しかし、ここで出会った仲間は本気で語り合える人たちでした。この出会いをたった一度で終わらせるのではなく、これからも大切にし、より深い関係に築いていきたいと思います。

次にたくさんの講義や先生方からして頂いた話の中で最も感動したのは、長内俊平先生が最終日の朝に『おぼろ月夜』を歌われた時でした。ただ歌われるのではなく、昔先生が家族と皆で歌われていた時の情景を説明しながら歌われ、最後に「家族皆が同じ歌を歌える、それが伝統がしっかり継承されているということです。私はそれだけでもいい。」とおっしゃった時、私は涙があふれて来ました。

夜を明かし酒酌み交はし語り合ふ友の瞳はいと輝けり

友との出会い

（玉川大学　通信制　三年　本間隆宏）

今はただ皆と別れることが寂しい。あと数日、せめてあと一日あったらと思う。もっと話したい男がたくさんいた。夜中、他班の部屋に押しかけて寝ている人間を起こして語り合い、一つの部屋に様々の班の人を集めて明け方まで語り合った。その中で野間口俊輔という男に出会った。初日の晩、班員とともに彼の部屋に押しかけると何人かの学生が卓を囲んで談笑している。そこに立ち交じって話をしていると唐突に彼は自分の悩みを語り始めた。何かをしたいが何をすればよいのか自分にもわからないという彼の、溢れる情熱のやり場に困ってどうしようもなく煩悶している姿に僕は過去の自分を見る思いがした。僕はただ、同様の悩みを抱えていた当時、如何にしてその漠たる難問に処していたかという自分の経験しか語り得なかった。誠実に話してくれた彼の思いに応えられたか甚だ不安であったが、翌日彼の方から昨日はありがとうと声をかけてくれた。僕は嬉しかった。少し気は小さいがまごころのある気持ちのいい男である。熊本と東京ではある

が、連絡を取り合い、これから長く付き合っていきたい。

東京に来たらばかならずわが寮を訪ひ給へ酒くみかはさむ

日本人としての自覚を持つ

（九州工業大学　情報工　四年　多賀祐之介）

今回の合宿での自分のテーマは吉田松陰先生の「己の地己の身より見を起すべし」という言葉でした。九工大生としての立場、または日本人としての立場からの意見が自分自身の言葉で伝えられるようになること、それが今回の合宿に参加した目的になります。言い換えれば日本人としての自覚を持つ、といったことにもなるでしょう。そうした目で合宿を見ますと、すべての講義、講話が自分のために用意されているのではないかと思えるほど、私にとって貴重ですばらしい経験でした。特に寳邉正久先生の御講義に感動し、先生の青年期の悩みや想い、日本に対する真剣な態度を思いますと、思わず涙が溢れそうになり、寳邉先生に対する尊敬の念と、先生のような想いが自分にはあるのかといった自省の念にかられました。深い深い友情、人と人とのつながりの中で各々が切磋琢磨する姿は美しいと思います。深い付き合いの中から、己の地を再確認し、己の身を修めていくことから、日本人とはどういったものか、ということが分かってくるのではないかと感じました。

友どちの涙ながらにとつとつと感想を語れば涙出で来ぬ

参加者を代表して、九州工業大学四年・林祥人君は「自分の気持ちを率直に語り、仲間の声を素直に聞くことで、初めて心から付き合へる友となれる。素晴らしい合宿にしていきませう」と呼びかけた。

自分の考えをしっかり伝える

（福岡大学　商　三年　北野雄一郎）

合宿初日はわからないことばかりでしたが、二日目からは講義の内容も少しづつわかるようになって興味も湧き、少しづつですが面白いと感じられるようになりました。普段の生活ではなかなか自分の意見を言ったりすることがなく最初は緊張もありよく言葉に詰まったりしていましたが、段々と自分の考えをしっかりと相手に伝えることができるようになりました。それは自分にとって大きな成長だと思います。短歌創作も生まれて初めての経験で戸惑いが大きかったのですが、いざ作ってみると、その奥深さ、面白さに気付き、食事や休憩の時間も考えてしまうようになっていました。占部賢志先生の講義でも硫黄島の戦いの話には思わず胸にこみ上げるものがあり、そして今までそのことを知らなかった自分の無知を感じました。この合宿での経験を始まりと思い、これからさらに深く学んで行けたらと思います。

研修はわづか四日で終れども我が勉学は今始まりぬ

貴重な体験

（法政大学　工　三年　吉村常男）

今回自分はこの国文研の合宿は初参加でした。父の紹介で参加することになり、この合宿の地に来るまでも、また、合宿が始まっても、気持ちの乗らないまま参加していました。しかし、日程も一日目、二日目と過ぎるにつれて、また先生方の御講義を受けるにつれて、今のままではせっかく鹿児島の地にやってきて何も得ることがないまま合宿が終わってしまうと気付き、何でもいい、少しでもいいから得て帰ろうと気持ちを改め、最後の日を迎えることができました。この夏が終わると同時に就職活動を始めようと決めていた自分の中で、ここまで貴重な体験ができたことにとても感謝しています。この鹿児島の地で日本の文化、歴史を学ぶことができ、班の皆さんと色々と討論でき、自分の意見を伝えることができて、うれしいとともに楽しめた四日間でした。この合宿の関係者の方々ありがとうございました。

合宿を終へてぞ感ずるこの心友人たるもの心のつながり

「感動、疑問を多く持て」

（崇城大学　芸術　二年　宇野浩一）

今合宿では先生方の講義や班別での皆さんの発言、感想等、話を聞いていると、日本の魅力に引き込まれ、自分の思いや考えていたことは小さすぎたのかなと思いました。御先祖様の多くの災難、ご苦労があってこそ今の自分が存在するのだと深く気付かされました。このようなことは今まで考えたことはなく、生きている事が当然かのように簡単な思いで今まで過ごしてきたと思うと情けなく思う次第です。また特に思

い知らされたのが、何についても感想がうまく言えない、話せないという点です。二日目の夜、他の班、また二班の方と話をしていく中で自分には感動、疑問が少ないという指摘を受け、その二つを持たないと感想にしても、ただ語るにしても、うまく話が繋がっていかないと思い、これからの自分の気持ち、自分という人間を理解していきたいと強く思わされました。この合宿に来ての気付きは自分の主張不足というところです。主張不足の要因に「感動、疑問を多く持て」ということがあり、これから自分自身の課題になりそうです。皆さんが自分の事を考えて、語ってくれた事に一番感動しました。

感動と疑問を持てと我のため皆の語れば涙流れき

涙多き合宿

（㈱若築建設　池松伸典　五十一歳）

今回の合宿では、班付として貴重な体験をさせて頂いた。運営についてのお手伝ひは、一切要求されることなく、学生と同じく全ての講演、班別討論に参加させて頂き、大変な贅沢をさせて頂いたことを感謝します。

全体を振り返つて、今回の合宿は涙をもよほすことが多い、感動させられる体験であつた。運営委員長をはじめ関係者のたゆまない努力の中から生み出された素晴しい合宿であつた。全体発表の中で九工大の仲間と同じ班友同士のやりとりの話

カメラ・レポート4

オリエンテーション。藤新成信合宿運営委員長（左）から合宿趣意説明。・横畑雄基指揮班班長（右）から諸注意がなされた。

しに涙させられた。友と心を開いて語り合ふと一言でいつても、容易に出来ることではなく、その苦しみの中から心が通じたときの思ひを涙ながらに語る友の姿に自分も涙した。この友を求める貴重な思ひを絶やすことなく、輝きをましていくものは、これからの連絡交流である。事ある毎にメールやたよりを出し合ひ、拡げていきたいと思ふ。

全体感想自由発表をききて

班長の役目果たせずと泣く友にさにはあらずと友は涙す
次々と段上に立ち涙する友の姿に我も涙す
なかなかにいたらざる身の我れなれどさればこそ友とつながり生きむ
友思ふことこそ学問のはじまりとつくづく思ふ友らの姿に

第三班—男子学生—

短歌相互批評が楽しく感じられた

（九州工業大学　情報工　三年　瀬木裕太郎）

今回の合宿は私にとって三回目でした。その体験の中で最も短歌相互批評が楽しく感じられた合宿でした。正直、班長である私は相互批評をするまで不安でした。ほぼ初めて短歌を作るといふ班員が半数以上ゐる中で、どの様に進めていいかわかりませんでした。しかし、始まつてみると思つてゐたよりもはるかに高いモチベーションを皆が持つてゐて、良い雰囲気で楽しく行ふことができました。班員のみんなが「心をよせる」といふことに真剣にとりくんでゐた。しつかりと詠み手の心を理解しようとしてゐた。さういつた皆の態度は私にとつてとても良い刺激になりました。班員のみんな、内海勝彦さん、大津健志さんありがたうございました。

詠み人の心をみなで共感す相互批評の楽しみなるかな

ありがとう。ありがとう。ありがとう。

（中村学園大学　人間発達　四年　松堂琢磨）

今回天孫降臨の「高千穂峰」を仰ぐことはできなかったが良き思い出を思い出させてくれた霧島に感謝したい。ありがとう。また今回寝食を共にした班員、それから班付の皆さんにも同じくらい感謝している。班別研修、夜の語らいは実に得るものが多く、また大きいものであったと信じている。そして今回の合宿教室の運営スタッフの方々、貴重なお話をして下さった先生方にも感謝の気持ちを伝えたい。

ありがとう。ありがとう。ありがとう。何度言っても言い尽くすことが出来ない。それ程、私にとってこの合宿教室は尊いものであった。また皆に会いたいと思う。その様に思える出会いがあった。志を同じくする者同士共に頑張ろう。

天皇陛下の御製を拝誦した折に

国民を思ひ給へる御心を我もまた思ふ霧島の空

日本人の心の素晴らしさに感動

（九州大学大学院　工　二年　藤浪武志）

先生方の講義を通して多くの和歌、日本の文化に触れてゆく中で、日本人はこれほど素晴らしい心を持っているのか、こんなにすごい文化を作り上げてきたのかということに感動しました。これほど素晴らしい祖先の方々に恵まれた日本に生まれることが出来た自分は何と幸せ者だろうと感じました。良い国を作りたければ、ただ表面的に日本の文化を知るだけではなく、心から日本の文化を感じ、真の日本人になって皆と一緒になって頑張っていかなければいけないと思いました。

霧島で日本の文化に触れたれば我気付かされし己の未熟さ

班別での話し合いが面白かった

（福岡大学　商　三年　辻　幸希）

班別討論では、皆の意見や考えに必死に食らいついていこうとメモをとり集中して考え、自分の発言と比べたりして、終わった時にはただ自分のレベルの低さに驚きました。しかしこういう自分の考えを率直にきちんとした場で述べることが普段なく良い刺激になる。貪欲に学ぼうと思うと、班別での話し合いが面白くなってきました。後輩もですが先輩方の意見は話の筋がしっかりしていて難しい言葉を使われるが、毎回のように「へえー」とうなずかせていただきました。古

カメラ・レポート5

合宿導入講義。㈱寺子屋モデル代表世話役・山口秀範先生は「日本人は先祖がそれぞれの立場で、精一杯その時代を支へた人々であったと信じることができる歴史を持ってゐる」と語られた。

文などはすごく消極的になっていました。しかし、心で感じることは出来ると思い、短歌には特に真剣に臨みました。

終らない班別討論にて
人と人言葉と言葉夜ふけまで決着つくのはいつのことかな

古事記や和歌を口に出して読んだ

（千葉大学　法経　一年　田村　俊）

私がこの合宿で得たものは二点です。一つは、古事記や和歌は口に出して読むことが必要であると認識できたことです。古事記の文脈、アクセントが私にはすごく心地よかったし、また、岸本弘先生の「古事記の勉強の際には資料は無かった」とのお話を聞き、なるほどと思いました。二点目は相手に対する自分の態度が重要だと言うことです。友達との話し合いの中で、相手が何を言いたいのか、何を欲しているのか、それらを理解し、相手のためになる回答を出すという態度が私には欠けていたことを感じさせられました。これからはきちんと対応できるようにしたいと思いました。

合宿を終へて
友どちと研鑽終へて山を下る今一度の別れとぞ思ふ

日本の「心」を学ばなければ

（日本大学　経済　一年　奈良崎大祐）

自分が生まれた日本とはどのような国であるのかを知りたいと思って参加しました。講義や班別研修を通じて感じたことはまず「日本」を知るためには、古来からの伝統、文化、歴史を学ばなければいけないこと。またそのようなものを大切にし、受け継ぎ、伝えていかねばならないこと、そして伝えてゆくためには伝統、文化、歴史を、知識だけではなく、その「心」を学ばなければならないと思いました。次に、「自分の言葉で語る」難しさを痛感し、語るためには今回の合宿のような場に数多く出る事が大切だと思いました。

班別討論にて
我思ふことを相手に伝ふるはかくも難儀と痛感しけり

多くの学生が集まったことを嬉しく思った

（東京大学　教養　一年　松藤　卓）

今回初めて合宿に参加しましたが、全国から多くの学生が集まったことをとても嬉しく思いました。以前大学で講演会を企画したのですが、一人しか人を集めることができませんでした。そうした経験があったので、学びたいと思う学生がたくさんいてよかったです。

学ばんと思ふ友どちあまた居り我はたいそう嬉しく思ひぬ

知ることの難しさを教えて下さった

（飯塚市立鎮西中学校教諭　大津健志　二十八歳）

今回初めて班付として合宿に参加したが後悔が残る結果となってしまった。自分がどれだけ必死にやったかと疑問が残るからだ。全体自由発表で、ある班の班長が、班付のアドバイスのおかげで満足のいく合宿を送れたと発表したのに対し、私の班の班長は自分がふがいないと恥じた。私は胸が一杯になった。私は班付として何が出来たか。

班別討論の時、長内俊平先生は知ることの難しさを教えて下さった。知ることは、知解・体解・信解（心解）と三つある。頭でいくらわかったとしても次の日に行動を起こすように変っていないと知ったことにはならない。心の底から感じるとはとても難しいことだ。難しいことだからこそずっと考え続けなければならない。私はまさに頭で理解したが行動には移せなかった。とても痛い経験となったが、今後も班のメンバーとつながっていきたいと思う。

全体感想自由発表を終へし折に
知識にて知ることでなく心にて知る難しさ心に染みる

素晴らしかった「唱歌のこころ」

（㈱アイ・エイチ・アイ・エアロスペース　内海勝彦　五十一歳）

第五十一回を霧島の地で開催できたのは大変有意義であっ

朝の集ひ。ホテル正面広場にて国旗を掲揚し、ラジオ体操をして一日の研修が始まる。

たし、合宿の流れと相俟って印象深かった。また、コンサート「唱歌のこころ」はバリトン歌手山本健二氏の歌声のつややかさと歌の心が伝はってくる素晴らしいものであった。この合宿では度々唱歌を歌う機会があったが、いつも心に沁み入る時間であった。

今回九州から多くの社会人が参加されたのは藤新成信運営委員長や㈱寺子屋モデルの山口秀範社長はじめ九州の方々のご尽力の賜と思ふ。日頃いかに真剣に活動され、勧誘されてゐるかを思ひ頭が下がる。今合宿教室の運営に携はってこられたすべての皆様に感謝致します。

「合宿を顧みて」藤新運営委員長挨拶を聴きて

一年の準備の様を語らるる友のみ声の涙につまりぬ
なりはひの忙しき中励み来し様しのばれて頭下がりぬ
コンサートに集ふ人みな「よかった」と言はれしことの嬉しとのたまふ
己の地己の身より動かれし友の姿の尊く思ほゆ

第四班―男子学生―

自分も日本の一部である

（九州工業大学　情報工　二年　谷口耕平）

終わってみて思うことは本当に参加して良かったということです。さまざまな話を聞き、仲間と議論するということを朝から晩まで、時には深夜まで行いました。この時間の中には本当に多くの感動がありました。最初の山口秀範先生のお話では日本の深い歴史、そしてその天皇家の万世一系を軸にしたたくましき流れを感じ、その歴史の中に自分も生きているという事実をみつけ、自分も日本の一部であると感じられました。この感情はこれからの勉強の基になるものと大切にしていきたいです。

他にも大切なものを得ました。それはもちろん友です。たった四日間の合宿の中で本当に信じられると思える友人を得ることができたという事にはとてもおどろいています。

古ゆ御祖（みおや）の守りし伝統を友らと共に守り行きたし

蘇った神話の景色

（福岡教育大学　教育　三年　平田無為）

合宿を通して、自分の歴史に対する姿勢がいかに傲慢であったかを気付かされました。岸本弘先生が古事記を朗々と暗唱されるお姿や、小柳陽太郎先生が古事記の言葉を一つ一つひもといていかれたことを目のあたりにして神話の景色が自分の中に甦ってくる思いが致しました。こんなに古事記を面白い、美しい世界だと思えたのは初めてのことです。また、三日目の占部賢志先生の御講義を拝聴し、その班別研修の中で班長の野村亮さんが「河村幹雄博士と学生の地質旅行の中

での炭酸水を渡すやりとりが焼きついている。自分もああいうつきあいをしたい」と涙ながらに語っておられました。その時はじめて、自分は歴史から離れた場所で、その有り様を淡々と語っていただけなのだと気づきました。自ら歴史の中に飛び込み、その感動を味わうということを久しく忘れていたような気がします。

もろともに姿勢を正して読みてゆく古事記の調べに心踊りぬ

えもいはれぬ古事記（ふることぶみ）の言の葉の麗しき景色をひもとく楽しさ

河村幹雄先生と学生の付き合いに感動した

（早稲田大学　社会　修士二年　野村　亮）

私は占部賢志先生の御講義に紹介されていた河村幹雄博士の短歌に大変感動しました。河村先生と学生の付き合いは本当に美しいと思います。

私は班長をしておりましたが、四日間、班員の気持ちに迫ることができたのかと思い返します。私は彼らの悩みや家族の事、学校の事、趣味の事、将来の事、人生の事、学問の事などの切実な思いを中々引き出せずに終わったように感じます。班員の言葉をよく心に染みこませるように聞いたのか今は省みています。わが国の先人達のことを共に熱く、激しく語り合いたいのです。きっと自分自身の心がまだまだ先人達に迫っていないのだと思います。

古典導入講義。元富山県立富山工業高等学校教諭・岸本弘先生は、皇后陛下の「立太子礼」の御歌に豊玉毘売命の歌の一部が引用されてゐることを紹介され、「古代から平成の御代まで脈々として国のいのちが伝はってゐるありがたさを感じる」と語られた。

占部先生の御講義で河村先生の御歌を拝見して

ほほゑみて炭酸水をささげ立つ教へ子達の姿を思ふ

炭酸水を恩師の為に購ひし教へ子達の清き心よ

師の為を共に思ひし学生達の深き付き合ひの美しきかな

師の君は講義の最後に述べたまふ「心より語れる友を求めよ」と

歴史を知らない自分

（佐賀大学　文化教育　二年　佐々木晶）

今回の合宿教室で一番心に響いた言葉は、井尻千男先生が班別研修で言われた「君は歴史を知らない」という言葉でした。確かに自分は歴史を深く学んでいるわけではなく、漠然と歴史を学びたいなという思いだけで、しっかり学んでいませんでした。井尻先生の言葉に自分の姿勢が改められると同時に、今の混迷の時代における指標を歴史に見出すべきであると強く感じました。

この合宿教室はほんの三日前ぐらいにはじめて出会った学生も、班別研修や寝食を共にする中で、今まで何年も付き合っているような友と感じられることがすごいな、と思いました。

合宿に友らと学び過ごしゆく時間のはやきをしみじみ思ふ

多くの友人を得た

（下関市立大学　経済　二年　横手健太郎）

今回が二回目の参加でした。去年は右も左も分からず戸惑ってばかりでしたが、今年は二回目ということもあり、多くの友人ができました。もちろん講義の方も学び、感動することが多くありました。何か理解し、自分の心の中に染みてゆくにつれて、喜びとともに、また勉強が足りないと反省します。今回一番感じたことは裏方として支援して下さっている多くの人々、今回の合宿で得ることができた多くの友人でした。円滑に合宿が運ぶように大変苦労して働いて下さった人々、とても親切にして下さったホテルの方々、この合宿を応援して下さったすべての方々に感謝します。それともう一つこの合宿で得た多くの友人、夜遅くまで語り合い、とても合宿を楽しく過せました。ありがとう。

短歌全体批評にて

我が歌の批評を聞けば嬉しくも恥づかしくもあり楽しきなかに

親不孝の自分

（九州大学　工　三年　馬場章央）

今回の合宿で一番考えさせられたことは家族についてです。みやまコンセールで皆と童謡を唱和しているときに、僕の頭の中に浮かんだイメージは剣幕顔の母でした。僕の母は家族

というものを本当に大切にしている人で、特に僕が大学のバドミントンサークルのキャプテンになってからは、「毎日夜遅く帰ってきて親不孝だ」「勉強をおろそかにして親不孝だ」と毎日のように言われています。それでも朝になればサークルに出ていく僕に「いってらっしゃい」「気をつけなさい」などと言ってくれるのを思いだすと、本当に自分は親不幸者だと思いました。そして、矛盾しているかもしれませんが、親不孝してまで選んでいる道をしっかりやり遂げたいと思いました。

友みなと朝まで語らひもろともに食べしラーメンの味うまかりき

良い合宿だった

（㈱みずほコーポレート銀行　小柳志乃夫　五十一歳）

良い合宿でした。藤新成信君を中心とする運営委員の方に感謝したい。山口秀範さんの〝ルーツ〟の話が合宿前半の基調をなし、山本健二先生の唱歌に心をとかす一時を経て、後半は占部賢志さんのご講義、實邉正久先生のご講話と〝信〟の世界に展開するといふ見事な流れでした。

合宿を通して、亡き祖先或は亡き師友から呼びかけられてゐる声、それに耳をすませるのがこの合宿ではないか、そんな感想を抱きつつ過しました。

運営委員長挨拶を聞きて

この一年合宿準備につとめこし友がいたづき偲びまつりつ

二日目午前。拓殖大学日本文化研究所所長・井尻千男先生は「自分が意志することなく生まれた郷土や国を愛する心は、運命とか宿命を愛する心につながる」と説かれた。

〝自他の二境を分たぬ〟学びの道求め歩みきませしこの幾年を

第五班―男子学生―

貴重な出会いと語らい

（東京大学　教養　一年　内海雄太郎）

毎日深夜まで、時には夜明けまで様々な人達と様々のことを腹を割って語り合った。人々は誠意に満ち、歴史に対し誠意を持って向き合い、真実を見極めようとしていた。相手に対して誠意をもって接し、共に生きようとしていた。自らに対して、誠意をもって評価し決して覆ることのない誇りをもっていた。このような人達に会えたこと、このような環境に参加できたことが嬉しかった。

父母が勧めし合宿いつの日か我が子供にも勧めてやりたし

先生方の和歌、古事記に対する姿勢、眼差しを学んだ

（佐賀大学農学研究科修士二年　小代智之）

僕は今まで「生き方」について本気で考えていなかったのかもしれません。

最近ではマスコミでも、戦後の歴史観の見直しが取り上げられ、本屋に行けばそういった本もいっぱいあるので、一人でも知識を増やすことはできますが、それだけではこの合宿で出会った先生方のような人間には近づけないだろうと思います。先生方が僕たちに伝えようとしてくださったものは、ただ知識を増やすということではなかったからです。和歌を詠むときの先生方の姿勢、眼差し、古事記を読むときの声やリズムなど・・。何かそういったものは自分をかけて努めてこられたからこそ伝わってくるのだと思わされました。

我はまだ何もしてない未熟者学び学びて心を磨かん

日本人の共同体の力を示された河村幹雄先生に学ぶ

（日本青年協議会　外村聖典　三十二歳）

五十年を経て、霧島の地で合宿ができること、学生協会の方々の御跡を偲ぶことができることを大変ありがたく感じました。

今合宿では占部賢志先生のご講義が心に残りました。河村幹雄博士が『思想国難の叫ばるる今日緊急なるは「学校の社会化」ではあらで其の「家庭化」に御座候』と記された言葉に、思想混迷の根本原因を鋭く見抜かれた、先生の日本思想の確信を感じました。西洋思想が日本人の心を細分化し群集心理化せしめていく中にマルキシズムが入り込むという、当時の危機に立ち向かっていかれたのが河村幹雄博士なのだと分かりました。そして博士はマルキシズムの一青年、笹月清美の心に立ち入って、和歌の力で心を救っていかれた。そこ

にこそ我らの指標となる学問姿勢があると感じました。
博士と共に歩まれた三井甲之先生、学生協会、国民文化研究会と続く日本思想の系譜に連なる我らの使命を尊く感じた次第です。

古事記によって日本人の国柄を感じることができた

（九州工業大学　情報工　四年　林　祥人）

まず今回の合宿で感じたのは、日本の国柄がどういうものかということです。特に古事記を通じて、ともすれば作り話と笑われてしまうような話を、千年も二千年も語り継ぎ、それを大切にしてきた日本人の精神性、そしてその精神の中央には天皇が居られたということを感じることができました。そしてその国柄を守ろうとし国民を守ろうとしてきた方々の生き様を学ぶことで、そういった人の気持ちに近づきたい、少しでも近づけるような勉強をしたいと思いました。
また、班員の仲間が分からないことに対し本気でぶつかってきてくれたことが嬉しかったです。本気でぶつかり合うことで本当に心から語り合えた気がします。

感想発表を聞きて
涙ため想ひを語る御友らの姿に我も涙ぐむなり

カメラ・レポート9

講義中の一コマ。先生のご講義を真剣に聞く学生達。

日本人に生まれた喜びと感謝の念が湧き出てきた

（九州大学　修士　二年　山崎寛一）

「伝統は事実の継承である」と山内健生先生からお聞きした言葉が忘れられない。日本で行われている様々な行事が、まぎれもない事実の積み重ねであり、そうして成り立つ深き歴史の上に、私自身が立っている。日本に生まれた喜びと感謝の念が山内先生のお言葉を聴いた時から尽きることなく湧き出てきて、どうして先人たちが託した、日本の誇りや伝統を感じなかったのか、大切な事実を消し去ろうとしていた自分への反省でいっぱいだ。

この合宿で学んだことを基礎として、自分の役割を考え、人のため、日本のために生きていきたい。

先人の短歌や御心に聞き入れば日本の誇りの湧きいでにけり

同世代の人達が持っている向上心に刺激を受けて

（福岡大学　商　三年　福元　拓）

今回一番強く思ったことは、他の参加者達の目的意識が高い、ということである。自分はただ毎日を過ごしているという感じであったため、同世代の人達が高い向上心とやる気を持っているのを見ることにより、ものすごくいい刺激をもらうことができた。

祖父の手の数多のしわが語りくる言葉無けれど思ひ通ずる

連作短歌にこめられた力

（長崎大学　教育　二年　羽廣弘太）

今回の合宿で一番心に残ったのは占部賢志先生の御講義でした。明治維新以上に精神的に混乱した時代であった大正時代に、学生の笹月清美が真にマルクス主義から脱却したのは、河村幹雄博士からの十三首の連作短歌によってであったという。自らの心と向き合い紡ぎだされた言葉にこそ思想的混乱に陥っていた笹月清美の心を救う力が宿っていたのである。大正時代を風靡し、今の世も包み込んでいる思想的混乱は私の心にも見られると思う。私の心の中で〝誠を尽くしたい〟と思う精神と自己に固執する行き過ぎた個人主義とも言える精神が時に対立し混沌となる。これを打破する為には、自分の心としっかりと向き合い自らの誠心を紡ぎ出して行く営みが大切だと思う。

日本に受け継がれこし赤心を宿しゆきたし己が心に

唱歌に込められた日本人のやさしさを知った

（明星大学　日本文化　四年　高橋佑太）

二日目にみやまコンセールで山本健二さんの唱歌を聞いた時、なつかしい思いがしました。とても歌詞が素直に伝わってきて特に「雨降り」に歌われている子供の優しさがとても好きで、そのことを短歌にしました。その歌を班別相互批評

に来て頂いた小柳陽太郎先生に「いい歌だね」と言って頂いたことがとてもうれしかったです。

私は神社の前では頭を下げて通るような日本人としての常識をもっと知りたいと思いますし、合宿を経てそのような生活をしたいと思うようになりました。

短歌相互批評の後、小柳陽太郎先生の話を聞く

先生の学生時代の学生は国を背負ひし気概を持てり

相手の話を真剣に聞く態度に感化させられた

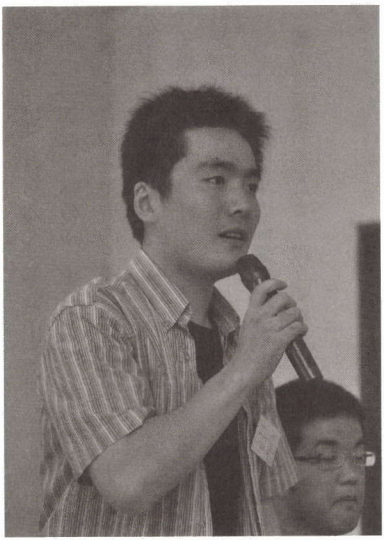
（志學館大学　法　三年　野間口俊輔）

今回の合宿で日本人とはどうあるべきかを学ばせて頂きました。外交問題、政治など私が考えたことのないような領域まで、話が及び、疑問点も多々ありましたが、「すごいな」とただ素直に思い、考えさせられました。

私はこの合宿を期に、大学生らしい大学生になりたいと思い、自分を変えたいと心から思いました。

一種のカルチャーショックを受け、心が動きました。皆、人を上っ面だけで見ない姿勢があり、相手の話を真剣に聞く態度には本当に感心させられました。

夜を徹し熱く論ずる若人の語りし言葉に我感化せらる



井尻先生の講義後、真剣に質問を述べる学生。

第十一班―女子―

内容も新たな合宿だった

（熊本県立菊池高等学校教諭　久保田　真　四十一歳）

五十一回目の今回の合宿は内容も新たなものになったと思ひます。井尻千男先生は戦後論をお話しされましたが、本格的な戦後論は初めてだったのではないでせうか。唱歌の取り組みも最初でしたし、期せずして河村幹雄先生の女子教育論が出てきたのもさうではないでせうか。

井尻先生のやうにおかしいことには「冗談じゃないよ」と毅然と言っていきたいと思ひました。慰霊祭で深々と頭を下げられる先生方のお姿が印象に残つてゐます。

三泊四日の合宿を終るにあたり
和やかに語り合へたるこの日々を共に過ごせること有難し

方向誤れる世の中もなほしくなる

（阿部サナエ　七十七歳）

麻の中のよもぎ　筒の中の蛇（くちなは）墨（すみ）うてる木の自体は正直ならざれども　自然に直くなるが如し。

世の人をこの合宿に参加させて頂けば、方向を誤れる世の中も、なほしくなると思ひます。

胸におちるお話や年配の先生方のご風貌やお話に接して、私は化（け）せらることが澤山ございましたし、多くの若い方々の参加に日本のゆく先に希望ももつてゐます。

長いことの先生方のご運動に感謝いたします。参加いたした者として菩刹の業をいたしたく存じます。

天皇陛下、天皇制の有難さをこの参会で教へていただきました。周囲に話したく存じます。

井尻千男先生の御講義をおききして
師の言葉尊しここより歸りてのち孫にもこのこと語り合ひたし

「日本美術全集を読みなさい」

（崇城大学　芸術　二年　折田宇代）

井尻千男先生の「日本美術全集を読みなさい。それに全てが詰まっている。」という力強い一言が一番印象に残っています。私は、美術、デザインを学んできましたが、そのお言葉を聞き、「私は何をやっていたんだろう。」と思いました。頭が一瞬真白になり、「外国の巨匠の作品を学び、私は何を分かったつもりになっていたのか。」と思いました。国を知らず、国の巨匠達を知らず、日本人である私は何を作り出してゆこうとしていたのか。自分で気付いていなかった薄っぺらな部分をぐさりと貫かれたようなショックを受けました。

帰るとき握り交はせしみともらの手の温かさ今もこの手に

驚いてばかりでした

（大阪大谷大学　教育福祉　二年　松元京子）

初めての合宿で、どんな感じなんだろうとか、友達が出来たらいいなという気持ちでの参加でした。来てみると驚いてばかりでした。合唱を大きな声で歌ったり、慰霊祭や講義等の雰囲気が初めてだったからです。それに日本のことを深く考え、愛している方々にも初めてお会いしたので驚きました。周りには日本について考えるどころか、自分や廻りのことでいっぱいいっぱいの人が多いからです。私もその一人でした。そんな中で、この合宿に来て、十一班の人に出会って、お話が出来て本当に良かったです。短歌に初めて挑戦して、先生方や班の方々に一緒に考えていただいて、生まれて初めて作った短歌が自分にとって素晴らしいものになったことの喜びは大きかったです。

合宿を同じ班にて共にせし友らを一生我忘れめや

日本女性の使命

（株式会社ハウインターナショナル　上河真子　二十八歳）

「婦人の使命とは何ぞ。人文を過去より受け継ぎ現在に拡ごらしめ、将来に伝達すること之なり」との河村幹雄博士のお言葉がありましたが、日本人女性としての使命について、これほど明快に教えて下さる言葉に出会うことは残念ですが、

ご講義後の班別研修。感想を述べ合ふ班員達。

これまで私が受けて来た教育、体験の中には全く無かったです。河村先生の先のお言葉から、私が危機感を感じたのは、女性が使命を果たすことが出来なくなれば、日本の国は崩れてしまうということです。男性が国を護る為に命を捧げる尊い心を戦争の時に生んだのは、当時の素晴らしい女性達の母性ではないかとおもわされることもありました。今、女性が次々に母性を捨てていくことが社会全体で進んでいると思いますが、このままでは、いざ、という時に日本は護れなくなってしまう、女性が国を滅ぼしてしまうと強く感じました。私はまず、女性として自分の姿を振り返り、まず自分が変わることで、この危機に向かい合いたいと思います。

早朝に胸すがすがし霧島の山に向かひて唱歌を歌へば
後輩の涙ながらの述懐に我も涙が頬を伝はれり

日本を深く理解する方法を学んだ

（東京外国語大学　外国語　一年　鴨澤誓子）

この合宿では、日本を深く理解するに当たり必要なことをたくさん学ばせて頂きました。一日目の古事記の講義では、日本の古の言葉の美しさと、古事記を美しく読み上げる岸本弘先生のお声にとても感動しました。二日目の井尻千男先生のご講義では、戦後の日本の問題点を示されるだけでなく、これから私達が日本の素晴らしさを表すためにはどのように行動していけばいいのかを教えて頂き、本当に嬉しく思いました。今、日本では社会が乱れ、道徳が廃れていますが、解決策は教えて頂けずもどかしさがありましたが、先生から日本の歴史を深く学ぶ事や運命愛を持つこと、日本の美術史を勉強することなど具体的に為すべき事を教えて頂き、もっともっと日本の事を勉強したいと強く思いました。

神々の天降りましける霧島で友と学びき日本の心を

班別研修がとてもおもしろいものでした

（麗澤大学　国際経済　三年　小林紀恵）

今回の合宿では、班別研修がとてもおもしろいものでした。班員はみなそれぞれ、年齢も性別も違う人たちが集まり、互いに自分の経験などを語り合いました。なかでも占部賢志先生のご講義の後に「今の日本の間違った女子教育について」様々な意見が飛び交いました。その時は小柳陽太郎先生と末次祐司先生もいらっしゃったので、より内容の濃い意見交換が出来ました。更に班長の久保田真先生は、現役の先生でいらっしゃるので、今の教育の現場の声を聞けて良かったと思います。

今回の班編成はこれまでの学生だけの班と違って、様々な世代の人たちが集まったので、最初は打ち解けられるか心配でしたが、今回のような班の方が学べることが多い場合もあるのだと思います。

友達と互ひの思ひを語り合ふ更けゆく夜に時を忘れて

日本のはじまりをしってほんとう　うれしいです

（㈱菜デリカ九州工場　箕浦イルマ・グラシェラ　四十八歳）

参加をきめて　ほんとに　よかったと思います。はんめんもっと　もっと　日本語を　勉強する　必要をかんじさせられました。レキシをはじめ、わかをひとりでかけるようがんばって、らいねんも参加できればとねがっています。

日本のはじまりをしってほんとう　うれしいです。ありがとうございました!!

先生方の全生命を賭けた思いに感動した

（オルタナティヴ㈱　中川真子　二十七歳）

私の思い、夢、ライフワークは「どうしたら世の中が善くなるのか、一人一人存在全て地球、宇宙、生きとし生けるもの全てが幸せである生き方、在り方をつくること」でございます。その全ての答えが、日本の歴史と文化そのものにある気がしてなりませんでした。今回参加して先生方の全人生、全生命を賭けて伝えていく魂からのご懇切なる思い、姿勢、生き方と出会え、心より感動致しております。山口秀範先生の導入では涙が止まらず、唱歌の部では歌にこめられた想いと旋律が歴史上の声にならぬ声として聴こえて参りました。死を覚悟し戦っていかれた方々を代弁される意志も存分に伝わって参りました。

短歌創作導入講義。戸田建設㈱開発営業部長・青山直幸先生は、古来日本人が大切にしてきた敷島の道（短歌の道）を実生活の中に取り入れていくことが必要であると述べられた。

日の本の国に生まれし我が魂師の君方に感謝ささげむ

深く心に刻まれた先生方のお言葉

（日本青年協議会　別府正智　三十一歳）

井尻千男先生が、昭和天皇御製「松ぞ雄々しき人もかくあれ」に触れながら、「一億なべての国民は、説明などいらず、この御製一つでみな理解した、和歌が政治体制論と直結していたのが日本の姿であった」と我が国の取り戻すべき共同体の姿を示された事が深く残りました。首相も政治家も見る方向は国民か、自己保身にしか目を向けない昨今にあって、見つめるべきは陛下の御心であり、その述懐としての御製であることを確信しました。そこにこそ日本と日本民族が一つになる共同体の世界が実現することを思いました。

寳邉正久先生が「日本民族の鼓動が聞こえていた、それが僕の青春だった」と述べられた言葉の真意を実感することなどは出来ぬでしょうが、先生達が御製を拝し、生きていかれる中で日本国家のいのちと自分のいのちがひとつとなっていかれた言葉のように思い、先の言葉が先生の確かなお声と共に深く心に刻まれました。

「庭の千草」の説明を聞きて

「おくれて一人咲きにけり」とふ言のはに独立の魂留めてぞあり
独立を守る覚悟を言の葉にいのち込めゆきし先達偲ばる

第十二班―女子―

何かがふっきれた

（鹿児島県立短期大学　商経　一年　大園麻都香）

私はあまりこの合宿についてよく知らず、調べてくることもしなかったため、最初の講義からカルチャーショックのようなものを感じた。天皇についてや戦争のことなど現在ではタブー視されているといっても良いようなことを一気にお話されたので、私の頭は混乱してしまった。次にきた感情は反発だった。「それはおかしい」とか「この人達は変だ」とかいう気持ちが喉まで出かかった。しかし、気付いたのは、思想の違いを認めないと自分が前に進めないということである。私は思い込みが激しいし、この話の中にも認めなければいけないことがたくさんある、そう思ったとき、私の中で何かがふっきれたような気がした。四日目の朝、今回悩んでいたこともすっきりし、早朝に見た朝もやが美しく喜びを感じた。

平成十八年八月二十七日早朝

きりしまのやまのむかうにあさもやがひろがるさまはいとあはれなり

充実した四日間

（同志社大学　社会　二年　鎹　純香）

合宿に来て四日目の朝を迎え充実した四日間であったと思います。霧島の豊かな自然の中で、世代を超えた人との出会い、様々の話や歌を聞けたことに感謝しております。講義で、日本の歴史の重みや、脈々と受け継がれてきた伝統の尊さを再認識し、日本人として喜ばしい気持ちと同時に、これからもっと日本の文化を学ばねばと身の引き締まる思いです。和歌を通して、師が弟子を思う情、天皇様が国民を思われるあたたかさに感動しました。そういった思いに応えられるような人間になりたいと思います。

霧島の美しき様に胸うたれかかる心で生きむとぞ思ふ

伝統はまごころで伝えていくもの

（長崎大学　教育　三年　村里友紀）

日本の歴史・伝統・文化は、一人一人のまごころで伝えていくものだと感じた。講師の先生方のお話は内容は難しかったけれども、その話し方から言葉では表せない感動を覚えた。また、唱歌を皆で歌い、今ここでたくさんの人と歌っているという横のつながりと、昔から歌い続けられてきた縦のつながりを感じ、このつながりをもっともっと長いものにしていきたいと思った。そのためには、ただ歌詞を配りメロディー

野外研修。霧島神宮にて集合写真撮影後、参拝。その後、高千穂河原を散策した。

を聴かせるだけでは本当の意味での伝承にはならないだろう。山本健二先生は歌の合間に歌詞の内容や自らの感動を述べられた。まごころをもって歌唱指導をされたのである。まごころは相手のまごころを打つという言葉もあるが、伝承とは日本人のまごころが形となって伝わるものだと改めて感じた。

日の本に受け継がれ来しまごころに連なりわれも生きむとぞ思ふ

日本語の美しさと短歌の奥深さ

（谷由香里　二十六歳）

合宿の参加申込みをする時に、短歌を詠むことを聞き、何故短歌と日本の歴史・文化がつながるのかなと思っていました。短歌のこと自体もよく分からずにいました。というのも学生の頃、一番の苦手としていたのが国語で、いつも試験の為にしか勉強していなかったからです。今思えば、もっと勉強しておけばよかったという気持ちもありますが、今回の合宿で初めて日本語の美しさや短歌の奥深さを感じ、少し勉強を深めていきたいと思いました。

合宿を通して、日本文化・文明の普遍性のすばらしさを感じ、先生方の指導の温かさを感じました。今回合宿で学んだことを少しでも周囲へ発信して、日本人としての誇りを後世へ伝承していきたいと思います。

朝起きて窓をのぞけばわがこころ朝霧見つつ澄みわたりゆく

日本人としてのアイデンティティ

（目黒区教育委員会　近藤雅美　二十七歳）

合宿二日目の井尻千男先生の御講義では、農地改革の折の陛下と国民との目に見えないつながりを聞き、先生がなぜこのように話しておられるかという質問に、万世一系の天皇をお守りするためと答えられた時、心が沸き立つ思いでした。三日目は高千穂の峰のそばまで行き、ここに天より邇邇芸命が降り立たれたと思うと、緑の美しさや山々の清らかさから荘厳な気持ちがしました。また、占部賢志先生のお話の河村幹雄先生の「学校の社会化ではなく家庭化を進めるべきこと」、「人文の将来は婦人に潜めり」という内容に、今の教育問題に対する答が見えた気がしました。この合宿で自分自身の内にある日本人としてのアイデンティティを感じ、神代から連なってきた御先祖の偉業を後世に伝える使命を果たしたいと思います。

井尻先生の御講義を聞きて

皇室の万世一系守らむと迷はず答へたまふ姿雄々しも

一人とても万世一系守らむとふ先生の御心に続きて行きたし

高千穂河原に行きて

神々が選びたまひし霧島に我も立ちたるけふぞうれしき

御社を三度も移し守り来たる敷島の道後に伝へむ

日本人として基本的なものが欠けていた

（九州旅客鉄道㈱　岩熊英理沙　二十八歳）

私は今回会社からの派遣で、この合宿に初めて参加させていただきました。会社としても今回が初めての派遣でしたので、この合宿がどういうものか分からず、不安を抱いて霧島に参りました。

私はどちらかというと日本より海外の方に興味があり、外国のことばかり勉強しておりましたので、この合宿を通して改めて「日本」を知り、正直驚いている自分と、日本人として基本的なものが欠けていた自分に気付きました。講義の内容全体を理解できたわけではありませんが、自分なりに学んだことを伝えていきたいと思いました。

最後に、この合宿でお世話になった先生方、そして十二班のメンバーに心からお礼を申しあげます。

占部賢志先生の御講義を聞きて

元気かと日々問ふ母の優しさに心打たれて涙溢るる

国の独立にかける強い志

（島村善子　七十歳）

此の度は内容の濃い充実した合宿教室を企画・実現してくださいました関係各位に心から深く厚く御礼申し上げます。まことにご苦労さまでございました。

カメラ・レポート14

みやまコンセールにて。公開講演で、宮崎大学助教授・吉田好克先生は、自国の文化・歴史・伝統を大切にすることが世界に通じる道であると述べられた。続くコンサートでは、バリトン歌手・山本健二先生が歌われる唱歌の美しい歌声に、皆が聞き入った。

お蔭様で私共受講生も、これまでの勉強不足を補って余りある沢山の歴史的事実、そして先人達の心に流れる国の独立にかける強い志並びに実践に触れることが出来ました。これを機に更に自分の血となり肉とさせるよう努めて参りたいと念じております。また、全体感想発表に於ける学生さんを始め社会人の方々の素直な発表には心打たれました。と同時に、この合宿教室の存在意義の重要さを改めて痛感致しました。

最後になりましたが、ご協力いただいたホテルの方々にも心から御礼を申し上げます。ありがとうございました

合宿教室を終へて

数々のご恩を受けて身も軽く霧島の地を離るるわれは

国のいのちの伝承

（鹿児島市役所　有村浩明　四十四歳）

わが国の歴史が皇室とともにあることを終始一貫講義のテーマとしてとりあげていただき、古事記、御製の輪読を通じて班の友らとともに偲んでゆくことができたことを本当にありがたく得難い体験であつたと感謝してをります。

特に占部賢志先生の御講義をお聞きして、真の精神的交流の中にこそ初めて伝統文化の、国のいのちの伝承がなされることを、河村幹雄博士、市丸利之助少将のお歌を通じて眼前に展開される思ひでお聞きし、感銘を受けました。お二人の姿は、まさに戦時平時を問はない、全生涯をかけた凄まじい戦ひであつたと思はれました。「生き方の鑑としての歴史」とされた題意をかみしめつつ、心新たに学問につとめてまゐりたいと考へてをります。

古事記輪読の折、皇后陛下御歌「立太子礼」を拝誦して

赤玉の緒さへ光りてとよみたまふ御歌の調べ美しきかな

古事の記より生れし言の葉の御歌の中に生くる不思議さ

言の葉のいのち連なりみ祖らの心うつつに偲ぶ心地す

唱歌鑑賞に心洗はれた

（山口県立下松高等学校教諭　賓遵矢太郎　五十四歳）

一、三泊四日実施二年。もう四泊は難しからう。夕食休憩三十分短縮、睡眠時間も短縮と少々参つたが、致し方ない。ぎりぎりの調整の御苦労をお察しします。

一、二日目の公開講座といふ試みの予想もしなかつた大成功は御同慶の至りでありました。プロによる唱歌鑑賞のひとき、心洗はれました。かういふ地を選ばれ、かういふ展開を構想された藤新運営委員長の情熱に心より感佩申し上げます。

「合宿を顧みて」にて藤新成信運営委員長を

ひととせの歩みを思ひいだされむあふるる思ひにことばとぎれつ

亡き人のみたまのふゆもかうむりていばらも切り払ひすすみたるらむ

第十三班―女子―

本当に心を開いて語り合へば通じる

（羽後信用金庫　須田清文　五十二歳）

女性こそは、本当の国をつくる基である、と女子班長をして思はしめられました。

大学一年生の昭和四十九年の霧島合宿以来の霧島の地での合宿でした。当時のことは、印象深く心に残ってをりますが、今回も新鮮な喜びが生まれました。班員の皆さんから教へられること、発見も多くありました。

本当に心を開いて語り合へば通じる、と確信できました。有難うございました。

故　山根清君へ

友らあまた集へる中に君の顔みえぬがさみしき合宿教室
なき友をしのびつむかへし慰霊祭に友よむ御製の胸にしみ入る
ともに学びともに遊びしわが友よ君への慰霊と思へばかなしき
わが友の誦みゆく御製しみじみと胸にひびきし慰霊祭かな
心こめ誦みゆく友の声にまじり虫の音のきこゆる慰霊祭かな
夜空には星またたきて友の声ひびきわたれる慰霊祭かな

カメラ・レポート15

二日目の夜。拓殖大学日本文化研究所客員教授・山内健生先生は、日本国憲法や皇室典範問題に触れ、歴史の連続性の中に皇位が続いてゐる事実をしっかりと認識する必要性を説かれた。

つきあいのあり方を姿として先生方に示していただいた

（福岡教育大学　教育　四年　山口瑛美）

一番はじめの山口秀範先生のご講義で五十年前「混迷の時代に指標を求めて」スピリットを確立せよ、と言われこのスピリットを確立しきれていないがために論議を論議で返すようなことをしてしまっているのではないかと、はっとさせられました。

これから何を大切にしてゆけばよいのかを考え、この合宿で何を刻もうかと思い合宿を振り返る中で、「思想国難の叫ばれる今日緊急なるは『学校の社会化』」ではなくその『家族化に御座候』との言葉にはっとしたことを思い返しました。家族という一番近い人づきあいの形を「人としてどうあるか」という問いの答えとして示していただいたように思います。そしてつきあいのあり方を姿として先生方に示していただいたなあと思います。実際にお話させていただいたことをこれからの人づきあいの中で大切にしてゆきたいと思います。

自分の生き方そのものを正される合宿

（九州女子大学　人間科学　二年　櫻井聖子）

今回、私がこの合宿に参加したのは、父の知人による紹介でした。合宿に先立って「日本への回帰」に目を通しながら、この合宿に三泊四日間ついて行けるだろうかと感じたのが正直な気持ちでありました。しかし、私と同じ大学生とはとても思えないような班友と出会い、自分もそれに必死について行こうと積極的に参加しました。中でも班別討論の時間はとても貴重で、普段自分が考えもしなかったような意見が次々と飛び交い、私はただそれに感心するばかりでした。

この合宿を通して、自分は何のために勉強して、何を学ぼうとしているのかを強く考えさせられました。同じ大学生でも、こんなに立派に生きている人がいるのに。自分の生き方を正される合宿でした。

演壇で意見を述ぶる班友を我の自慢と思ひけるかな

感謝の気持ち

（維新の志　古河綾子　二十四歳）

最初は右も左も分からず同じ班の方々の輪にも入れず、正直「帰りたい。」と思っていました。しかし時間を追うごとに同じ班の方々との仲も深まり「なかなか悪くないかな」と二日目の夜には思っていました。

講義では、大変貴重なお話を聞かせて頂き、本当に色んな事を勉強することができました。

そういった合宿教室の中で強く強く思ったのは「感謝の気持ち」です。今の日本があるのも沢山の方々の犠牲や国への思いの強さ等々で、今の私がいるのも亡き父・母・ご先祖様の、この合宿が素晴らしいものであったのは須田清文先生・

飯島隆史先生・十三班全員の方々・講師の方々・運営して下さった方々の、全ての方々に大きな「感謝の気持ち」を抱きました。

そして最後には、別れが惜しいと、この場をさる悲しさに胸が苦しくなった合宿教室でした。本当に貴重な体験ありがとうございました。

胸に抱く感謝の心ひめたりて別れ惜しさにその場動かじ

思いやりの心を精一杯実践していきたい

（東京都町田市立小山田小学校　村田奈央子　二十七歳）

社会人になって二度目の合宿参加でしたが、最終日まで参加できたことをとても嬉しく思います。今回は特に女子青年としての生き方を学びたいと思って参加しましたが、占部賢志先生の御講義で河村幹雄博士のお話に強い感銘を受けました。「女性の使命は子どもを産み育てること。」教員になり男性と肩を並べて仕事をしていると、懸命になる余り、自分が女性であることを忘れてしまっているような感覚になることもよくありました。しかし今後は仕事に励むことに加え、日頃の生活の中で日本女性のあるべき生き方を身につけていきたいと思いました。短歌相互批評の時間、長内俊平先生が来られてご指導下さったことも大変ありがたいことでした。先生は「知識として古事記をどれだけ知っているかではなく、日本女性として正座を一時間は続けること、言葉遣い、お茶

三日目午前。福岡県立太宰府高等学校教諭・占部賢志先生は、大正期の混迷の時代と戦った大学教授・河村幹雄博士と海軍軍人・市丸利之介海軍少将の生涯を熱心に話された。

の出し方など日常生活こそが大切だ。」とご指摘下さいました。知識をひけらかし頭でっかちになるのではなくて、今与えられた環境の中で家族や職場、子ども達に思いやりの心を精一杯実践していきたいと思います。今回は学生の方とも班が同じになり、よい刺激を受けました。来年も是非参加したいです。お世話になりありがとうございました。

おみなにぞ日の本の子ら育みぬる貴き使命抱きたりけり

しっかりとした生き方をしているからこそ言える言葉

（九州造形短期大学　デザイン　二年　諫山仁美）

私はこの合宿で日本人の生き方とはどういう生き方なのかを先生方の姿から感じることができました。もともと私はこの合宿で「和歌」を学びたいと思って参加しました。長内俊平先生が班に入ってくださったのですが、その姿を拝見する中で、やはり日頃の生活そして言葉づかいなど、しっかりとした生き方をしているからこそ言える言葉というものがあるのだと感じました。前に先輩から生き方が変わらなければ和歌は変わらないと聞いたことがあるのですが、その意味がわかったと思います。いくら言葉で和歌や日本文化が良いと言っても説得力はあまりないです。やはり自分自身が生き方でもって伝える、それが大切なのだと思いました。古事記輪読も意味はよく分からなかった部分もありましたが、それでも言葉のリズム、美しさに何か心地よいものを感じました。その心地よさというものが日本人の心なのかと思います。そのような日本人の清き、明き、直き心を持ってこれからも学んでいきたいと思います。ありがとうございました。

一時間正座とのたまふ先生のお言葉刻みて励みゆきたし

三日間共に学びし友達とふたたび来年会ひたく思ふ

さまざまな事を話してうちとけし友と笑ふはうれしかりけり

この合宿の意義は大きい

（新明電材㈱　飯島隆史　五十四歳）

今回は女子班の班付をやらせて頂き、誠にありがとうございました。二十代の瑞々しい生々とした感性に触れることができ、三十二年前、初めてこの霧島の地で合宿教室に参加した時のことが甦って参りました。河村幹雄先生がおっしゃったといふ「婦人の中に未来の人は眠れり」といふお言葉を実感致しました。この人達がこのまま成長してゆけば日本は大丈夫だと確信致しました。そして班員の皆さんがほんとうに喜び、感動してくれたこの合宿の意義は大きいと改めて思ひました。

若きらと語らひ笑へば我が心若々しくも甦りきつ

乙女らの明るきゑまひ眺むれば心もはずみ我もゑまひぬ

言葉を大切にしたい

（柏原商事㈱　山田理絵　三十三歳）

一番心に残ったことは、「言葉を大切にする」ということです。日常、なにげなく発している数々の言葉のあまりの軽さに反省させられました。上辺だけのつき合いで過してきた様な気持ちがします。今合宿に参加されている方々や講師の先生方の言葉が何故心に響き、胸を打つのか、それは皆様が己の発言に責任を持ち、何よりも言葉を大切にしているからだと思います。言霊という言葉があるくらい、言葉には力があり、自分の心の内の思いを真摯に見つめ、正確な言葉にしてはじめて相手に伝えることが出来る、その言葉こそが相手の心に響き胸を打つのだと実感致しました。

純粋な言葉にふれて気づくこと心に届く本当の真心

第二十一班―社会人男―

日本人としてのあり方を学んだ

（デル㈱　竹下健太郎　二十六歳）

三泊四日の合宿では、極めて有意義な時間を過ごすことができました。情熱あふれる先生方のご講義では、知識の修得もさることながら、日本人として、また、人間としてのあり

カメラ・レポート17

三日目午後。創作短歌全体批評。熊本市減量美化推進課課長・折田豊生先生は、先づ「言葉がいい加減になれば思索そのものがお粗末になる」と説かれ、合宿参加者の短歌を、丁寧に添削していかれた。

方を学ぶ事ができたと思います。日本人が古代から抱いてきた思想、そして、歩んできた歴史に自らのよりどころ、生き方の手本があるように思えました。

班別研修では、班員それぞれの方の考え方を伺え、また、ある時は意見を戦わせ、そして、またある時は涙が出る程笑いました。初対面の方がほとんどなのに様々な話しができて、本当に充実した班別研修でした。

特に班別短歌相互批評では、それぞれの短歌を皆が真剣に批評すると、どのような短歌でもすっきりとしたものに直ってしまいました。まさに「三人寄れば文殊の知恵」でした。

本当に充実した合宿生活を過ごすことができました。有り難うございました。

友どちと語り合ふ日も今日までと思へば名残り惜しくもあるかな

未熟な自分を「知る」ことができた

（㈱福岡銀行　久保貴史　二十七歳）

今回の合宿にて一番思ったことは、「知る」ことの大切さであります。振り返りますと、合宿初日、初めて顔を会わす同班の方々を「知る」ことから全てが始まりました。当初は互いに緊張し、ろくに話もしなかったのですが、お互いを「知る」ことにより、今では本当に良い班に恵まれたと思える程のいろいろな会話・討論・雑談を行うことができました。皆様が一生懸命でいらっしゃった分、私も真剣に臨むことができました。

また、講義・班別研修・皆様との会話の中で痛感した事は己の無知です。自分なりに多少は勉強し、考えていたつもりでしたが、この四日間は、今まで知らなかった多くのことがらを「知る」ことができました。多くのこと（歴史・文化等）を知ることは、見識を広め、己を豊かにすることにつながるのではないかと思います。

最後に、この合宿を通じて、自分を「知る」ことができたということも印象的です。もちろん、全てがわかったということではありませんが、未熟な自分の存在を「知る」ことができた、その気持ちこそが今回の合宿での最大の成果であるような気がします。

遅くまで語り明かせし合宿も今日で終はりと思へば寂し

心に残った「班別討論」

（㈱はせがわ　島津賢一　二十八歳）

今回、この霧島合宿教室には、正直なところ主旨もわからないまま来ました。講義が始まっても内容も十分に理解できず、睡魔とも戦っていました。ただ、今年の年始に伊勢神宮にもこんな感じで行ったのですが、その場所に実際に行ってみると、何か神秘的なものを感じる事ができました。今回の高千穂でも同じような事を感じ、伊勢神宮の時の自分と何かつながったような気がしました。これに各先生方の講義を十

分に理解すれば、より一層何かを感じとることができたのかもしれません。そして、何よりも集団で行動し、「日本」について、班員と一緒に討論したことが、自分にとって一番のインパクトになっています。むしろみんなで何かを語り合うというこの行動（コミュニケーション）が、今の日本に一番大切なことではないかと思います。

見ゆるかな未来の日本のあり方を語りておこす平成維新

苦労した和歌づくり

（三福水産㈱　三福完治　五十歳）

今回、合宿に参加しました動機は知人のすすめでした。正直いいまして、いつもお世話になっている方なので、半分は義理という面もありました。しかし、参加してみて、規律正しい生活、内容の深い講義で、多分消化不良になっている面もありますが、本当に有意義でした。特に班別研修では、色々な方の考えや思想を聞き、自分の偏っている考えの一面も感じました。和歌づくりでは、言葉がすぐに浮ばず苦労しました。皆に批評してもらい、歌の言葉がととのえられて、自分の感じた様に、また表現出来たことには感動しました。

最後に、慰霊祭を通じて、自分は先人、先輩、先祖のお蔭で生かされていると感じました。天皇尊敬につながる根本の体験は慰霊祭にあったように思います。ここで学んだ「スピリット」をもって生活し、親を大事にし、子供や家内に報告

三日目夜。㈳国民文化研究会副会長・寳邉正久先生は、日本の国そのものを概念ではなく心で感じ知ることが大事であり、そのためには人生上のきっかけが必要であると説かれ、三井甲之先生から黒上正一郎先生、そして、田所廣泰先生のつながりを話された。

しようと思います。

星空に光輝く星を観て永遠続く先祖を想ふ

印象深かった短歌相互批評

（㈱渡辺組　渡辺　丈　三十四歳）

今合宿で一番印象深かったのは班別短歌相互批評でした。皆で知恵を絞り、真剣に話し合い、一人一人の歌を完成させていきました。本当に不思議に感じたのは、そのようにして真剣に考えた歌は、何かそれなりに落ちついた良い作品になると言うことでした。これからも自分なりに歌を詠んでいきたいと思います。

うんうんと知恵を出し合ひ作る歌苦労するほど深き喜び

貴重な経験

（南国殖産㈱　京田清人　四十六歳）

○　野間口さんと一緒に、井尻千男先生を終日ご案内出来たことは、本当に有難かった。貴重な経験をさせて頂いた。

○　コンサートの企画はとても良かったと思ふ。

井尻先生に同行させて頂いた折、車中にて

週末は雨靴を履きて農業に精出されるとふ師に驚きぬ

「果樹園の草取りは大変だ」と楽しげに語らるる師の輝きて見ゆ

四十五歳で御父上を失ひし折ふるさとを守るは我と決められしとふ

我もまた父を失ひ四十五歳となりし今師の御言葉の胸に響くも

楽しくも充実した三泊四日

（㈱寺子屋モデル　山口秀範　五十九歳）

記憶が定かでないが、恐らく学生時代以来の「班長」であったと思ふ。若手社会人の班員は、それぞれ実生活の手ごたへを携へて合宿に参加してをり、積極的に取り組み、多くの発見をして頂けたやうだ。楽しくも充実した三泊四日であった。

藤新成信運営委員長を労ふ

壇上に立ちし君しばし黙したり過ぎにし一年振り返りつつ

想像を絶する多忙さものともせず常先立ちて万端整へつ

半世紀終りて此度の斬新な合宿たりしは君の勲ぞ

「様々のお力を得て成りたり」と慎み深きその心ばへ

君培ひし新たなる芽を共々に育みゆかむ来む年に向けて

心が一つに溶けあった短歌相互批評

（神奈川県立小田原高等学校（定時制）教諭　原川猛雄　五十九歳）

藤新成信運営委員長はじめ今合宿の準備や運営にあたられた方々にお礼申し上げます。おかげさまで無事研修を終へることができました。二十一班は、山口秀範班長の好リードのもとなごやかな雰囲気の中にも活発な発言も続き、有意義な

研修ができたといふ充実感があります。その中でも、短歌相互批評の時には一人一人の和歌を時間をかけ、作者の気持ちに沿って皆が心を合はせて批評しあふうちに、数段立派な和歌に形が整へらえていくことに感動しました。班員の心が短歌相互批評を通して一つに溶けあった尊いひとときであったと思ひます。また、職場にもどっても、この合宿で学び、感じたことを折にふれて思ひ出し、反芻しながら研鑽を続けていきたいと思ひます。

空晴れて宿の窓よりはるかにも桜島山見ゆるもうれし

第二十二班―社会人男―

今の思いを地元に戻り伝えて行きたい

（日商保険コンサルティング㈱　塘田一成　二十九歳）

神降りたまうこの霧島で、多くの方々とともに集うことのできた御縁に深く感謝致します。世界における唯一無二の孤高の存在である日本に生を受けながら、あまりにもこの国のことを知らなかった無知の自分と向き会うことのできたすばらしい合宿でした。この今の思いを地元に戻って伝えていく行動をしていきたいと思っています。

同じ屋根の下で寝食をともにし、一緒に学んだ友のことを思い出し、微力ではありますが、本当の日本の姿を取り戻す

カメラ・レポート19

慰霊祭に先立ち元新潟工科大学教授・大岡弘先生から、平時戦時を問はず祖国日本のために尊い命を捧げられた祖先の御霊をお祭りする事の意味と祭儀の形を懇切に説明された。

ため頑張りたいと思います。今回の合宿に参加したすべての方が私と同じ気持ちであれば幸いです。

合宿に参加して

合宿で感じ得しこと持ち帰へり伝へて行かむ友らとともに

慰霊祭に初めて参加して

（㈱はせがわ　馬渡周二　三十六歳）

今回の合宿に参加し、古典、短歌と唱歌の実践的な教育を通しながら、日本の持っている伝統の素晴らしさに感動し、人生の心の軸が一段と太く逞しくなったような気がいたします。

また、平時、戦時に限らず、この素晴らしい日本の伝統、文化を守る為、生涯を捧げられた祖先に対する慰霊祭というものに初めて参加し、その尊き営みに深い感謝の念を抱きました。我が生き方を顧みると、祖先の思いに応えていない自分自身を猛省するばかりでありました。

今後は合宿教室で学びしことを継続し、家庭、職場、地域社会で伝え、大切に大切に守り続け、次の世代に受け継いで行きたいと思います。

合宿を終りて

我が胸に日本の心抱きつつ伝えてゆかむ後の世代に

ぼんやりした自分の頭が整理された

（㈱ワイドレジャー　豊福洋介　三十歳）

合宿に今回初めて参加させていただきました。私の予備知識では「天皇陛下」、「戦争」、「神話」、「歴史」すべてが繋がりを持たない状態でした。今回の合宿では、右に挙げた項目すべてが繋がっており、その精神は「日本の国民性」これに尽きる事を理解出来ました。ぼんやりとした自分の頭が整理され、自分の心の中に芯の様なものが確立出来たと感じています。

色々な講義を拝聴させて頂き、本気に、切実に語っていらっしゃいました諸先生に感動を覚えました。

これから社会に戻り考える機会は正直少なくなると思われますが、合宿で学んだことを思い出しながら、自分の行動、言葉を大切にしていきたいと思います。

初めて学生・青年合宿教室に参加して

初めての合宿なれど先人のわが身に宿りし意思と礎

様々な疑問が解ける思いがした

（日本植生㈱　長船将宏　三十四歳）

今回合宿に参加させていただき、自分が思っていた以上にわが国「日本」について知らなすぎる事を自覚する事が出来ました。私も戦後教育の影響のせいか、自分の国でありなが

ら国の歴史について知ることに壁を作ってしまっている事に気付きました。それは正しい事を知る環境が得られていなかったという事以前に、知ろうとする事、日本について語る事をどこか禁忌と思い込んでいる自分がいたためでした。所々断片的に正しい情報、知識は得ていたものの、正しい判断が出来るだけの自信が持てて居ませんでした。今回の合宿の講義を通してそれらの疑問が解けて行きました。特に井尻千男先生のご講義は様々な疑問点に明かりを灯して頂いた感を受けました。どうも有難うございました。

井尻先生のご講義をお聞きして

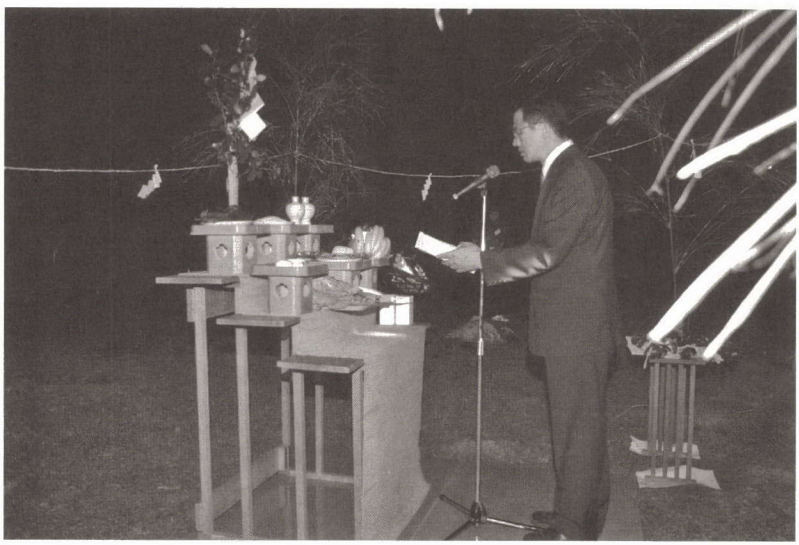
先生のご講義聞けば我が悩み少しながらも解ける心地す

短歌の相互批評で友人との距離が縮まった

（九州電力㈱　小林大志　二十六歳）

日本人はこれまで長い間身分に関係なく、五・七・五・七・七という三十一文字の中に感じたままをありのままに詠みあげてきた。今回の合宿を通して、そうした先人たちの言葉に触れることが出来たと同時に短歌の相互批評を通して友人が伝えたい事を真剣に考え、意見を述べ合う事で友との距離を縮める事が出来大変嬉しく思っている。

また、井尻千男先生のご講義を通して、これまで長い年月を掛けて日本人が築いて来た共同体が壊されて来たというお話しを聞き、大変参考になった。



参加者一同はホテル裏山の斎場へと移動し、祭壇の前に整列して「慰霊祭」が行はれた。

霧島合宿に参加して

霧島の神々に祈らむ三十年後九電社長になれますやうにと

挑戦する心、そこから全てが始まる

（維新の志　佐伯岳大　二十六歳）

合宿を通して私は大きく分けて二つのことを学ばせて頂きました。

一つは、神話の里霧島にて和歌を創作したこと。二つ目は日の丸の重さです。

この二つの事を胸に刻み、冒頭に書いた事柄をテーマに多くのことに挑戦していきたいと思います。そして一人でも多くの人に日本の素晴らしさ、日の丸の偉大さや歴史の話を語り継いで行きたいと思います。

短歌創作を行ひ

有難き日本に生まれしよろこびをあまた同胞らに語り継ぎたし

普段気付かない大切なことを学んだ

（伊佐ホームズ㈱　吉野正史　三十歳）

今回初めて合宿に参加させていただき、私自身関心の薄かった日本の歴史等について改めて講義を受け、ディスカッションする事によってそれらの事が大変重要な事だと改めて認識する事が出来ました。先生のお話の中にも、日本の未来を考えることは日本の歴史を知っていないと考えることが出来ないとありました。まさにその通りだと思いました。普段はあまり考えていない事ですが、講義等を通して改めてその大切さに気付く事が出来ました。またディスカッションにおいては、私の班は同世代の方が多く、皆さんが日頃どんなことを考えて居られるかお聞きすることが出来大変参考になりました。また、自分自身が深く考えていなかった事が大変恥ずかしいと感じる点もありました。

今回の合宿を通して、今まであまり気付かなかった事、関心のなかった事について改めて考える事で、その重要性を再認識する事が出来、これからよく考えていかなければならないと強く感じました。

高千穂河原を散策して

高千穂に降りたまはりし神々に思ひはせれば古事記偲ばゆ

充実した四日間

（板橋中央総合病院グループ本部　最知浩一　四十六歳）

久し振りの合宿参加と社会人班の班長といふ大役を仰せつかり多少不安でしたが、班員にも恵まれ、とても充実した四日間でした。班員全員が初めての参加でしたが、素直にまた真剣に講義及び班別討論に臨んで居りました。会社で忙しく働いてゐる二十代後半から三十代なかばの班員でしたが、日本が抱へてゐる様々な問題や日本の戦後教育などについて、

話す機会や勉強する場を求めてゐるといふ印象を強く感じました。合宿では、山口秀範先輩の導入講義に感動しました。この合宿にご縁あって今なほ繋がってゐる有難さを改めて感謝させられるご講義でした。

みやまコンセールで唱歌を歌ひし折
わらべうた調べなつかしみ友らと声だしうたへば楽しかりけり
「肩たたき」うたへば母を思ひ出し幼なごころに戻る心地す

第二十三班―社会人男―

国柄（ルーツ）を学ぶことの大切さを学んだ

（アサヒ飲料㈱　澤部和道　三十三歳）

今回の合宿では全てのご講義が根底に何か共通して流れているテーマがあったように感じた。というのは日本の国柄というものについて実は知っているようでいて心で知るということができていないのではないかという問題提起がなされ、そこには作為的に知りにくい環境が作られていた事実にはっとさせられた。こうした環境下において如何に国柄を学び、自分の体内に取り込んでいくかが、これからの社会人生活、人生にとつて大切なことであるということを改めて感じさせられた。また、合宿を終えて如何に普段の自分の心が渇いていたかということを実感した。班員の皆様、班付の先生方に

三日目夜。班別懇談会。この三日間の感想を話し合った。主催者側の配慮で飲み物が配られ、和やかな空気の中、参加者は最後の夜を過した。

恵まれたことが本当に嬉しかった。実生活を見直し、神様、ご先祖様のいらっしゃる生活から始めていきたい。

占部賢志先生のご講義（河村幹雄博士）を拝聴して
幼子を残して逝きし先生の無念やいかにとお気持ち偲びぬ

共同体としての「家族愛」を大切にしていきたい

（㈱ワイドレジャー　水上　弘　三十二歳）

私は、この国文研合宿に初めて参加させて頂きましたが、日本の歴史、伝統、文化について正直考える時間は普段から全くと言って良い程ありませんでした。この研修に参加する意味も分からない様な自分には行きのバスの中で参加者の方々より「美しい日本語、日本人としての愛国心を学びたい、日本の将来に繋げたい」との志高い声を聞き、非常に日本という国を大切にされてる方々ばかりだなと思いました。まず始めの講義より山口秀範先生が「ルーツ」に関してお話なさいましたが祖先を大切にする心について深く感銘を受けました。また岸本弘先生の「古事記」の講義では輪読を何回も重ねていく事により内容をより理解できた事を大変嬉しく思いました。岸本先生には班付でも細かくご指導頂き、感謝申し上げると共に、古事記に関して以後も続けて頂きたいと思います。また私の出来る事としては「家族愛」より共同体としてのつながりを大切にしていきたいと思っております。書き足りないほど大きな感動感銘を受けた大変素晴らしい研修に参加できた事と素晴らしい仲間にお会い出来たことに感謝致します。

日の丸の上がるを友らと仰ぎ見て胸熱くなる朝の集ひに

ご先祖の方々へ気持ちを込めたお参りを

（社団法人福岡県中小企業経営者協会　今屋良二　五十歳）

この合宿で一番印象に残った事はメンバーに大変恵まれた事でした。それと班長が大変良く全体を引っ張って頂いたことでこのグループがすぐ一つにまとまった事でした。また、四日間の講義では私が感動したことは唱歌を聞き、それを全員で歌った事でした。自分が若返り、父と母を想い、気づかい、尊ぶ事ができました。本当にありがとうございました。一日目にまだ何もインプットされていない中で岸本弘先生の古事記を勉強させて頂きました。日本人として長い歴史の中で生きてきた感動を与えて頂きました。

今後は自分の家族両親友人を大切に、また皆が幸せになれる様努力していきたいと思います。それにはご先祖の方々へ気持ちを込めたお参りをしていきたいと思います。最後になりましたが、このグループのメンバーに有難く思っております。今後ともよろしくお願いしたいと思います。

合宿に集ひし仲間いろいろと最後は皆が別れ惜しみぬ

「古事記」の壮大なスケールを知った

（日本植生㈱　片山　真　三十歳）

今回、この研修を受講させて頂いて日本の真実の文化、歴史について学び、深く考えることができました。戦後の日本の教育の中で育ってきた私にとって日本の歴史については真実にあったことではあるけれどもその背後にある実状や考え方などについて全くと言って良い程教えられず形式的なものでしかなかったように感じます。班別研修では古事記の輪読をし、その内容についての議論を通じて古事記の内容の深さ、そして壮大なスケールで作られていることを知りました。また、戦中を生きてこられた方々の心にふれ、当時の方々の考え方や思いを感じることができました。この体験を通じ、日本の歴史について心をもって教えてくださった講師の皆様、そして二十三班の皆様にお礼を申し上げ、この体験を今後の人生の糧として努力していきたいと思います。ありがとうございました。

霧島に集ひし人の志先人方の如何に思ふや

日々の奉務が大きな道の中に在る事を改めて実感

（加江田神社宮司　川越　篤　四十五歳）

平成七年以来十一年振り、三回目の参加となりました。過去二回は宮崎神宮からの出張でした。次回は必ず自らの意志

「合宿を顧みて」。日鐵プラント設計㈱顧問・今林賢郁先生が登壇され、第一日目からの日程を思ひ起こされながら、改めて参加者にこの合宿が何を伝へようとしてゐたのか、正しく感じ取るやう呼びかけられた。

でと願っていた事がようやくにして果たせました。そしてその成果も予想以上のものでした。十一年の間に自分の社会に置かれている状況は激変しましたが、生活の為に忘れていた学ぶ心の尊さを再確認させられました。同時に自身の日々の奉務が大きな道の中に在る事を改めて実感もさせられ、緩んでいたネジを巻き直し、国柄を守り伝える為に誇りと気迫を以って臨み行く決意を新たにしております。又慰霊祭にも心を打たれました。専門職から見れば神社本庁祭祀通りでは無い事は明らかです。しかし形式を超えた魂の籠った荘厳さが有り、慰霊神事の本質は何であるのかを逆に考えさせられました。自分ならばやろうと思えば出来た事ですが、昇降神時に笙の、献撤饌時に龍笛の奉楽の奉仕を願い出るべきであったと今は悔やんでおります。さしでがましい、分を越えた行為と思いそれをしなかったのは却って御霊に思いを尽くしていなかったのだとお祭りを終えて気付かされました。次回は何年後の参加になるのか判りませんが、必ず笛一本携えて参る事を心に誓い感想とさせていただきます。

燃えさかる篝火を通し降り給ふ御霊を我らをろがみまつる

日本の事をもっと勉強したい

（松田都市開発㈱　柴戸秀之　二十七歳）

四日間、過ごしたこの合宿で多くの事を学ぶことが出来、本当にありがとうございました。

様々な業種、年齢の方がその立場に関係無く語り合えた事、又皆様の物事に取り組む姿勢に大変感動致しました。

神話と歴史がなめらかにつながるこの日本の事をもっと勉強したいという気持ちになりました。また、神話、歴史の話を通して先祖の偉大さ、家族の大切さを学ぶことが出来た事は今後の私の日常生活の中でも意識し行動に移していくことが出来ると考えます。四日間学んだことを少しでも私の家族、職場の仲間、将来産まれて来るであろう子供に伝えていきたいと感じました。私が無知であることを知ることが出来た良き合宿でした。ありがとうございました。

様々な人々集ひし霧島で心が学ぶ日本の文化

「出会い」を通して学んだ事は大きい

（㈱フォーネット　渡慶次直人　二十四歳）

「出会い」。この合宿では多くの人に出会い、お話をさせて頂きました。神道・仏教に関わる方の考え方、生き方を聞くこともできました。私もキリスト教に関わっているので、「宗教」については考えさせられることも多く、悩んでもおりました。キリスト教徒として日本をどう捉えていくかというのは大事なことであり、私の中でも重要な課題であります。他宗教の方また合宿の講師の方々のお話を聞いて何か課題解決の糸口が見えてきた気が致します。それも「出会い」のおかげだと思います。自分の宗教に固執することなく他宗教・

思想に耳を傾けることが重要だと思います。今回の合宿の「出会い」を通して学んだ事は大きいものがあります。

また、私は沖縄出身でもあります。あの戦争では沖縄も重要な役割を果たしたと思っています。これからも日本の中において沖縄が重要な役割を果たすには大東亜戦争、日本の文化、歴史にきちんと向き合っていかなければならないと思います。今回は日本と沖縄の繋がりの糸口を見つけたと思います。それを気づかせてくれたのは「出会い」であります。合宿で「出会っ」た方の言葉を胸に秘めこれからも多くの「出会い」を大切にしていきたいと思います。

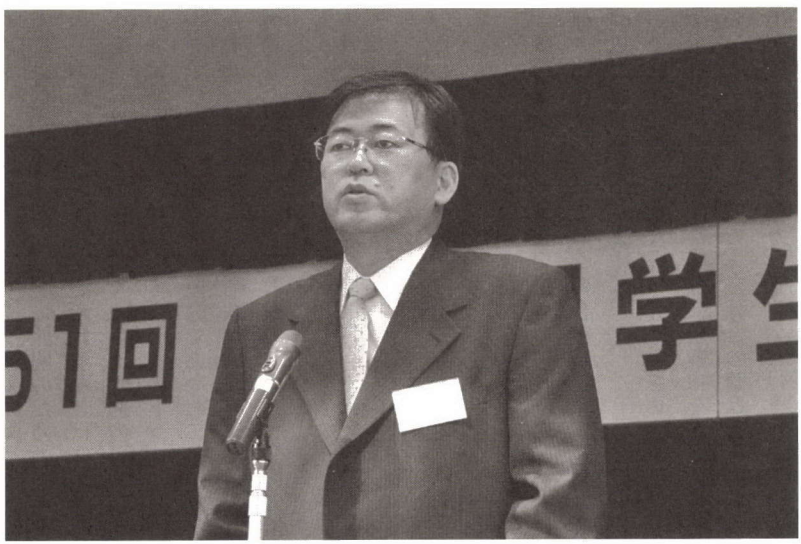
たくさんの人の言霊胸に秘め明日も生きんと霧島を発つ

音読は心地よかった

（九州旅客鉄道㈱　西　伸彦　二十五歳）

不安な気持ちで参加した合宿で多くの人に出会い、支えられ楽しい時間を過ごすことが出来た。なかでも古事記を声に出して読み、精一杯頭を働かせイメージしていく、これは短歌にしても同様ですが、歴史や文化を学びながら想像力を鍛えられたと思います。また声に出して読み、歌うことがこれほど心地よいものだと言うことを忘れていたように思います。

人生の先輩たちに囲まれて飛び交ふ言葉は私のたから



運営委員長挨拶。藤新成信合宿運営委員長は、この合宿が無事に終了できた事を謝し、次いでこの合宿に込めた思いと、支えてくださった方々への感謝を述べられた。

感動と納得を戴いた

（㈱はせがわ　長谷川裕一　六十七歳）

こころから感謝申し上げます。

五十一回を重ねてこられた国文研指導者の方々のほとばしる熱情と御奉仕に只々低頭のほかございません。歴代御講師の方々、今回の御講師の方々、超一級の品格と研究の成果の上に明確な目標に裏づけられ、感動と納得を戴き大変勉強になりました。学生時代より日本の国柄、維新の志士の志、明治大正昭和とつないで下さった尊い方々、又神代の時代より皇統をつなぎ支えて下さった方々、各時代を生命がけで生き抜いて来られた方々、今日の我国の文化、伝統、歴史に改めて深い誇りと敬意を抱きました。この尊い国の宝としての国文研のお働きとこしなへにつなぎ繁栄されることを心から祈念致します。ありがとうございました。

海を越へ民族越へて睦みあふ世の来たらんと祈り励まん

御講義の内容は一流のものでありました

（稲田事務所　稲田健二　七十三歳）

井尻千男先生は別格として、他の講師の皆様は世の中の名声こそ得られておられぬが、御講義の内容は一流のものでありました。大変勉強になり有難うございました。そしてまた国文研の底力を感じた次第です。合宿の会場についてはこれまで参加したどの会場よりも快適でありました。また慰霊祭のための場所の設営に道の手入れについてのホテル側のご協力には驚かされました。更に照明のための人の配置や足元へのその気配り…細かく声をかけるなどは立派なものでした。

そこには運営委員の方々とホテル側のコミュニケーションが非常にうまくいっていてホテルのトップがこの合宿の趣旨を充分に理解した上での協力であったことが感じられました。ともかくプログラムに「唱歌」を組み込んだことも含めて大成功した三泊四日の合宿教室でした。

慰霊祭

神天降る気配に心引締り微動だにせず我を忘れて

古典の勉強を継続していく

（元富山工業高等学校教諭　岸本　弘　六十二歳）

藤新成信運営委員長をはじめ、各位の御努力により、国文研の出発地に戻ってのこの合宿が見事に運営されたことにまづ以て感謝申し上げます。

今回はじめて社会人班の班付をさせていただきましたが、学生班とは一味違った感触に新鮮味を覚えました。それは一人一人が職場において〝自分との闘ひ〟を何らかの形で経験してをられる故でせう。逆に言へば学生諸君にも平常の生活でさうした経験がなければ打てばひびく感動を持ち得ないとも言へると思ひます。私個人のこととしては最後の土壇場ま

「全体感想自由発表」。今回の合宿で各々が考へ、話し合ひ、そして感じた様々なことが率直に語られた。

で苦しんだ古典輪読導入講義でしたが、何とかやり終へてほっとしてをります。今後、自分の勉強のためにも今回のテキスト作りをもう少し継続してみようと思ひます。

寶邉正久先生の御講話に

語り給ふ師のみ言葉は我が心のま中にひびき迫り来るなり
いつの日にもまさりて大きく思ふかな語りゆきます師のみ姿を

廣瀬誠先生のお歌ありて

今は亡き師のみ心と打ちひびき尊きものを教へ給ふなり

第二十四班―社会人男―

参加できて本当によかった

（社会福祉法人玄洋会昭和学園　原崎智仁　三十七歳）

私がこの合宿教室を知ったきっかけは、早稲田大学で政治経済思想を専攻した時分にその著作を何度も読み、その後の私に最大に影響を与え続けている福田恆存、小林秀雄であった。新潮社から出ている両氏の講演テープは、今でも車の中で聞き返している私の大切な大切な宝物である。このすばらしい記録を生んだ合宿教室を主催した国民文化研究会とはいかなる団体であろうかと、当時私は強い関心を持った。この団体が今も存在し、合宿教室も継続されていることを知り大きな驚きと感動を覚えたのは、ちょうど十三年余り離れていた郷里福岡に帰り、福祉施設で働くことになった今から三年前のことである。その後職場を通して大変お世話になり、その志に感銘している山口秀範様が合宿のすばらしさを熱く語られた時、仕事を何とか調整し、是非参加したいと心から思った。合宿の内容はとてもすばらしいものであった。尊敬申し上げている山口秀範様、藤新成信様、清水昭比古先生、そして小柳陽太郎先生のお姿を毎日拝見しながら勉強できたこの合宿に参加できて本当に良かったと思います。

こころざしを再度こころにきざみつける霧島あとに胸はおどりて

希望と勇気をいただきました

（農業　七夕照正　六十九歳）

山口秀範先生の導入講義より慰霊祭まで講師団の熱情あふれるそして密度の高い講話を聞けて、明日からの日常生活に希望と勇気をいただきました。有難うございました。各先生方の話しが内容が異っていても、先生方のバトンタッチに終始一貫、連続性、継続性があり、思いやりとやさしさを込めて理解をさせて貰えました。シンプルイズザベスト!!単純化作業への難しさを、特に和歌創作等で教えていただきました。

慰霊祭場にて

祭場の急坂みごとにこしらへし準備の苦労感じつつ登る
祭壇の後に控へる大松の枝ぶり葉ぶりの勢ひありて
み霊らは大松めざして散華落この祭場の美しきかな

素直に感謝の気持ちが湧きあがりました

（㈱ワイドレジャー　中原良朗　四十歳）

今回は会社の指示での合宿参加でしたが、個人的には非常に楽しみでした。というのも、以前より我社の研修で山口秀範先生達のご講義を何回か受けており、その中で私も「もっと日本の事が知りたい、自国に誇りを持ちたい。」という気持ちが非常に強くなっていたからです。

今回、日本には百二十五代続く世界唯一の皇統を持つすばらしい伝統がある事を知り、非常に大きな感銘を受けました。又、短歌創作では、私の短歌が班の皆さんの批評で非常に良くなり、素直に嬉しさと感謝の気持ちが湧きあがりました。

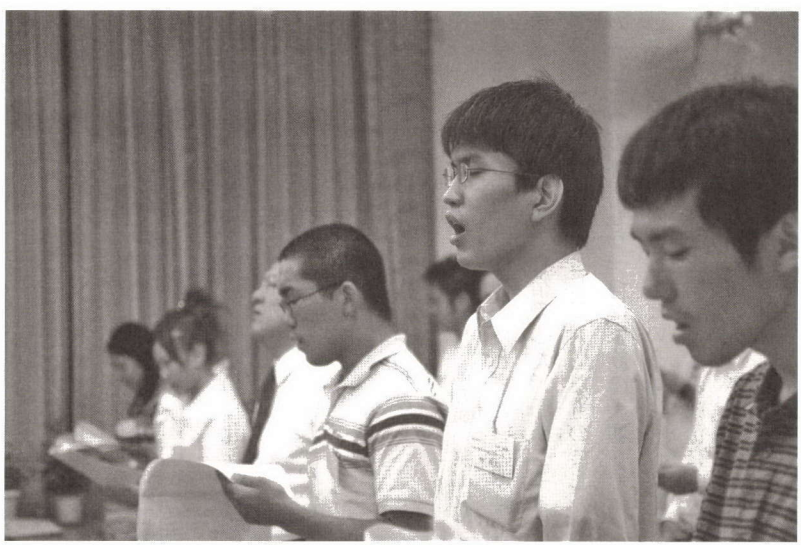
他にも各講師の講義、みやまコンセールホールにおける唱歌等、本当に素晴らしい内容でした。今回この合宿教室に参加できて本当に良かったと思ってます。

道なかば不明なことが多かりししればしるほどこころゆたかに

短歌は素晴らしい伝達方法

（㈱はせがわ　内田雅啓　四十七歳）

他のセミナーと違い、学生であれ社会人であれ、日本人として生まれた以上「古きをたづねて新しきを知る」、つまり日本の原点に回帰して本来の生き方を学びたいという意欲が心の奥深く感じられた。最近パソコン通信や携帯電話等の発



閉会式。皆で、唱歌「故郷」を歌ふ。

達でリアルタイムにコミュニケーションが働いているように錯覚するが、古代から歌をコミュニケーションの手段として言葉と口調を大切にしてきた日本人のコミュニケーション能力を越え得るものはないと思います。言葉の大切さ、時間の使い方等を教えて頂いた貴重な四日間でした。

合宿の三泊四日終へた時気づいてみれば我は大和人

まずは自分からだと感じた

（マネット　島津拓哉　二十三歳）

自分はまず開会式から「大丈夫かな」という不安で一杯でした。しかし一日目の夜、班の人たちとの会話で「最初はだれでもそうよ」と言われ、自分の中で「初心」という言葉があてはまりました。そして二日目の朝、何か一日目と全然ちがったメンタリティーで朝を迎え、とっても気持ちがよかったです。おまけに二日目は短歌創作とかもあり…。大変でした。しかし折田豊生先生に「飾らない、偽らない、欲張らない」と言われ自分らしい短歌が出来ました。そして三日目はその短歌を班で訂正しあって、とてもいい時間でした。

色々な世代の話を聞いたり話したりしましたけど、まずは自分からだと感じました。人のつながりを大事にして日々過ごして行こうと思います。

霧島で大きな大木見上げたりやっぱりあった苔の神秘さ

日本の文化伝統思想への知識を深めていきたい

（九州旅客鉄道株式会社　河合宏文　二十九歳）

私は今回、会社の命を受け初めて本合宿教室に参加致しました。自発的に参加された方々の熱情には驚嘆を、ご講義いただいた諸先生方の博識および思想の堅固さには敬服を禁じ得ませんでした。

合宿教室への参加を機に、日本の文化伝統思想への知識を深めていきたいと思いました。

語らひし日々過ぎゆきていざ立たむ目閉ぢ浮かぶは友らの笑顔

戦争のつめ跡と家族の大切さ

（九州電力㈱　照山太一　二十八歳）

今回初めて参加して最初からとまどいの連続で、すごく違和感を感じる事の多い合宿でした。しかし、そんな時間の中で得たものは、日本人として大切なものでした。一つは戦争の残したつめ跡、もう一つは家族の大切さです。

まず戦争というのは日本という国にも、国土にも、人々の文化や人々の心、外交を中心とする政治にも大きなつめ跡を残しています。そのつめ跡の大きさを知り、改めて戦争は二度とするべきではないと感じました。古への天皇が代々望んでこられた恒久平和を目指すべきだと思いました。そんな中、特攻の話を聞き、大変複雑な思いを感じました。私がもし戦

時中に生きた男であれば血気盛んに特攻していったかもしれません。私たちの心には代々伝わる侍の血が流れているからです。しかし実際に冷静になって考えてみて、残された家族の気持ちになってみると、特攻しようなんて全く考えたくない事になりました。国を守る事で家族の命は守ることはできます。しかし戦争で家族や愛する人を失った人々の心までは守ることはできません。しかもその人々の傷は一生癒えることはありません。そう言われて見ると一番守らなければならないのは国でも天皇でもなく家族なんだと改めて実感しました。

侍の血の流れゆく我の身を賭して守るは家族の心かな

歌の力

（㈱アルバック　北浜　道　四十五歳）

班員の殆どが企業研修として初めて参加された方達で、自発的な発言を期待するのに困難を覚えた。しかし三日目の班別短歌相互批評の折り、それまでは聞かれれば発言する体だつた班員が、自らの歌に熱意を示したのである。歌は、青空に浮かぶ高千穂の峰を後景に、その下方にある高千穂河原のひもろぎも含め全体を描写した上で、ひもろぎの有する神々しさをも表現しようとする、ある意味よくばりなものであつた。始めそのよくばりを指摘し連作を提案したが、作者は強く抵抗した。私はその抵抗が嬉しかつた。それまで一方通行

閉会式。主催者を代表して㈳国民文化研究会理事長・上村和男先生は「一人一人が志を持って、日本の国を愛し、心からその情熱を人に伝えていかねばならない」と参加者に訴へた。

だつた言葉に、やつと反応が返つてきたと思つたのである。以下皆で作者の気持ちを思ひながら表現を出し合ひ、一首の歌に定着するに至つた。すると今度は、それまであまり感情を表に出さなかつたその班員が嬉しさうに笑つたのである。びつくりした。あんな笑顔を持つてゐたなんて。歌の力といふものを思はずにはゐられなかつた。

「合宿を顧みて」にて藤新成信運営委員長挨拶を聞きて

この一年合宿の事で様々に心くだきて過ごしましけむ
挨拶の途中で言葉をつまらせつ話されし姿に胸熱くなる

初心に返る思ひ

（熊本市役所　折田豊生　五十七歳）

体調が思はしくなく長い三泊四日だつたが、新たな力を恵んで頂き、諸先生方、運営スタッフの諸兄、二十四班の班員諸兄に心からお礼を申し上げたい。

我が国の思想的混迷は長いトンネルを抜け切れないでゐるが、その打開に向けた取組みのカギは、今回合宿教室の唱歌や伝承に係る研修を通じて、意外と身近な所にあるといふことをあらためて知らされたやうに思ふ。

先づは、他に頼らず己れの見地より始めよ、といふことを、初回合宿開催地霧島において、初心に返る思ひで確認せしめられたことは、何かの因縁であつたかもしれない。

壇上に若き友らが語れるを胸あつくして聴きまつるかな
決意あり悩みありこもごも国思ふ友思ふまことに生(あ)れ出づるかな
今年去年(こぞ)逝きにし友らも若きらのあつき思ひを聴きたまふべし
相共に我も学びて国のためおのもおのもに努めゆきなむ

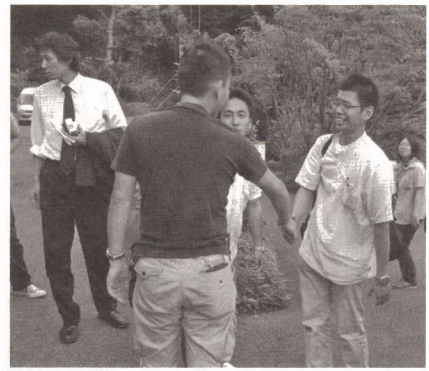
第二十五班—社会人男—

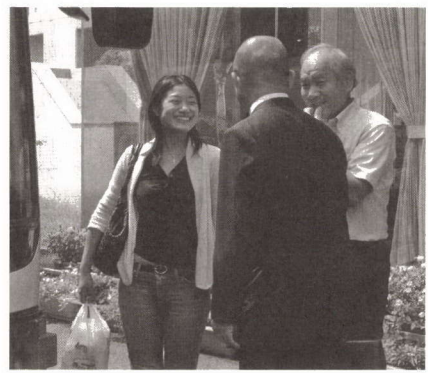
短歌相互批評の濃密なひととき

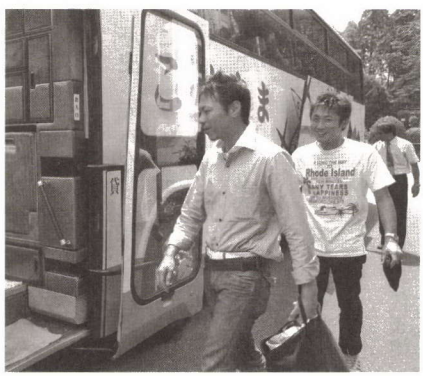
（福岡県立大宰府高等学校教諭　占部賢志　五十七歳）

三時間に及ぶ短歌の相互批評は実に濃密なひとときだつた。目の前の友の歌に心を注ぎ、いくたびも繰り返して感動のほどを汲みとらうと努める。そぐはない表現があれば、かう直してみればどうかと添削し合ふ。時に、さうです、気持ちにぴつたりです、と応じる場面にも出くはす。かうした世界を堪能し得るだけでも、当合宿教室の使命は重い。改めて気づかされた貴重な体験だった。

さまざまの虫の音とよむ丘の上に御霊祭りのとき迎へたり
ひともとの松のかたへにしつらへし斉庭仰げばいつかしきかも
この里に今しひととき天降ります亡き師亡き友ただに偲ぶも
丘の上を渡る風すずし霧島の出で湯の里は秋づくらしも







閉会式後。この四日間を共に過した仲間と別れを交はし、ホテルを後にする。

背筋が伸びる体験

（㈳福岡県中小企業経営者協会　藤岡健太郎　三十三歳）

これ程、背筋が伸びる体験は初めてでした。ここで触れる一つ一つの言葉や景色、また出会う方々の思いを肌で感じ、刺激を受け、パワーを頂き、知ることの喜びを知り、姿勢を正すことができました。また、班別研修では、各々の感じた事や考えを語り、時にぶつけ合う事で、自らの考えが研がかれていき、それは、短歌で事象や言葉を絞り込んでいく事にも通じるものがありました。それにしても、研修カリキュラムの内容や講師の方々、参加されている方々の熱意に思いがこみあげてくる機会が度々ありました。我が国に対する強い思いを語られた山口秀範先生のお話しに始まり、自分の意識が変わりました。戦後論における「共同体」という考えを提示して頂いた井尻千男先生、力強い唱歌の山本健二氏や、全体発表で感極まる学生諸君の姿など、枚挙にいとまがありませんが、間違いなく、わたしの人生を豊かにして頂きました。普段の生活に於いては、なかなか物事を深くとらえる事も少ないですが、この合宿での経験を機に、自分のあるべき姿を見つめなおしたいと思います。末筆となりましたが、第二十五班のメンバーや、主催して頂いた国文研の皆様、事務局の方々には大変感謝いたしております。また少し自分が成長してお会いしたいと思います。ありがとうございました。

学び舎を去るにあたりて思ひ立つ未知の史実を学んでいかむと

まずは自分の興味をもったところから勉強したい

（九州旅客鉄道株式会社　古川眞也　二十七歳）

日本の歴史、先人の心を熱く語る姿、天皇の御製を詠み涙する姿、このような先輩方の姿を見て圧倒された。これが一日目の感想です。「青年学生」と名が付くから学生ばかりなのだろうと思って来てみると、社会人の参加者が多く、様々な会社、役所、年令の方々と「日本」というものについて語り合うこの合宿は、今でこそ良い勉強、経験であったと思えますが、当初は不安でありました。

古きは天孫降臨の時代から、現代まで、日本の歴史の中で、教科書だけの勉強では知り得ないものを学び、これまで自分がどれだけ無知であったかを思いしらされました。短歌を通して先人の心に触れ、歴史に連らなる喜び、悲しみを知ることができ、あらためて言葉の大切さを、美しさを知りました。

四日間の合宿を終え、まずは自分の興味を持ったところから勉強してみるつもりです。「日本」というものについて真剣に考えることができたこの四日間を胸に、合宿初日に熱く語りながら涙を流した先輩の気持ちに近づけるように。

御製をよみ涙する先輩を見て

先人の御心を知らずにこの日まで生き来し我の口惜しきかな

合宿を終へて

先人の御心知りてこの日から守り来たりし意思受け継がん

第五十一回合宿教室を終えて

㈱石村萬盛堂　河口太郎　三十歳）

今回初めて参加させていただきましたが正直、今まで「日本」という事についてや「日本の伝統・文化」について等あまり意識した事がございませんでした。なので最初は無知な自分を恥すかしく思い、又「とまどい」も感じておりました。そして初日、―初めはどうなるのかと不安を感じておりましたが御講義を聴き、「古事記」の輪読、班別討論で先生方に丁寧に一つ一つ解説していただいたお陰で正確な日本の歴史・伝統そして「日本人のこころ」というものを肌身で感じる事が出来ました。お陰で日本という国はこんなにも深く大きな「継がり」を築き上げ日本の文化はこんなにも奥ゆかしい物なのだと恥ずかしい事ではありますが三十路を前に初めて教えていただきました。

今回、あまりにも多くの事を教えていただいたために、正直まだ自分の中で消化できておりませんが、心に刻まれた事は「まごころ」―今回の班別討論でも知識云々の前にまず、初対面にもかかわらず、親身に時に熱っぽく教えていただいた「真心」であります。―又、短歌で教わった「日本語の表現の深さと美しい響き」でございます。

これからも日本の伝統・文化・歴史にもっと触れ、自信を持って生きていきたいと思います。

短歌創作を体験して

知られざる大和ことばにふれてみて初めて知りし美しき日本

新たな第一歩、

㈱井筒屋　山口道生　四十九歳）

中学三年生の頃、事務所のアルバイトとして当時の合宿教室に参加いたしましてから三十三年の齢を経て今回、社会人班として再び参加させて頂きました。

その間、私なりに多くの人生という経験の中、大学、就職、成人、結婚、そして来年は天命を知る年令を迎えることになりますが、自分は変わってもこの合宿教室は、その姿を変えることなく綿々と後輩の方々に受け継がれていることに感動いたしました。

ともすれば日々の業務と生活に埋没してしまいそうな自分を再度見つめ直す意味で過ごした霧島での三泊四日は、また明日から人生の後半に向けての新たな第一歩になったような気がします。

班別短歌相互批評にて

経験の有るや無きやにかかはらず思ひを語らふ場ぞ楽しき

清水兄

ご母堂のほほえましきかな思ひ出を原子の大家は語り給ひぬ

新宅兄

若々しく高千穂の風と歌ひたる君ぞ雄々しき益荒男のごとく

藤岡兄

コンサートでの思ひを胸に山本氏をば師と詠み給ふ優しき君なり

河口兄

初めてに短歌作らむとふ君なれど歌はみる間に名歌となりぬ

古川兄

鉄道の標語のやうだと笑ふ君その素直さに場(にば)ぞなごみぬ

小柳兄

どの歌にも慈愛込めたる笑顔にてカルテなくとも治療しゆく兄

占部兄

じっくりと歌の心を見極めて皆を引き込む兄のひと言

石村兄

急用にて無念なるかな場を離れし兄はおらねど心は通じぬ

山口

三十年(みそとせ)ぶりつくりし歌をともどちに推敲いただくことぞ嬉しき

班員の熱心な姿に勇気づけられた

（国立都城病院　小柳左門　五十九歳）

まずは、この合宿のために全身全霊を傾けてこられた藤新成信運営委員長、およびこれを支えられた山口秀範兄はじめ多くの方に感謝申し上げる。

合宿の講義内容は素晴らしいものであった。特に井尻千男先生の明解かつ深い洞察に満ちた講義は日本の現代の状況の最も中心的なものを看破されたものであり、深い感銘を与えていただいた。占部賢志学兄の御講義中、親の子を思う心と国を思う深切の真心との直結を感じ涙を禁じ得なかった。最も楽しくかつ今にもその感動の余韻を残すものは、みやまコンセールでの山本健二氏の「唱歌の心」であった。司会を担当させて頂きまぢかに山本氏に接することのできた喜びは消えるものではない。

約五十年ぶりの班長、荷重く班員の方に十分なことができなかったが、班員の方々の熱心な姿に勇気づけられた。初参加の方々がこんなに色々と感じ、感動される言葉にむしろ驚いている。ことに中学、高校、大学と同窓であることが分った九大教授清水昭比古氏との出会いは嬉しく、彼の明るさと深い知識につながる日本を思ふ情愛に感銘を受けた。有難かった。

藤新運営委員長の「合宿を顧みて」を聞きて

一年(ひととせ)を北に南に行き通ひ合宿準備に勤めし君は
仕事さへなげうちひたすら努めこし君の力に合宿は成る
いかほどに心をくだき給ひしかやうやく成りしこれの集ひに
一年の思ひあふれて壇上に立ちます君の声はふるへつ
合宿に集ひし人に心より感謝を述べます言の葉ぞよき
合宿も事なく終ふる今の時うれしき思ひに君は満つらむ

全体感想発表の学生達

あらためて母の思ひを感じぬと語る言葉にまことこもれり
班員との心の壁をのりこへてよき歌できつと泣きたまひけり
日の本のをみなのつとめをほこらしく語る乙女の声ははずめり

耳の底に残る言葉

（九州大学大学院総合理工学研究院　清水昭比古　五十八歳）

この度、御縁もて、五十路も半ばを過ぎて、初めてこの合宿に参加させて頂きました。諸先生方の御講話は、何れも力強く国を想ふ至誠に溢れ、一つとして心を揺り動かさぬものはありませんでした。何よりそれらの言葉の響きは、幼き日々に、今は亡き祖父母や父が語って呉れて私の耳の底に残って居るものと全く同じものでありました。先生方、準備運営に携はれたスタッフの方々に深甚なる謝意を表すとともに、改めて、教耘にあって誠実な人生を残し示して呉れた亡き祖父母や父への想ひを確かめました。

慰霊祭にて

降りますよろず御霊は老松の枝々に集ひ楽しげに見ゆ

〝国〟と向き合える機会ができた

（九州電力株式会社　新宅　悟　二十四歳）

自分は当初、この合宿の主旨を良く理解せぬままに霧島の地を訪れた。「短歌のすすめ」などの参考書物は出発直前に届き、目を通す間も無く最初の講演を拝聴するかたちとなった。

山口秀範先生の講演である。昭和天皇の御製を詠んで涙を流す場面があった。聴衆の中にも涙を拭う姿がちらほら見えた。

何故？

自分は涙の一滴も流すことはできなかった。自分は何をしにここまで来たのだろうと、戸惑いさえ覚えた。皆の心の琴線に触れたはずの言葉が、私にとってそれ程の意味を成さなかったのだ。

このことはつまり、皆に備わっているはずのある種の感性が私には全く無かったということを意味する。考えれば単純なことであった。恋愛を経験したことがなければ恋愛映画で泣くことはできまい。

私の決意は固まった。この合宿で皆が備える国を愛する感性を私も身に付けることが目標となった。とは言え、たかだか三日間。戦後教育の申し子とも言える私にとって、この感性の取得は大変難しいものである。だが、これから長い時間をかけて「国」という存在と向きあえる機会ができたことは大いなる収穫であった。

憂国の想い抱ける皆々の心我にもあらまほしきかな

第二十六班―社会人男―

本合宿に参加でき、嬉しく思う

（拓殖大学日本文化研究所客員教授　山内健生　六十三歳）

天候にも恵まれ、霊峰高千穂のふもとでの「第五十一回目」の合宿教室が終った。「第一回」の時と同じ場所での記念撮影が現実のこととなり、その輪の中に入れたことをうれしく思ってゐる。

どっぷりと合宿の日程に浸って、あらためて国のいのちの根源を辿り、その連続性の有難さを実感した。諸講義・公開講演・コンサート…等の全体が交響楽団の奏でるハーモニーよろしく、巧まずしてひとつの調べとなってゐた。参加者の求める姿勢のひたむきさもあづかって力となってゐた。二十六班の班員諸兄の前向きな姿勢が実に印象的であった。各人が自分自身を掘り下げる努力を惜しまなかった。

井尻千男先生の御講義をお聴きして、「市場原理」ではとうてい把握しきれない真・善・美といふ比較を超へた人生価値の重さをあらためて強く感じた。この実感がなくては共同体の意味も価値もわからなくなる。自らの人生と共同体はひとつながりのものであると心底から思った次第である。

第一回合宿教室と同じ場所での記念写真撮影

五十年へにける今日の写し絵にゐならび入るるはうれしかりけり

いくそたび目にせしかの日の写し絵と同じき場所に我ら立ちたり

いまは亡き師の君もまた天翔りわれらの傍（はた）にいますここちす

国民同胞感の大切さを感じた

（箱根町教育委員会　岩越豊雄　六十三歳）

はからずも社会人班の班長として若い社会人と寝起きを共にし、充実した合宿生活を送ることができ、有難く感謝しています。

第五十一回目の節目の合宿を天孫降臨の地であり、又第一回目の合宿地で開催したことは、何か意味あるものを感じた。

第一回目のテーマが昏迷の時代に新たなる指標を求めてと聞いたが、その指標とは、解体され、またされつつある共同体感覚（国民同胞感）をいかに再構築するかが、これからの使命であることを、改めて強く感じた。共同体感覚の構築といっても、それは、まず、家庭をしっかりすること、そのためには、親先祖のまつりをしっかりし、夫婦相和し、しっかり子育てをすること、会社にあっては、市場原理だけではなく、利を越えて会社のために、どう貢献するか考えること、国にあっては、万世一系の皇統、皇室をお守りすることであると班員にも語った。

自分のできることは、昨年からはじめた寺子屋で古典の学習を通して、子供たちに伝えてゆくことであると改めて感じた。

占部賢志氏より河村幹雄先生のことを聞きて

熱烈に父の師のこと語り給ふ強きみことばありがたく聞く
合宿の地にてくしくも吾が父の恩師のみことば身にしみて聞く
今の世にそのまま通ず師のことば今に生かして人に伝へむ

初めて知った和歌と唱歌

（つくば開成高等学校教諭　川原秀之　四十六歳）

初めて参加して、参加前と後でどのような変化があったかを考えると、第一に日本人でありながら日本古来の伝統や文化にどれだけ関心があったかを考えさせられたことです。和歌も唱歌も知りませんでした。恥ずかしいばかりです。福岡に戻り勉強の場を探し、来年も参加したい。第二は仲間ができたことです。一人では何も出来ないし、班の仲間また、今回合宿に参加した人も仲間だと思います。次回はもっと積極的に行動したい。

八人とビール片手によもやまばなし緊張もとけ満面笑顔
八人と話は尽きぬ宴かな最後のしめは「ふるさと」唄ふ

諸先生方に感謝する

（大村郵便局郵便課　橋本公明　五十二歳）

岩越豊雄先生、山内健生先生、有り難うございました。両先生の下で、言葉の大切さを学ぶ事ができました。この事を大切にしたく思ひます。

学問と友情の中で、寶邉正久先生が、恩師の万葉集は「いいね」との言葉で「わかりました」とおっしゃいました。

恩師との深いつながりをうらやましく思ひました。少しでもさうしたものを身につけるやう、日常生活、家庭生活を大切に学んでゆきたいと思ひます。

全体感想発表を聞きて

涙ため班のつながる苦しさを語る姿の美しきかな

日本の現状に危機感を覚えた

（日本植生　谷尻良太　三十歳）

戦後教育を受けて現在に至る私にとって合宿の講義内容は知らないことばかりで恥ずかしい思いがします。二千六百年以上続く皇室を中心とした日本の歴史が我々の世代で廃れている状況に危機感を覚えずにはいられません。先の大戦で勝利したアメリカの戦後戦略にまんまと引っ掛かり危機的状況の昨今、私に出来る打開策は本合宿のような場で、現代教育が教えない偉人の発言、功績を伝えていくことだと思います。

自分自身を磨いていきたい

（㈱ワイドレジャー　白石靖幸　二十六歳）

今回、合宿教室に参加させてもらいまして、まず各先生方、

関係者の皆様に感謝致します。この合宿教室で学んだ事はたくさんあり過ぎて全ては言えません。私は、自分の考えを曲げない、人の話を良く聞かないなど、頑固な所がありますが、今回職種の違う方々と話をしまして、そういう考えもあるのだなと、少しは柔らかい頭になったと思います。それに、仲間との絆や友情を久しぶりに感じさせてもらいました。今の時代、子供のしつけが出来ない親や、子供を野放しにしている親が増えてきていますが、日本を学ぶ前に、自分の事が出来てなくて学べるかと思いました。私の両親はとても厳しくて、何事も、一から十までしつけという感じでした。だからこそ、私も子供にしつけが出来る。今、日本を学び、今変わるかと言われたら、変わるはずがありません。自分の子供に愛を与え、豊かに育て、長い時間をかけて良い方向に変えて行くべきだと感じました。今回学んだ熱い気持ちを忘れず、一日一日を大切に家族と過ごしていこうと思います。

合宿を終へて

霧島でみんなの思ひを合はせれば離れてゐても気持ちは一つ

日本語の情緒・美しさに気付いた

（㈱はせがわ　木内良一　三十二歳）

「感動」この一言に尽きます。私は、祖父、父、そして現在勤めております会社において、「日本国民として」、「和のこころ」、「伝統」など様々なことを学んできました。しかし、そのバックボーンとなる「積み重ねられた事実＝伝統」という部分の知識が、欠けておりました。今回の合宿で、欠けていた部分を少しでも埋めることができたのではないかと感じております。

一番感動したことは、私が発している「日本語」というものが、いかに情緒にあふれ、美しい言語であるか気付いたことです。嫌々勉強していた古典が、いかに大切であったか、我々が生きている日本の根底にある古典がいかに日本の国を支えてきたか、理解することができました。

感動したことが多く、全て書ききれませんが、今後も今回教えていただいたことを生かしてまいります。

慰霊祭に感ず

霧島に輝く無数の星々を仰ぎ見にけり御霊たちかと

合宿を終へて

霧島に集ひ学びし和のこころ国のいのちを絶やさぬやうに

古事記に触れて

（西部ガスエネルギー㈱　馬立幸祐　二十七歳）

今回の合宿に参加して、日本文化の美しさを改めて学びました。古事記については、名前は知っていただけで、内容に触れたことがなかったのですが、内容に触れて美しいと思いました。初め語句の意味が理解できない所があったのですが、リズムや文字を見ただけでも美しいと思いました。その後、

班別輪読をやっていく中で意味も理解できて、改めて日本文化の美しさに気付きました。私は今まで生きてきた中で、日本人でありながら日本文化を知らなかったことをとても恥ずかしいと思いました。今後はこの経験を生かして、日本文化を大切にして、学んでいきたいと思いました。また、今回の班行動については、いろいろな所から集まったにも関わらず、テーマについていろいろな討論ができたことがすごく良かったです。

霧島で神話の言葉を学びつつ我等は向かふ神話の宮へ

第二十七班―社会人男―

皆で取り組む喜びがあった

（防衛庁装備本部長崎支部　鎹　信弘　五十四歳）

班長をさせていただき、拙い進行ながら先生方が心をこめて伝へようとされたことを若い社会人の方に感じ取っていただきたいといふ思ひで取り組んだ。班別討論の中で日高廣人先輩を始め人生経験と学識に優れた先輩方が積極的に発言され、講義内容をさらに敷衍していただき実にありがたかった。また「古典輪読」「市丸少将の手紙」の輪読にも皆で取り組み夫々こめられた思ひを幾分なりとも受けとめることができたと思ふ。短歌相互批評は特に楽しく、各自が作った歌が班員皆の努力によって、皆によく分かる一つの短歌として完成した時は班員皆に喜びが生まれた。

男子十人心尽くして学び合ひ別るる今日は寂しかりけり
この山に学び合ひたる友どちは別れしのちも心通はむ

伝統を大切にしたい

（笹川能孝　三十九歳）

特に印象的だったことは、二十代の若い世代の方々が多数参加されていたことです。全体感想では、自ら進んで発言される方が非常に多く、驚きと共に大変感動致しました。そして、同班の日高廣人、大岡弘、鎹信弘各先輩におかれましては、短歌創作の折、幅広い教養に触れることができ、その奥深さに心から感服させられました。最後になりますが、今回の経験を通じて文化度の高い我国のよき伝統を若い世代と共に大切にしていく具体的活動を行なって参りたいと思います。

湯けむりにひびきわたりし若人の声高らかに想ひめぐらす

古事記を勉強していきたい

（湯亭こんや　青砥誠一　五十六歳）

特に印象に残りました御講義は、岸本弘先生の古典輪読導入講義古事記「わたつみのいろこの宮」。古事記の時代の日本の神々のおおらかな気持ち、そしてこれから日本という国

をしっかりとしたそして素晴しい国にしていくのだというエネルギーを感じました。

古事記の解釈にとどまること無く、その物語の中に込められている古代の人々の国造り、その並々ならぬ心意気というものを感じました。私も古事記について勉強をし、古事記の時代の人々の国造りへの意気込みを少しでも理解出来る様になればと思います。

いにしへの古事記をひもときて国造りするいぶきを感ず
国造るいにしへびとの思ひをば語りつがなむ後々までも

出会った仲間と付き合っていきたい

（㈳福岡県中小企業経営者協会　角田忠房　三十八歳）

今回の合宿を振り返り初参加でありましたが、何か懐かしい想いをいたしました。日常生活では忘れている自分が日本人である事、日本は歴史が古く、そして、すばらしく美しい国である事等、学校と社会ではこんなに内容の濃いものは学べない事が、この四日間の短期間で体験できた事は私のこれからの人生において、きっと有益なものではなかったかと確信しています。年齢を問わず全国に志を同じくする者と出会えた事が、これからの自分に自信と勇気を与えてくれました。社会人となり、学問する事はほとんど無かったこれまでの生活ではありましたが、印象に残った短歌をこれからも作っていきたい。ここで出会った仲間とこれからも付き合っていきたいと思います。

先人の御魂と出会ひ未来への希望を誓ふ霧島の夏

参加者の姿に感動

（九州電力㈱鹿児島支店　野田　徹　三十八歳）

霧島での四日間の合宿は、私にとってものめずらしい講義と体験ばかりでした。感銘したのは合宿参加者が、本当によく勉強し、学んだことを自分の言葉で聞き手に分かりやすく主張される姿です。今まで人との協調性を重視するあまり、主流の意見を自分の主張の根拠とし、要領よく場をまとめることに努めて来ました。今後は自分にもっと正直になりたいと強く感じました。

霧島で友の言葉を授かりて心に誓ふ我の生き方

日本の文化、歴史を勉強したい

（九州旅客鉄道㈱　法常直哉　二十六歳）

初日の講義が始まってみると、その講義のレベルの高いことに圧倒されました。しかも、班別討論では、その内容について当たり前のように議論を繰り広げる他の班員に対して自分自身が情けなくなりました。そんな具合で四日間はあっという間に過ぎた訳ですが、今思うと初めからもう少し高いモチベーションで臨めば、より多くのことを吸収できたのでは

ないかと後悔しています。ただこの合宿中に吸収した知識はわずかだったかもしれませんが、これまであまり関心を持たなかった文化、歴史という分野に関して、これから少し勉強してみようと思えるようになっただけでも、この合宿に来た甲斐があったと思います。

我が知らぬ祖国の文化ここにあり海外(そと)を見るよりまづ日本(うち)を見む

唱歌の絶唱に泣けた

（元㈱日立製作所　日高廣人　七十一歳）

第五十一回にして同じこの地で開催された第一回を顧みてものごとの起源に立ち返ってみる事の大切さを説かれた山口秀範先生の導入講義は白眉であった。

企劃の最高は「唱歌でたどる日本のこころ」であった。吉田好克先生の御講演もさることながら山本健二氏の日本語の「ことば」の美しさを強調される力強くも繊細な絶唱は心の底に静かに横たはってゐた「さと心」を呼び覚まし、なつかしさのあまり「流るる涙とどめかねつる」であった。

また来年の合宿までに自らを磨き、より一層深く新しい事を学ぶために、この合宿に参加したいと思ふ

うつそみの目には見えざるまごころは言葉になりて傳へられてあり

うつそみの目には見えざる心こそ我が日の本のたからなりけれ

美しき日本の心をたたへたる童謡・唱歌のなつかしきかな

この国に生まれたことに感謝したい

（アートプロダクツ・プランニング　山本雄大　二十六歳）

自らの生まれ育った国のことであるにも関わらず、私自身無知であるばかりか、非常に無関心だった部分もあり、また既知のことについても断片的なものであり、その奥にある先人達の知恵や背景については、これもやはり知らない事ばかりでありました。我々の祖先の築き上げた文化のふところの深さ、積み上げられた知恵の大きさ、情の厚さに触れ、素直に、この国に生まれたことに感謝の気持ちが生まれました。

いにしへの森にます神々のいぶききこゆる高千穂の朝

心を通わせ合うことを大切にしたい

（東レエンジニアリング　結川高志　二十五歳）

大切なことは、友らと真剣に付き合う事、心を通わせあう事だと思います。九工大学生の感想発表を聞いて本当にそう思いました。自分の中にある思いを何らかの手段で相手に伝えようとする。相手はそれを受け止め、答える。このように心を通わせあうことを自分は大切にしていきたい。そして、この心の交流こそが自分にとっての日本文化なのだと今は思えるようになりました。

睦み合ひ心通はせ合ふことぞ日本文化に通ずる道なる

心に沁みる御講話だった

（國學院大學院博士課程前期二年　大岡　弘　六十歳）

慰霊祭を前にしての寶邉正久先生の御講話には、心打たれるものが多々あった。帝國海軍の一員として大東亜戦争を闘はれた御経験に基づきお話を進められたが、三井甲之先生の詠まれた「ますらをの悲しきいのちつみかさねつみかさねまもる大和島根を」の歌に関して駆逐艦「わらび」の死者九十名のうちの八割以上は艦の走航をあづかる機関科員達であったらうと御指摘になった。また、「わらび」と衝突した巡洋艦「じんつう」は、その後の大東亜戦争において、衝突事故の責任を負ひ自刃された水城艦長の荒魂と共に闘はれたに相違ないと詠まれた廣瀬誠先生の歌を紹介された。「悲しきいのち」とは日本の全歴史を通して磨き上げられた言葉であるとの御指摘もあった。心に沁みる御講話であった。

今林賢郁副理事長のお話を拝聴して

若きらに分かり易くも説き給ふ国のいのちを継ぎゆくべしと

第二十八班―社会人男―

改めて合宿教室の素晴らしさを実感した

（宮崎県立宮崎大宮高等学校　竹下鉄郎　五十三歳）

今合宿でご登壇された先生方のご講義は実に連続性のある一貫した思ひの伝はる素晴しいものであった。班員の気持ちもご講義毎に深まって行ったと思ふ。輪読では古事記を声に出し言葉のリズム、美しさを体験することで気持ちが一つになっていくのを感じ、山内健生先生のご講義での歴代天皇の御製、占部賢志先生のご講義での河村幹雄博士や市丸利之助少将の歌の輪読を通し「短歌を読むことで詠み人の思ひや生き方が実に迫ってくる。言葉の力と大切さを感じました」との言葉があった。

社会人の班長として合宿教室の意義、使命に改めて感じ入った次第である。

全体感想自由発表を聴きて

つぎつぎと登壇したまふ若きらの語ることのは力こもれり

山根兄のみ霊に導かれて

（北九州市立医療センター　森田仁士　五十一歳）

社会人班は、竹下鉄郎班長のもと楽しく確かな研修のとき

を過ごすことが出来感謝しております。今回は亡き山根清兄のみ霊に導かれての参加でした。『学問と友情』の意味、先生方が毎年の合宿の中で慰霊祭を欠かされなかった意味を体感した合宿でした。

慰霊祭にて山根兄のみ霊に

去年の夏伊勢にまみえし友どちのみ霊まつるは何と悲しき
警蹕の声ひびく中君がみ霊降り来ませよ合宿の地に
霧島は共に初めて参加せし思ひ出の地なり三十年余前
残りたる日は少なしと訥々と語りし君の面輪浮びく
我がことを忘れて祖国の行く末を案じ語りし君にありしや
力たらず迷ひ多けれど継ぎゆかむ導きあらめ君がみ霊よ

「寄せ書き」に心ひきしまる思い

（日揮㈱　江口研治　六十二歳）

第一回合宿において小田村寅二郎先生が語られた「スピリットは人間の部分を統一するものである。知識も情意も、更に肉体も含めて、それを統一あるものに整える・・・」を山口秀範先生が一つ一つ丁寧に読みあげられた時、さもこの場、この時に小田村先生がおられる様な心もちが致しました。

学徒出陣を経て昭和三十一年の合宿に集われた寄せ書きに「ますらをのつかのいのちも時々もいまのよろこびねがひて生きむ―寶邉正久」がうたわれております。

正しく生死をかけた大変な時代を生きてこられたこの「寄せ書き」に心ひきしまる思いが致します。

「班別討論への感謝をこめて」

とつとつと語りかけくる班長のその言の葉に心なごみぬ

私の三つの柱

（産経新聞社　大内保治　五十八歳）

平成十四年社友二人と江田島合宿に初めて参加して以来今年で連続五回目である。目標であった五回の参加を達成できたのでうれしい限りです。大切な事はまず参加することと拙くとも一首でも多く歌を創ることであると思う。合宿を通して改めて次の三つを柱として毎日を過ごしていくことを決意した。恐れ多いことではありますが、

一、御皇室をお守りする。
一、少なくとも月一回は英霊に慰霊と顕彰を捧げ靖国神社をお守りする。
一、独立運動を支援し台湾を守る。

来年も参加致し度く、これからも精進します。

吾もゆくみちあるところふみしめて日本再生大君のみち

すべての方々に感謝したい

（㈱はせがわ　藤田拓朗　二十九歳）

今回の合宿を通じ、人に伝えていく前に自分自身はどうな

のか、自分は日頃どのような気がまえで生きてゆくのかをもう一度再確認したいと思います。

また感謝の気持ちを表すため、私共の会社では「お蔭様」という言葉をよく使います。今回の合宿において日本の為に命を捧げた多くの御霊、二千六百年以上もの伝統を守り続けてこられた皇族の方々、また私に関わるすべての方々、そして合宿で出会った多くの友、最後にこの合宿を支えて下さっていた方々、すべての方々の「お蔭様」であり感謝したいと思います。

慰霊祭にて

国の為命ささげしその御霊かがり火燃ゆるこの地に降りし

充実した四日間

（中村学園大学　教務課　岩尾祐介　三十歳）

今合宿に参加するにあたりやる気を維持できるかどうか不安でした。しかし、合宿を終えた現在、四日前とは想像も出来ないほどの充実感を覚えています。

数々のご講義はもちろんですが、特に班内での活動が私の消極的な気持ちを取り去ってくれました。班長を先頭に、ベテランの方々の豊富な見識と経験を惜しげもなく私たちに伝えていただきました。特に三日目の夜の班別懇談では得がたいお話を伺うことが出来ました。

職場の同僚にも、この合宿の楽しさ、有意義さを伝えてあげられればと思います。この四日間本当にありがとうございました。

見聞きせし新たな知識多けれどそれを活かすは我次第なり

「聞く」ことを心がける

（熊本市教育委員会　濱口知久　三十五歳）

今回の合宿に参加するにあたり重点をおきたいことがありました。それは「聞く」ということです。これまでの合宿中に、気持ちを伝えようとするあまり「聞く」ということがおろそかになっているような気持ちがあったからです。そのため、ご講義も例年以上に集中でき、先人が残されたさまざまな言葉が持つ力を感じることが出来たように思います。班においても社会人として年齢や職業、立場も違う方々の経験や学問に裏打ちされたお話を聞くことが出来て大変充実した合宿生活を送ることが出来ました。次回は「聞く」だけではない新たな目標を持って望みたいと思います。本当にありがとうございました。

言の葉の力の強さ感じ入り霧島の日々過ぐるは早し

ひとりの日本人として

（㈳福岡県中小企業経営者協会　内田雄一郎　三十一歳）

私は一人のサラリーマンとして、今後仕事をしていく上で

日本の大事な歴史の真実を正面から見直すことで、普段の仕事に対しても真正面から向かって取り組むことが出来るのではないか、また一歳になる長女がおりまして、子育てや教育のヒントが見つかるのではないかと思い参加しました。

合宿でのご講義や研修を通して見出すことが出来たのは、日本人として生まれてきた以上、日本人が培ってきた素晴しき歴史、風土、誇りを私自身が学び、それを子供に愛情を持って教え、伝統を引き継いでいくことが必要ではないかということでした。

星空に響き渡れる「海ゆかば」虫の鳴き声ともに奏でる

合宿中に創作された「短歌詠草」

―しきしまのみち―

短歌創作について

この合宿教室では、例年、主催者を含めて参加者の全員が、短歌を作ることにしてをります。これは、この合宿教室の大きな研修課題の一つであり、今回も多くの短歌が創作されました。

短歌は、現代においては、人々の日常生活には馴染みの薄いものとなり、文学的趣味の一つとしてしか受け容れられなくなってしまってをります。従って、この合宿教室に初めて参加する学生青年諸君にとって、短歌創作は大きな戸惑ひであり、かなりの負担でさへあるかに見受けられるのですが、合宿日程を追ふにつれ、自らの心の動きを言葉にすることのむづかしさ、まごころの籠った言葉の奥深い味はひを多少なりとも体験して行く中で、次第に、その意味が把握されて行った様に思はれます。

そもそも日本人は、千数百年の昔から、「万葉集」に見られるやうに、あらゆる身分・職業の人々が、学問知識の深浅、老若男女の相違を越えて、五七五七七の定型の中に、折々の自己の思ひを素直にうたひ上げてきました。自己の内心を赤裸々に短歌の上に表現することは、同時に厳しい内省を伴ふものです。いはば短歌創作の過程で、厳しい心の鍛錬が行はれるのです。そこで私達の祖先は、短歌を詠むことを人生の修行の一つの手段と考へて「しきしまの道」と呼んできました。日本人は、短歌を詠み交はすことによって、人間にとって最も大切な心の働き、情意を厳しく鍛へ合ってきたのです。先祖の歌を学ぶことは、私達一人一人の心の中に先祖の姿を蘇らせる作業であり、自分が紛れもなく先祖とつながりをもった日本人であることの発見であり、また自覚なのではないでせうか。現代の教育では、知識の集積や論理の整合に重きが置かれ、人間にとって最も根源的な心の問題がなほざりにされてをります。本合宿では、かうした現代教育の束縛を自ら感知し、そこから一歩でも抜け出さうとする営みが、この短歌創作とその後の参加者同志の相互批評によって集中的になされてゆきます。心の奥底に眠ってゐるまごころを呼び覚まし、人のまごころに敏感に感じる、素朴にして溢れる人

間性を取り戻さうとする試みが、ささやかながらも実現されてゆくこの貴重な経験は、参加者全員にとって、忘れがたい印象として心の奥深く刻み込まれるに違ひありません。

合宿二日目の午後、青山直幸氏（戸田建設㈱）により短歌導入講義がなされ、短歌を作る上での基本的ルールが指導されました。その後夕刻までに各人が創作した第一回目の短歌が提出されました。慌ただしい日程の中で生み出された短歌ではありますが、作者の集中された内心の働きがはしばしに表現されてをり、作歌上の巧拙を越えて、強く惹かれるものが籠ってをります。提出された短歌は、同時に国民文化研究会会員による選歌・印刷のための清書作業を通じて、翌日には歌稿となって参加者全員に配布されました。この歌稿をもとに折田豊生氏（熊本市役所）によって、短歌全体批評がなされました。ユーモアを交へた御話の中にも一語一語に含まれる作者の心を全身をもって偲ばれ、直されてゆく姿に、参加者は短歌批評のあり方を自然に感得したのでした。

その後、各班ごとに班員全員による相互批評が行はれ短歌の表現を通じお互ひに友達の心に触れ合ふことが出来、合宿生活において、寝食を共にし、胸中を披瀝し合って来た友情の結び付きが、一段と確認されました。

短歌創作を通して展開された、まことに稀な精神生活の体験は、参加者ひとりひとりに、言ひ知れぬ喜びをもたらすことになりました。

ここに収録された歌の数々は、班員の心を集結して推敲・添削されたものです。その表現形式においては稚拙なところも見受けられますが、これらの短歌の中から瑞々しい貴重な魂の輝きをお読みとり下されば、と心から祈念する次第です。

短歌詠草（しきしまのみち）合宿第一回目の創作作品（参加学生の第二回目の作品は感想文の末尾に収録）

第一班

㈱寺子屋モデル　三林浩行

井尻千男先生のご講演をお聴きし
「運命愛」「宿命愛」と述べられし言葉心に
響きくるなり
ふるさとも御国も父母も選び得ぬものなれば
こそ良さ見つけたし

戸田建設㈱　青山直幸

山本健二氏のコンサートを聞きて
七十路と思へぬ声で高らかに日本の唱歌を歌
ひたまふも
澄みわたる声朗々としづまれるコンサート
ホールに響きわたれり
なつかしき唱歌の数々聞きをればしらず涙の
あふれ出づるも
童謡を共に歌へば幼き日母と歌ひし日々よみ
がへる
武士の思ひ偲びつつ歌はるる「荒城の月」胸
にしみ入る

首都大学東京　システムデザイン　二年　池松貴史

神さびし巨木の姿残さんと夢中で携帯の写真
を取りぬ

成蹊大学　法　二年　亀澤矢汐

いにしへに瓊瓊杵尊の天降りましし霧島神宮
を訪ひて祈りぬ

一橋大学　経済　一年　小柳　元

数多なる御親の命受け継ぎて我が命あること
に気付きぬ

高知大学　農　四年　江頭嵩礼

目の前にそびえ立ちたる御神木の歴史の重み
肌に感じる

佐賀大学　経済　四年　川畑孝志

神代よりますぐにつながる日本の国開きこし
歴史思はる

御神木を見し折に
天照神勅たまはり天降る高千穂峰を仰ぐたふ
とさ

北海道大学　文　三年　小林雅典

あざやかな緑のなかを高千穂の峰を仰ぎつつ
友等と歩む

九州工業大学　情報工　三年　秋田崇文

天孫の降りしこの地に集まりてふることぶみ
をともらと読まむ
一人では読むことさへも難しき書を皆で読め
ることが嬉しき
輪になりて古事記を読みゆけば面白きことと
声が上がりぬ

第二班

若築建設㈱　池松伸典

コンサートにて
清らかな歌声きけば懐しき昔思ひて涙出でく
る
戦ひに離れ小島にふるさとをなつかしむ兵士
の思はれにけり

合宿へ向ふ飛行機にて
いかならむ集ひになるかと思ひつつ亡き友の
こと思はれにけり
必ずや亡友もきましけむ霧島に力足らずも励
まむとぞ思ふ

玉川大学通信制　三年　本間隆宏

おのもおのも心開きて語らへば今日会ひ初めしとは思はざりけり

進むべき道わからじと友どちは己が悩みを語り出したり

純粋に己が苦しみ話したる友が心のうつくしきかも

東京理科大学　一年　小柳宏太

霧島神宮の御神木を仰ぎて

遥かなる時を経たりて大空に神々しくも伸びる杉かな

崇城大学　二年　宇野浩一

難しき講義なれどもひたすらに思ひを寄せてメモを取りゆく

福岡大学　商　三年　北野雄一郎

「故郷」の歌をら聴けば思ひだす古き日本のなつかしさかな

法政大学　工　三年　吉村常男

唱歌「故郷」を聞いて

時をおき故郷に帰りし度に思ふ父母の笑顔にうれしはずかしと

九州工業大学　情報工　多賀祐之介

コンサートで山本健二氏の歌を聞きて

しみじみと「故郷」の歌に聴き入りて故郷を想ひ涙流るる

第三班

㈱アイ・エイチ・アイ・エアロスペース　内海勝彦

コンサート「唱歌のこころ」を聴きて

バリトンの声つややかに響きけり七十路こえし大人と思へず

まぶた閉ぢ大人の『故郷』聞きをれば幼き頃の思ひ出されぬ

今は亡き父母のことしのばれて自づと涙湧き出にけり

この歌を歌ふ時には師のことを偲ばれしとふ『仰げば尊し』

我も又恩師の面輪浮かび来て昔に会へる心地するなり

飯塚市立鎮西中学校教諭　大津健志

旧霧島神宮の跡地にて

坂道を登りて見れば目の前にそびえて立てる山ぞ雄々しき

日本大学　経済　一年　奈良崎大祐

霧島神宮の御神木を見て

大空に太く真直ぐ立つ杉の姿のごとく我も生きたし

九州工業大学　情報工　三年　瀬木裕太郎

合宿導入講義を聞きし折に

国民の上思はる天皇のみ心知りてとり肌立ちけり

千葉大学　法経　一年　田村　俊

霧島神社の元宮を訪ねし折に

古の宮居ゆはるか見渡せば天降ります神いますがに思ゆ

東京大学　教養　一年　松藤　卓

真剣に意見を述ぶる我が友の言葉を必死に我も聞くなり

中村学園大学　人間発達　四年　松堂琢磨

六年と三日の時を過ぎし日に我はまた来ぬ高千穂の山

福岡大学　商　三年　辻　幸希

霧島神宮の御神木にて

大杉の下に枯れゆく蔦の葉の小さき命に目をうばはれぬ

九州大学　工学　修士二年　藤浪武志

霧島神宮にて

石段を登りてみればそびえ立つ宮の大杉我ら迎へぬ

大杉は神さび立てり鎌倉の御代ゆこの地を見守りますか

第四班

㈱みずほコーポレート銀行　小柳志乃夫

岸本弘さんのご講義

天孫の降臨のくだり朗々と暗誦しますよどみもなくて

古事の記の力ある言の葉のしらべ迫り来高きみ声に

このレジュメ編みたまひたる先輩の大きいたづき偲びまつるも

若きらに読み聞かせんと幾日をも心をこめて編みたまひけむ

霧島合宿

三十年の月日過ぎにき大学に入りてこの地に学びしその日ゆ

生涯の友と呼ぶべき同級の友らも集ひしその合宿に

この長き年月を共に学びこし友ゆきませしを悲しみ思ふ

合宿をこよなく愛せしわが友の今もこの場にゐますがに思ふ

早稲田大学　社会科学　修士二年　野村　亮

霧島神宮古宮跡参道にて

幼き日よく遊びたる松林思ひ出さるる松のにほひに

佐賀大学　文化教育　二年　佐々木晶

霧島の神話あふるる由来をば山の峰々ゆ感じられけり

九州大学　工学　三年　馬場章央

童謡を歌へるうちに思ひ出す我を叱ります母の顔

さはあれど我がこと常に気遣ひます母の心をありがたく思ふ

福岡教育大学　教育　三年　平田無為

みやまコンセールにて荒城の月を聞きて城を失ひし武士の御魂を鎮めむと歌ふ声音の高く響きぬ

九州工業大学　情報工　二年　谷口耕平

天孫降臨の地にて

去年も今年も確かめえざりき逆鉾をいつかこの目で見たしと思ふ

下関市立大学　経済　二年　横手健太郎

高千穂の景色を見つつかく思ふここに我が家を建てたきものと

第五班

日本青年協議会　外村聖典

高千穂河原にて

鳥居残る御社跡の背に見ゆる高千穂の尾根広ごりて高し

長崎大学　教育　二年　羽廣弘太

見上ぐれど梢はるかに見えわかぬ尊き姿胸に迫りく

九州工業大学　情報工　四年　林　祥人

昨年は霧に沈みし高千穂も今日はさやかに御山あふぐも

霧晴れて日に照らさるる高千穂の木々の緑は鮮やかなりけり

明星大学　日本文化　四年　高橋佑太

皆で童謡「雨ふり」を歌ひし折に泣いてゐる子にかさを貸す幼子の優しき姿を皆で歌ひし

東京大学　教養　一年　内海雄太郎

緑濃き木々の網より光さして仰いで見るは霧島の空

九州大学　理　修士二年　山崎寛一

さざれ石のごとく想ひを寄せ合ひて心の通ふ国となしたし

志學館大学　法　三年　野間口俊輔

友達の厳しき叱咤に発起して我いざいかむ雲の向ふへ

佐賀大学　院　農学研究科　二年　小代智之

霧島神宮

五十年前と同じき階段に居並びて友らととも

に写真撮りにき

第十一班

青年協議会　別府正智

故宮祉

かの山か瓊瓊杵尊天降りましし国のはじめの
高千穂峯は
日の本の国のはじめの高千穂は峯高くして空
にそびゆる

熊本県立菊池高等学校教諭　久保田真

井尻千男先生の御講義を聞きて

何もかも市場原理にやむなしと言へるに獅子
吼す冗談じゃないと

阿部サナエ

井尻千男先生の御講義を承って

國をうれひ力強くもさはやかに思ひのたけを
語る師の君
師の言の葉尊しここから帰りてのち孫にも我
は語り伝へたし

東京外国語大学　一年　鴨澤誓子

国民を思ふ優しき御心に陛下を日本の父と感
ずる

崇城大学　芸術　二年　折田宇代

山本健二氏のコンサートをきいて

我が胸の内に染みゆくその歌は語る声より心
に響く

大阪大谷大学　教育　二年　松元京子

我を待つ母に語らむここに得しお土産話を心
尽くして

麗澤大学国際経済　三年　小林紀恵

すばらしき唱歌に聞きいり胸うたれ知らず涙
の溢れいでけり

オルタナティヴ㈱　中川真子

故郷の古への音よとこしへに大和の心霧明く
るまで

㈱菜デリカ九州工場

箕浦イルマ・グラシェラ

去年から住む九州の人々の情熱にふれて
人々の熱き思ひに触れをると故郷に帰りし気
持ちわきくる

第十二班

山口県立下松高等学校教諭　賓邉矢太郎

高千穂河原にて亡き友を思ふ

こぞゆきしみ友もあの峰のぼりける遠きかの
日のうつつに迫り来

会へばみめほそくしつつ吾を迎へたる君がこ
ころを忘らるべしや

鹿児島県立短期大学　商経
一年　大園麻都香

やはらかなる木もれ日あびる御神木をめぐる
大気に溶けこむ心地す

同志社大学　社会　二年　鎹　純香

合宿につどひし友らと共に見し霧島の緑を心
にとどめむ
たらちねの母に見せたし美しきみどりつらな
る高千穂のみねを

長崎大学　教育　三年　村里友紀

日の本に永く伝はる唱歌をば皆で歌へばいに
しへ思はる

目黒区教育委員会　近藤雅美

コンサート「唱歌のこころ」山本健二先
生のお歌を聞きて
「故郷」の歌声聞きつつ父母の思ひ浮かびて
涙あふれく

陛下の御製を拝して

日の本に天皇おはしますよろこびを友や子供
らに語り行きたし

谷由香里

みどりなす山なみ見つつ鳴く蝉の声聴きをれ
ばなつかしさ覚ゆ

㈱九州旅客鉄道　岩熊英理沙

合宿にて
みおやらの守り伝へし日の本の文化と心我も継ぎたし

島村善子

山本健二氏のお歌をお聴きして
こころこめ日本の歌を歌ひたまふ氏の御姿に心洗はる

鹿児島市役所　有村浩明

山本健二先生「唱歌のこころ」を聴きて
みおやらの思ひしのびて歌ひたまふ声朗々と胸に響きく
日の本の歌若きらに伝へむと思ひをこめて歌ひたまひぬ

第十三班

㈱寺子屋モデル　黒岩礼子

初めて会ふ友と初めて言葉をかはせし折
たちまちに心のかべもなくなりて笑ひて語れることぞうれしき

新明電材㈱　飯島隆史

霧島の神の社（やしろ）の古址（ふるあと）に雲湧（わ）く峰を仰ぎみるかな
夏空に山杉青く連なりて韓国岳（からくにだけ）に風わたるらし
神天降（かむあも）りし高千穂峰のこれの地に小林秀雄（こばやしうし）大人とたちしことあり

九州女子大学　人間科学　二年　櫻井聖子

二八（にはち）の春を思ひ出しつつ未だ見ぬ新たな友へ心はせゆく

柏原商事株式会社　山田理絵

ふるさとの唱歌聴きつつさまざまの想ひわききて胸うるみくる

㈱石村萬盛堂　山口未佳

合宿で始めて会ひし班友と日数経る程親しさ増しゆく

町田市立小山田小学校教諭　村田奈央子

みやまコンセールにて
「故郷」の一言一言をかみしめて歌ひてゆけば涙出づるも
日の本の優しき心あふれたる唱歌を子らへ伝へゆきたし

福岡教育大学　教育　四年　山口瑛美

古事記輪読
班友と声を合はせて古事記（ふることぶみ）声たからかに読みまつりゆく
もろともに声たからかに読みゆけば早くも終はりにたどりつきけり

羽後信用金庫横手支店支店長代理　須田清文

会ひしより親しみましゆく班友と参拝するなり霧島神宮
昼の陽射し強くも照らす石段にならびて写しぬ記念撮影
生涯の友得るえにしの生まれくるくしき集ひのありがたきかな

維新の志　古河綾子

霧島のこの美しき風景を母にも見せたしと思ひけるかな

九州造形短期大学　デザイン　二年　諌山仁美

霧島神宮にて
御友らとみくじ開きて喜びつためいきつきつ笑ふはたのしき

第二十一班

㈱三福水産　三福完治

和歌づくり意義の深さに驚きてあせる心のますますつのる

㈱デル　竹下健太郎

神々の天降（あも）りし山のふもとにてあすの祖国をみ友と語らふ

㈱寺子屋モデル　山口秀範

純白の装ひ映ゆる歌人はみ思ひこめて今歌ひ出す

明治の御代大正の頃とたどりつつ鍛へしのどの美し声響く

歌の道に誘ひし師を偲びます「仰げば尊し」しみじみと聴く

声合はせ歌へば胸の迫り来る若かりし母まぶたに浮かびて

この広きコンサート場埋めつくす集ひとせむとの願ひかなひぬ

㈱渡辺組　渡辺　丈

夏の日に急ぎて戻るたのしみは一息に飲む冷えたるビール

神奈川県立小田原高等学校（定時制）教諭　原川猛雄

苔むせる太き神木空に伸び見上ぐるばかりに枝葉茂らす

八百年の風雨に耐えて御社を護りたまふか霧島メアサ

福岡銀行　久保貴史

赤身帯び奇しくそびゆる高千穂に神々の生命生きづくごとし

㈱はせがわ　島津賢一

清らかな風を受けつつ見る松は神話の昔に我をいざなふ

第二十二班

板橋中央総合病院　最知浩一

五十年前の第一回合宿を偲びて

変はり果てし祖国の姿たださむと集ひ給へり先輩方は

五十年も積み重ね来し合宿に集へるよろこびしみじみ思ふ

しきしまの大和心の尊さを学びゆきたし集ふみ友と

㈱伊佐ホームズ　吉野正史

そびえたつ高千穂の峰見上ぐれば空透き通り心洗はる

維新の志　佐伯岳大

神降りたまふ高千穂河原にて

神さぶる高千穂河原に吹く風に日本の始まる神風と知る

㈱はせがわ　馬渡周二

さざれ石を前にして

刻を経て小さき石の集ふ様日の本築く君臣の義ぞ

㈱ワイドレジャー　豊福洋介

参拝後、おさなごを見て

きざはしを降りて始むるかけっこで兄振り返り妹を待ちをり

㈱日本植生　長船将宏

貸切りバスの車窓ゆ

流れゆく緑の景色は違へども我ふと思ふ故郷の山

㈱九州電力　小林大志

みやまコンセールのコンサートにて

友みなと声を響かせ「荒城の月」唱ひて思ふ我がふるさとを

㈱日商保険コンサルティング　塘田一成

霧島神宮を参拝して

木もれ日の参道ぬければ荘厳の宮居見へたり畏れ敬ふ

福岡県立直方高等学校教諭　小野吉宣

霧島神宮の石段に並びて

混迷の時代にあれど一筋の清き流れはここに始まる

五十年の時代つなぎて合宿の灯はともりたりはるけくも来し

若き日ゆ導き給ふ師と並び決意新たに写し絵にとる

皇統を仰ぎ支ふる合宿をにぎのみことみそ

はなしませ
数ならぬ身にはあれども友皆と力の限りこの道行かむ

（二回目の作品）

君が代の固き絆を先達は千代に八千代と歌ひ給へり
コンクリで固めし如きさざれ石巌となりしをうつつ眺むる
大君はさざれ石なる国民を硬くつつまれ巌となりけり
君が代のかりそめならぬ国柄に安心立命しみじみ覚ゆ
美しき命の言葉にふれしたび涙あふれ来力を得たり

第二十三班

㈱はせがわ　長谷川裕一

霧島古宮址にて
日の本の始めと仰ぐ地に立ちて今を豊かに生きるは嬉し
日の本の始めと仰ぐ地に立ちぬ我が生業（なりはひ）の使命新たに

稲田事務所　稲田健二

霧島の田口にます神宮をつつむ緑地に霊気あふれつ
八百年を経たるご神木やどり木をとどめて空にそびえ立ちたり
古宮の址地に立ちて深呼吸清々しき気の身体（みぬ）的（ち）に満てり

㈱フォーネット　渡慶次直人

みやまコンセールにて「故郷」を聴きて「ふるさと」の歌繰り返し唱ふとき思ひ出さるる父母の顔

九州旅客鉄道株式会社　西　伸彦

霧島の深き緑に母思ひ自づと口つくただ「ありがとう」
みなみかぜ木々の間を吹き抜けて背中（せな）に感ずる秋の訪れ

㈱ワイドレジャー　水上　弘

霧島神宮を参拝せし折に
霧島の澄みたる空の太陽に先人達の思ひをぞ知らむ

加江田神社宮司　川越　篤

懐かしき友に会はむと胸踊り車走らす霧島の路
胸に神顕（た）ち給ひ来ぬ新しき友と夜更けに古事記読む時

元県立富山工業高等学校教諭　岸本　弘

山口秀範大兄の講義始まる
全国ゆあまたの人ら集ひ来て壇上に君は今進みゆく
今は亡き師や先輩をしのびつつこの霧島に語りゆく君
スライドも交へて君は集ひませる人らの心ひきて語るか
上つ代に天降（あも）りましける神々のみ名を告げつつ君語りゆく
大東亜のみ戦（いくさ）に散りし神々もなつかしき庭に集ひますらむ

日本植生㈱　片山　真

悠久の時を讃ふる霧島に今もかはらず人ら集へり

アサヒ飲料㈱　澤部和道

山々を彩る緑も様々に調和のとれし景色美（うる）はし

社団法人福岡県中小企業経営者協会

今屋良二

高千穂へ登る人々点々とけわしき道を青空に向ふ

松田都市開発㈱　柴戸秀之

願はくば登りてみたし霧島のみどりあふるる高千穂の峰

霧島盛夏

霧島の自然あふるる古宮跡に吹きくる風の涼しかりけり

第二十四班

農業　七夕照正

みやまコンセールの駐車場にて

続々と車来りて忙しく駐車の手配が楽しかりけり

来場者少なきことをおそれしも満車になりてうれしかりけり

熊本市役所減量美化推進課　折田豊生

霧島神宮にて

石の上古事記の物語思ひ出でつつ参道をゆくおごそかにそびえて立てるみやしろの庭の神杉仰ぎ見るかな

かしの実のひとつ心にみ友らと詣でけるかな宮の広前

おのもおのも思ひを込めて宮前にみ友ら何を祈りますらむ

夏木立みづ枝わづかに揺らしつつ迎へたまふは風の神かも

八百万千万の神護り来しみ国を我らも護りゆきなむ

高千穂河原にて

赤松の木立の緑うるはしく目に映るかな古き宮跡

小石原そぞろ踏みつつ参り路をゆけば高原風わたるなり

仰ぎ見る御鉢の頂赤茶けて青空を背に神さびて見ゆ

左手のなだりやさしき山かげは中岳なるらし心和むも

彼方なる薩摩国原遠がすみバスはひたすら山くだりゆく

社会福祉法人玄洋会昭和学園　原崎智仁

霧島合宿

尊敬するふるさとの先達にあいさつし話しはできずもうれしさおぼえぬ

㈱アルバック　北浜　道

高千穂河原にて

しめ縄に囲まれたりし松の木は御神木との話しを伺ふ

御神木はおごそかにしていにしへの天降りましける様の偲ばる

㈱九州旅客鉄道　河合宏文

吹きわたる風すがすがし古宮の社しのびてのぼりゆく道に

㈱はせがわ　内田雅啓

初歌や字余り苦しき我が筆に時間は足らずにバスは走りぬ

㈱ワイドレジャー　中原良朗

前よりも上手に自転車動かして笑顔を見せる我が子かはゆし

㈲Ｍａ－Ｎｅｔ　島津拓哉

あまたなる講義を受けて短歌作り知らざる我を思ひ知るかも

㈱九州電力　照山太一

紺碧の空に浮びし高千穂のふもとなる松に心うたるる

第二十五班

国立独立行政法人国立病院機構都城病院

小柳左門

山本健二氏のコンサートリハーサルを聴く

人気（ひとけ）なき小暗きホールに響くかな朧月夜の調べやさしく

リハーサルの歌にはあれど真剣に前を見つめて歌ひたまひき

言の葉を確かむるごと心こめ歌ひたまへり荒城の月

うちよする波のごとしも「海行かば」ピアノ伴奏の音の調べは
「海行かば」聞けばかなしも戦（たたかひ）に身を捧げにし人を思ひて
㈱石村萬盛堂　石村僖悟

山本健二氏の「唱歌のコンサート」にて情あふるる詞とメロディーと澄みわたるバリトンの声の心揺さぶる
えも言へぬ懐かしき思ひ込みあげて目もとの熱き涙拭ぐへり
㈱九州電力　新宅　悟

広がれる高千穂河原の景色をば雲の上より眺めてみたし
㈱井筒屋小倉店テナント統括部　山口道生

三十年ぶりの合宿教室に参加して
過ぎし日の感動を再び求めんと我は来りぬ霧島山へ
いただきし参加者名簿に連ねらるる懐しき名に心をどりぬ
昔日の思ひを頼りに友の顔捜せどいまだ見当たらざりけり
「山口君」とふ声かける方振り向けば笑顔に昔の面影おぼゆ
受付のアルバイト諸君を見て
受付で名札手渡す若者に三十年前のわが身思ほゆ
ガリ版のインクのにおひなつかしく友の作りし名簿受け取る
我もまた父に連れられ勤めたる事務局の日々思ひ出されぬ
九州大学大学院教授　清水昭比古

立つ雲を知覧の方に見つめつつ機影の消えし時を偲びぬ
㈱石村萬盛堂　河口太郎

初めての参加に心ゆらげども時たつうちに楽しさ増しゆく
㈳福岡県中小企業経営者協会　藤岡健太郎

七十路の声の力に我も人も引き入れられつつ共に歌ひぬ
力強く師の歌声を聴きながら集ひし人と共に歌ひぬ
㈱九州旅客鉄道　古川眞也

霧島であらためて知る日の本の歴史の深みと言葉の重み

第二十六班

つくば開成高等学校　川原秀之

新しきも古きお杜も心より頭も垂れて拝（おろが）みまつる
ときふりし杉の木立の参道を一人歩めば心洗はる
ときふりし立てる木立の変はらざる姿に我も習ひたく思ふ
西部ガスエネルギー㈱　馬立幸祐

霧島の神話の古里めぐりつつ緑の豊かさ心にしみ入る
㈱ワイドレジャー　白石靖幸

うすぐらき参道ゆけば美しき霧島神宮まなかひに見ゆ
箱根町教育委員会　岩越豊雄

皇孫の尊天降りし高千穂のふもとに集ひて学ぶかしこさ
皇孫の尊天降りし赤さびし高千穂の峰神さびて見ゆ
拓殖大学日本文化研究所客員教授　山内健生

井尻千男先生の御講義を聞きて
「共同体」の意味と価値とを説きたまふみ言葉つよくわが胸を打つ
あつくあつく深きみ懐ひ説きたまふみ言葉強く胸にしみ入る
「民主化」といふなら触れよ十七条の憲法伝へしわが国なると
五箇条の御誓文掲げしわが国に「民主化」などとさし出がましもと

教基法も現憲法もわが国の歴史のつながり毀つ仕掛けぞと

日の本の国に生れしし運命を愛さずありては国防かなはずと

日本植生㈱　谷尻良太

研修の間に思はず浮かび来る愛しき吾子はいかにあるかと

大村郵便局郵便課　橋本公明

コンサート「唱歌のこころ」でバリトン歌手山本健二氏の歌を聞きて

眼とぢこころをこめて歌はるる美しき声に心引き込まれゆく

眼とぢ一語一語を大切に心をこめて歌ひゆかれる

㈱はせがわ　木内良一

永遠の刻の流るる神の郷この高千穂で同志らと出逢ひぬ

神世より刻の流るる高千穂ではるか太古のこころを感ずる

神降りし山に太古の風吹けば永遠の時間今を感ずる

第二十七班

アートプロダクツ・プランニング　山本雄大

吹き抜ける風にさざめく森の木のきらめきたるは命の輝き

東レエンジニアリング　結川高志

山本健二先生の唱歌「故郷」をお聞きして

山や川に遊びし事を思ひ出し涙のにじむ「故郷」の歌

元日立製作所勤務　日高廣人

なつかしき神話の里に集ひ来し若き友らと語る楽しさ

防衛庁装備本部長崎支部　鎹　信弘

霧島神宮にて

この集ひ始めましける御思ひを偲びつつ登る神宮の道

五十年を経れども未だわが国の悩みは深し努めざらめや

さざれ石のいはれ語らるる師の声に耳澄ましつつ坂のぼりゆく

八百年を経たる大杉見上ぐれば苔生す枝々神さびて見ゆ

神々の天降らるる様偲びつつ空にそびゆる御山仰ぎぬ

高千穂河原を下り来たれば涼風の木々の緑を吹き抜けて来ぬ

小鳥鳴く水無川辺歩みゆけば並み生ふ松の緑美し

㈳福岡県中小企業経営者協会　角田忠房

朝もやに光さしそめ湯けむりの立ちのぼりゆく神の山々

九州電力㈱　野田　徹

千はやぶる神話の里で語らへば心にしみる皇国のルーツ

九州旅客鉄道㈱　法常直哉

車窓より望む緑の色どりは木洩れ日でなほ鮮やかになる

笹川能孝

先人の深き想ひをしのびつつ学びてゆかむ友らと共に

國學院大學大学院在学　大岡　弘

高千穂河原・神籬斎場にて

板に記す説明文中眼につきぬ「神籬斎場」四文字の熟語

松の木の立ちてありけり木枠内岩の祭壇手前に置きて

畏くも紙垂の示せる神域はまがふことなきこれぞ神籬

この山に三種の神器授かりてニニギの命の天

降りましししとふ
忍日の命久米の命の仕へ奉る行幸の列の偲ばるるなり
二つ峰つらなりそびゆる山容の神さびて見ゆ古偲べば

湯亭こんや　青砥誠一

霧島神宮に参拝して
瓊瓊杵なる神祭るらし神前に頭を垂れて祈りを捧げし
緑濃き鎮守の森に囲まれし朱に塗られし社美し
玉石を踏みしめながら神前に歩みてゆくは畏こかりけり

第二十八班

㈱マネジメントシステム評価センター
契約審査員　山本博資

合宿地へ向かふ車中にて
見おろせば夕ぐれせまる霧島の山の谷間に雲立ちわたる

合宿地の朝
朝日さす殿湯の里の山あひに真すぐにのぼる湯けむりの見ゆ

産経新聞社　大内保治

霧島神宮に詣でて
涼風に蝉鳴く声にふりむきてあおぎみるかな高千穂の峰

㈳福岡県中小企業経営者協会　内田雄一郎

高千穂河原にて
古宮へ誘ふ道を歩きつつ青空を見上げてすがすがしけり

㈱はせがわ佐賀店　藤田拓朗

霧島神社にて
霧島の神の社にたたずみて遠き御祖を顧りみるかな

日揮㈱　江口研治

みやまコンセールにて皆でうたふ
我も又声をはりあげ歌ひたる「ふるさと」深く心に残れり

宮崎大宮高等学校教頭　竹下鉄朗

霧島神宮古宮跡にて
いにしへの宮居の跡ゆ仰ぎ見る山はだ赤き高千穂霊峰
いく度か登りし峰よなつかしや逆鉾指して登る人あり
すめみまの天降りたまひし高千穂のみ山雄々しく静もりてあり

熊本市教育委員会　濱口知久

霧島神宮にて
流れ出づる汗を拭きつつ登りゆけば霧島の宮鮮かに見ゆ
照りつくる厳しき日射しを背にあびて社に向かひて拍手をうつ

中村学園大学教務課　岩尾祐介

霧島神宮での写真撮影
石段で五十年へぬる同胞の承継ぐ思ひカメラにおさむ

国文研

鹿児島県信用保証協会　野間口俊行

子供らが巣立ちす前にとこの宿に泊りをせしは三年前の夏
子と共に思ひ出の宿の合宿に参加せむとは思はざりけり
近づきて緊張すてふ長男に冗談言ひて心なごます

岸本弘先生の古事記の講義を聞きて
朗々と歌ふが如く読みたまふ師のみ言葉に文字おどる気す

㈱日鐵プラント設計　今林賢郁

往にし日の集ひの折りに訪ねたるここはなつ

かし高千穂河原
玉砂利をふみつつ行けば石宮の鳥居ありたり
かの日のままに
ひもろぎを囲むがごとくに繁りたる峰のふもとに緑映えたり
高千穂の峰を仰げば雲流れ神代のさまのさながらおもほゆ

（二回目の作品）

五十年のときはめぐりてふたたびもこの霧島に集ふ縁よ
逝きましし師やみ先輩（とも）らの偲ばれてひとしほ身にしむ集ひなりけり

元講談社　磯貝保博

山本健二氏による歌唱指導にて

声あげて唱ひ始めば目がしらのあつくなりゆき涙とまらず
子の母へおもひ伝ふる歌唱ふ逝きにし母の姿思ひつ

（二回目の作品）

夏空の雲にかくれし桜島今朝は雄々しく現はれにけり
秋めきし青空のもとおだやかに海も彼方に広ごりて見ゆ

㈳国民文化研究会理事長　上村和男

第一回合宿教室を偲ぶ

友どちと集ひし館なくなりて木立繁りて淋しさつのる
石段を踏みしめゆけば師の君と歩きし時の偲ばるるかな
石宮の鳥居はるけき高千穂の峯は気高く美しく見ゆ

（二回目の作品）

鹿児島の友ら集ひて昔日を偲び語らふ時ぞ楽しき
心知る友にしあらば語らひの言葉少なくただに偲びぬ

㈳国民文化研究会事務局長　稲津利比古

バリトン歌手山本健二先生の唱歌指導にて

真直ぐに背中伸ばして歌はるるそのうた声は若者のごと
我も又童心に返りて童謡を声を限りと歌ひ合はせり

伊佐ホームズ㈱　伊佐　裕

朝の集ひ

君が代を若き友らと歌ひあげ朝の集ひの始まるすがしさ

神奈川県立氷取沢高等学校教諭　大日方　学

みやまコンセールでのコンサートの折に

会場に地元の方の次々と集ひ来給ふ子供ら連れて
会場に人々満ちぬ子供らの楽しく話す声も響きて
会場の人々皆と「肩たたき」歌ひてをれば涙こみあぐ

井尻千男先生の御講義の後に

二時間の御講義の後先生は班を回られお話下さる
学生の発する問ひに一人ひとり熱を込められお答へ給ふも
ひとときの休む間もなく次々と七つの班を回られ給ひき

（二回目の作品）

藤新成信運営委員長の「合宿を顧みて」をお聞きして

壇上ゆ語りゆきます先輩のみ言葉しばしばとぎれ給ふも
集ひたる人々皆に心より感謝のみ言葉語られ給ひぬ
ひとときせの激しきご活動偲ばれて自づと涙の流れてやまず
重たかる黒き鞄を抱へつつおちこちの地を訪

ひ給ひき
先輩の熱きみ思ひなかりせばこの合宿はなきかと思はる

㈱フラワーコーポレーション　吉村浩之

「海行かば」を伴奏される黒尾友美子先生のお姿を後方より拝見、拝聴して
鍵盤の左手の先より湧きいづる波動のごとき低き旋律
おごそかな地鳴りのごとき旋律は亡き英霊の慟哭の響

（二回目の作品）

慰霊祭の準備終りて
祭壇を作り終りてたたずめば森の奥より鹿鳴の声

㈱日章工業　藤新成信

合宿運営本部にて
一日でもと遠き道のり駆せくるる友の心のあたたかきかな
高千穂河原にて
神さぶる古宮祉にまうづればすずしき風の吹き渡りけり

（二回目の作品）

霧島の神のご加護によりてこそこの合宿は無事に終へたり
行く道はよしけはしくも来年の合宿教室の今より待たるる

元電源開発環境立地本部本部長代理　長内俊平

霧島神宮早朝参拝
国の基ひらき給ひし皇孫をいつき給へるみあらか仰ぐ
霧島のしづもる丘の杉むらに千木高そりて宮居ますかも
はるばると来つる甲斐ありてみ友らと朝のしじまに拍手をうつ
青砥君（二十年前になくなった友人）と共に詣づる心地して語りかけつつぬかづきまつりぬ

（二回目の作品）

み友らと枕を並べて寝ねしこと永久の記念とわが胸に生く
星一つ輝く丘に営みしみたままつりの魂にぞ残る
再びはみることあらじ桜島朝の光に煙吐く姿も
いまはとて西に東に別れゆく友らすくよかにまさきくあれこそ

霧島神宮の旧きみ跡を詣でて

元高校教諭　末次祐司

木洩れ日のうすぐらき林登り来て眼前に仰ぐ高千穂の峰
空高く天つみ空ゆ神々の天降りし給ふ姿偲べり

（二回目の作品）

霧島神宮の旧宮趾に詣でて
痛みたる膝かばひつつ小砂利ふみ旧宮趾にわれは詣でり
まなかひに聳ゆる御山仰ぎつつ遠き太古を偲びまつれり
葦原の瑞穂のくにに天降ります皇神のみ姿偲びまつれり

㈳国民文化研究会会長　小田村四郎

高千穂河原（元宮跡）より高千穂峰を仰ぐ
照りつくる日射し浴びつつ高千穂のこごしき峰をよづる人あり
いただきの天の逆鉾拝まむと登りゆくらむ力の限りに

みやまコンセールにて山本健二氏の歌唱を聞く

懐しき歌の数々高らかに歌ひ給ふを清しく聞きつ
日の本の高き調べをとこしへに歌ひ継ぐべし絶やすべからず

（二回目の作品）

慰霊祭

この上なきまつりのゆにはしつらへぬかげに
ホテルの協力ありきと
すめみまの天降りましとふこの地にてみた
ままつりを行ふかしこさ
天かけるみたまのふゆを祈りつつ栄ゆる御代
に戻してしがな

元九州造形短期大学教授　小柳陽太郎

霧島神宮前の写真撮影の折に

みやしろのきざはしの前に集ひたる遠き日の
うつしゑいまよみがへる
「混迷の時代に指標を求め」むとただならぬ
おもひに友らつどひき
友らみな若きおもはに集ひにしその日ゆ五十
年の月日すぎにき
すでに世を去りにしみ友らあまたありて茫々
のおもひ尽くことなしに
霧島に又新らしき若きらとつどふつどひよか
りそめならず

（二回目の作品）

藤新君を思ふ

胸迫りてことば失なひ壇上にたちつくしたる
君よいつか忘れむ

㈳国民文化研究会副会長　寳邉正久

合宿開始の日の朝、霧島神宮に詣づ

広く直く一筋につづくまゐり路を朝すがしく
友とゆくなり
皇孫瓊々杵尊天降りましし山はるかにをろ
がみまつる
生ひさびて立つ神杉のしが上に朝日さし照る
霧島の宮

第二日、高千穂河原

雲にそびゆと歌ひこし峯まなかひに黙し立つ
なり夏のみ空に
あらがねの土もあらはに二峰の高千穂空にお
だしくぞ立つ
白雲はそがひに立ちて神ながら高千穂の峯み
空にそびゆ

（二回目の作品）

合宿最終日

晴れわたる薩摩の海の桜島雲なびかせて遠く
かすめり
高千穂の嶺の朝風音もなく薩摩の日向の野に
吹き通ふ
若きどち老いも共々語りこしこれの集ひをけ
ふ別れゆく

㈳福岡県中小企業経営者協会　佐久間俊輔

河もなく原も見えない場所なれば何をもって
か河原といふなむ

（二回目の作品）

河原の鳥居に刻まれつつも埋められた文
字を読んで
埋まるとも忘れることなしその誉先人の勇姿
日露の戦

有限会社シードカルチャー　奥誠司

（二回目の作品）

神々とあそばれし地のおひさもと志ある
人々集ふ

長田事務所　長田康秀

（二回目の作品）

山本健二先生の歌唱より

霧島であふげば尊し聴き入りて想ひ出したり
卒業式を

見学班

㈱深田運送　深田康氏

澄みわたる高千穂峰に雲かかり我の心に思ひ
かさなる

九州大学大学院助教授　塚原健一

高千穂の千年の森に積む土の豊さに想ふこの
国の力

西製茶工場　豊永　誠

霧島の蒼々とした大自然心安らぐ我が故郷よ

西製茶工場　田中太一

雄大な自然の恵み清き水これが日本の宝霧島

西製茶工場　西　一登

霧山に暖き陽の光差し芽吹く緑の茶平線

事務局

KUCユニバーサルカレッジ　石丸稔晃

御神木八百年も長生きしたと初めて聞いてすごいと思った

鹿児島県立農業大学校　野間口哲広

神様を守る神様いたのかと頭に残る霧島神宮

熊本県立東稜高等学校　市原資子

霧島の地にて出逢ひし輩（ともがら）と共に守らん大和魂

㈱日本教文社　坂本芳明

みやまコンセールにて一般客の受付をして

幼くも唱歌の言葉にこもりたる美（うま）しきしらべは子に伝はらむ

（二回目の作品）

全体感想自由発表にて

思ふこと思ふがままに述べ伝ふ若き学生（とも）らの姿尊し

不二サッシ　高木雅史

飯食はず眠りもとらず裏方を支へこし人ありがたきかな

ハローワーク福岡南　古川広治

早朝の霧島神宮参拝

合宿に心くだきし人々の顔うかびけり神に祈れば

良い合宿になりますやうにと霧島の神のみまへに祈るなりけり

（二回目の作品）

慰霊祭にて

おごそかな警蹕の声消えゆきてみたまいまここにいませしと知る

映画館勤務　佐野宜志

高千穂の山頂

山道を歩いて行けば高千穂の山の頂大きく見えたり

山頂や周りの山々ながむれば空気の澄みて気持ちよきかな

（二回目の作品）

事務局で作業をしながらスピーカーで松

藤卓君の閉会宣言を聞きて

溌剌と閉会宣言したる友の声聞き疲れの取れる心地す

㈱ラック　高橋俊太郎

みやまコンセールでの準備に区切りがつきて小休止の折に

合宿のあわただしさもひと区切りついて見上ぐる緑うるはし

（二回目の作品）

合宿の裏方終り見わたせば皆の笑顔がうれしかりけり

伊佐ホームズ㈱　小柳雄平

山本健二先生の「ふるさと」を聴きて

先生の歌ひ給ひし御（おん）声は猛々しくも美しくもあり

わが里の家族の顔を思ひつつみ歌を聴けば涙あふるる

立てにける志をし果たさむと我のつとめを励みてしがな

㈱寺子屋モデル　横畑雄基

霧島神宮での集合写真

半世紀前先生方もこの場所で仲間（とも）らと写真を残したまへり

そのこころ伝へ継がれて今ここに我ら集ふはうれしかりけり

高村光紀

久々にまみえし友は若き日の優しきまなざし今も変らず

山本伸治

合宿を精魂込めて始めにし霧島の地に先達しのびぬ

（二回目の作品）

騒がしき中にも届く御講義に身を乗り出して耳そば立てぬ

鹿児島県農協中央会　定栄安治

唱歌でたどる日本のこころコンサートにて山本健二氏の歌を聞く

さはやかに澄みたる声のふるさとの歌ぞしみいる心地するなり

山川を父母を偲びてふるさとの歌うたひけり友らとともに

（二回目の作品）

ホテル霧島キャッスルの朝

あちこちゆ鳴き始めたりひぐらしのかなでる中に夜は明けにけり

合宿地に寄せられたお歌

大町憲朗

新しきみ友集ひて新しき力うまれることのかしこさ

みづからの御子らを合宿に伴はれし友らの熱き心思ひぬ

かへがたき合宿の経験今も尚受け継がれ行く命思ひぬ

亡き友らのみこころも今合宿に集はれしことかと偲びまつらむ

友ら求め勧誘につとめ心くだきし藤新兄のみ心思ひぬ

あとがき

秋冷の候、皆さんにはその後如何お過ごしでせうか。霧島で共に学び、語り合つた「合宿教室」から早や三ヶ月が過ぎようとしてをります。このたびやうやくこの「感想文集」を皆さんのお手許にお届け出来る運びとなりました。この「感想文集」は、「合宿教室」の最後に走り書きしていただいた感想文と短歌を編集したものです。

編集作業は、まづ、それぞれの班の班長又は班付の方々（国民文化研究会会員）に、感想文と第二回の創作短歌を添削・編集していただくことから始めました。

皆さんお一人お一人の心のこもつた文章・短歌を丹念に読み返し、編集してゆくことは、神経を使ひ、時間のかかる作業ではありますが、皆さんの生々しい言葉にお一人お一人の感動を偲ぶことのできる心楽しい一時でした。

それぞれの方々に編集していただいた編集方針は以下の通りです。

㈠「感想文」について

原文をできるだけそのまま掲載することを基本方針としました。ただし、ページ数の関係で、執筆者のお心のうちが最も強く表現されてゐると思はれるところを摘録しました。文意の不明瞭なところは、執筆者のお気持ちを辿りながら、原文のニュアンスが損なはれないやう慎重に加筆しました。なほ、「かなづかひ」については、原文を尊重し、漢字及び文法上の誤りについては訂正してをります。

㈡「短歌」について

合宿では二回にわたつて短歌を作りましたが、第一回目のものは、全参加者それぞれ一首以上を洩れなく巻末の「短歌詠草」のところに収めました。また、感想文の執筆の折につくつていただいた第二回の短歌は、それぞれの感想文の末尾に入れました。感想文と同じく、文法上の誤り等は訂正いたしました。

この「感想文集」作成のためには、班長および班付の方々以外にも多くの方々の御協力を得ました。お忙しいお仕事、学業の中で、休日や終業後の時間をさいて御協力いただきました磯貝保博、髙橋俊太郎、坂本芳明、濱崎史嘉、佐野宜志、本間隆宏、高橋佑太、松藤卓の各氏に心から御礼申し上げます。

カメラ・レポートの写真は中尾国博さんにお世話になりました。

いろいろな方々のご努力によつて出来上つた「感想文集」を、ご精読下さいますやう切願します。

読み進むにつれて、「合宿教室」の三泊四日間の様々な感動が鮮明に甦つてくる事と思ひます。三ヶ月前に得た感動を単なる「思ひ出」に終はらせることなく、起居を共にした真に語りうる友との交流に、また新たな求道への出発点とされるやう切に願つてをります。なほ、ご精読後には、是非とも班長、班付の方々、班友に一筆便りを差し上げていただきたく、併せてお願ひ申し上げます。

最後に、本合宿にご協賛頂きました企業名を左に記します。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

九州電力㈱、㈱オーレック、㈱椒房庵、福岡建物㈱、㈱深田運送

（北浜　道　記）

〔資料〕
第五十一回〝合宿教室（霧島）〟感想文集
非売品
平成十八年十一月三十日発行
編集兼発行者
社団法人　国民文化研究会
理事長　上村和男
編集長　北浜道
東京都渋谷区東一―十三―一―四〇二号
〒一五〇―〇〇一一
電話　〇三―五四六八―六二三〇
FAX　〇三―五四六八―一四七〇